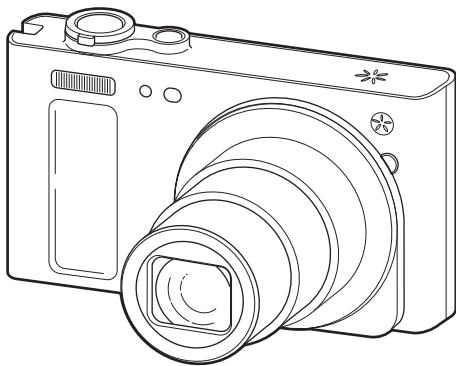
PENTAX

デジタルカメラ

Optio RZ18

使用説明書

カメラの正しい操作のため、ご使用前に必ずこの使用説明書をご覧ください。

はじめに

このたびは、ペンタックス・デジタルカメラOptio RZ18をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本製品の機能を十分活用していただくために、ご使用になる前に本書をよくお読みください。また本書をお読みになった後は必ず保管してください。使用方法がわからなくなったり、機能についてもっと詳しく知りたいときにお役に立ちます。

著作権について

本製品を使用して撮影した画像は、個人で楽しむなどの他は、著作権法により、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物の中には、個人として楽しむ目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

商標について

SDXCロゴは、SD-3C,LLCの商標です。

ArcSoftの名称及びそのロゴ は、ArcSoft Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。Windows Vistaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Macintosh、Mac OSは、米国およびその他の国々で登録されているApple Inc.の商標です。

本製品はPRINT Image Matching IIIに対応しています。PRINT Image Matching対応プリンタでの出力及び対応ソフトウェアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。なお、PRINT Image Matching IIIより前の対応プリンタでは、一部機能が反映されません。「PRINT Image Matching」「PRINT Image Matching II」「PRINT Image Matching III」に関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。

「Eye-Fi」、「Eye-Fi *connected*」および Eye-Fiロゴ は Eye-Fi, Inc.の登録商標です。

その他、記載の商品名、会社名は各社の商標もしくは登録商標です。なお、本文中にはTM、®マークは明記していません。

本機を使用するにあたって

- テレビ塔など強い電波や磁気を発生する施設の周囲や、強い静電気が発生する場所では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが誤作動を起こす場合があります。
- 画像モニターに使用されている液晶パネルは、非常に高度な精密技術で作られています。99.99%以上の有効画素数がありますが、0.01%以下の画素で点灯しないものや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。なお、記録される画像には影響ありません。
- カメラを明るい被写体に向けると、画像モニターに光の帯が現れることがあります。この現象はスミアといい、故障ではありません。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って、正しい取り扱いをしてください。

本文中のイラストおよび画像モニターの表示画面は、実際の製品と異なる場合があります。
本書ではSDメモリーカードならびにSDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードのことをSDメモリーカードと表現しています。

ご注意ください

この製品の安全性については充分注意を払っておりますが、下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。

警告　このマークの内容を守らなかった場合、人が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。

注意　このマークの内容を守らなかった場合、人が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性があることを示すマークです。

本体について

警告

- カメラの分解・改造などをしないでください。カメラ内部に高電圧部があり、感電の危険があります。
- 落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に露出部分に手をふれないでください。感電の危険があります。
- ストラップが首に巻き付くと危険です。小さなお子様がストラップを首に掛けないようにご注意ください。
- 使用中に煙が出ている・変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止し、バッテリーまたはACアダプターを取り外したうえ、サービス窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

注意

- ストロボの発光部に手を密着させたまま発光させないでください。やけどの恐れがあります。
- ストロボの発光部を衣服などに密着させたまま発光させないでください。変色などの恐れがあります。
- このカメラには、使用していると熱を持つ部分があります。その部分を長時間持ち続けると、低温やけどを起こす恐れがありますのでご注意ください。
- 万一液晶が破損した場合、ガラスの破片には十分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付いたり、口に入らないよう十分にご注意ください。
- お客様の体質や体調によっては、かゆみ、かぶれ、湿疹などが生じることがあります。異常が生じた場合は、直ちに使用をやめ、医師の診察を受けてください。

バッテリー充電器とACアダプターについて

警告

- バッテリー充電器とACアダプターは、必ず専用品を指定の電源・電圧でご使用ください。専用品以外をご使用になったり、指定以外の電源・電圧でご使用になると、火災・感電・故障の原因になります。AC指定電圧は、100-240Vです。
- 分解したり、改造したりしないでください。火災・感電の原因となります。

- 使用中に煙が出ている・変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止し、当社お客様相談センター、またはお客様窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 万一、内部に水などが入った場合は、当社お客様相談センター、またはお客様窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 使用中に雷が鳴り出したら、電源プラグを外し、使用を中止してください。機器の破損、火災・感電の原因となります。
- 電源プラグにほこりが付着している場合は、よく拭いてください。火災の原因となります。

⚠ 注意

- ACコードの上に重いものを載せたり、落としたり、無理に曲げたりしてコードを傷めないでください。もしACコードが傷んだら、当社お客様相談センター、またはお客様窓口にご相談ください。
- コンセントに差し込んだまま、ACコードの接続部をショートさせたり、触ったりしないでください。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 強い衝撃を与えたり、落としたりしないでください。故障の原因となります。
- バッテリー充電器で充電式リチウムイオンバッテリー D-LI92以外のバッテリーを充電しないでください。他のバッテリーを充電しようとすると、発熱や爆発、充電器の故障の原因となります。

バッテリーについて

⚠ 警告

- バッテリーは乳幼児の手の届かない所に保管してください。特に、口に含むと感電の恐れがありますのでご注意ください。
- バッテリーの液が目に入ったときは、失明の恐れがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。

⚠ 注意

- このカメラでは、決められたバッテリー以外は使用しないでください。バッテリーの爆発、発火の原因となることがあります。
- バッテリーは分解しないでください。無理に分解をすると、爆発や液漏れの原因となります。

- 万一、カメラ内のバッテリーが発熱・発煙を起こしたときは、速やかにバッテリーを取り出してください。その際は、やけどに十分注意してください。
- バッテリーの「+」と「−」の接点に、針金やヘアピンなどの金属類が触れないようにご注意ください。
- バッテリーをショートさせたり、火の中へ入れないでください。爆発や発火の原因となります。
- バッテリーの液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こす恐れがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- 発熱、発火、爆発の恐れがありますので、バッテリー使用の際は、下記注意事項を必ずお守りください。
  1. 専用充電器以外では絶対に充電しないこと。
  2. 火中投入、加熱、高温での充電・使用・放置をしないこと。
  3. 変形や、ショートさせたり分解・改造をしないこと。

カメラや付属品は乳幼児の手の届かない場所に

警告

- カメラや付属品を、乳幼児の手の届く場所には置かないでください。
  1. 製品の落下や不意の動作により、傷害を受ける恐れがあります。
  2. ストラップを首に巻き付け、窒息する恐れがあります。
  3. バッテリーや SD メモリーカードなどの小さな付属品を飲み込む恐れがあります。万一、飲み込んだと思われる場合は、直ちに医師にご相談ください。

取り扱い上の注意

お使いになる前に

- 海外旅行にお出かけの際は、国際保証書をお持ちください。また、旅行先での問い合わせの際に役立ちますので、製品に同梱しておりますワールドワイド・サービス・ネットワークも一緒にお持ちください。
- 長時間使用しなかったときや、大切な撮影（結婚式、旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能しているかを確認してください。万一、カメラや記録媒体（SDメモリーカード）などの不具合により、撮影や再生、パソコン等への転送がされなかった場合、画像や音声などの記録内容の保証はご容赦ください。

バッテリー・充電器について

- バッテリーをフル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。特に高温下での保管は避けてください。
- バッテリーを長期間カメラに入れたままにしておくと、微小の電流が流れて過放電になり、電池寿命を縮める原因となります。
- 充電は使用する当日か前日にすることをお勧めします。
- 本製品に付属しているACコードは、バッテリー充電器D-BC92専用です。他の機器に接続してお使いにならないでください。

持ち運びとご使用の際のご注意

- 高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでカメラを車内に放置しないでください。
- 強い振動、ショック、圧力などを加えないでください。オートバイ、車、船などの振動からは、クッションなどでくるんで保護してください。
- カメラの使用温度範囲は0～40℃です。
- 高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることもありますが、これは液晶の性質によるもので、故障ではありません。
- 急激な温度変化を与えると、カメラの内外に結露し水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
- ゴミや泥、砂、ほこり、水、有害ガス、塩分などがカメラの中に入らないようにご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、よく拭いて乾かしてください。
- 破損や故障の原因になりますので、画像モニターの表面を強く押さないでください。
- カメラを腰のポケットに入れた状態で椅子などに座ると、カメラが変形したり画像モニターが破損する恐れがありますのでご注意ください。
- 三脚使用時は、ねじの締め過ぎに十分ご注意ください。
- このカメラはレンズ交換式ではありません。レンズの取り外しはできません。

お手入れについて

- 汚れ落としに、シンナーやアルコール、ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
- レンズのほこりは、きれいなレンズブラシで取り去ってください。スプレー式のブロアーは、レンズを破損させるおそれがありますので、使用しないでください。

保管について

- 防腐剤や有害薬品のある場所では保管しないでください。また高温多湿の場所での保管は、カビの原因となりますので、乾燥した風通しのよい場所に、カメラケースから出して保管してください。

その他

- 高性能を保つため、1～2年ごとに定期点検にお出しいただくことをお勧めします。
- SDメモリーカードや内蔵メモリーに記録されたデータは、カメラやパソコン等の機能による消去やフォーマットを行っても、市販の修復ソフトを使用すると、データを再び取り出せることがあります。データの取り扱いや管理は、お客様の責任において行ってください。
- SDメモリーカードには、ライトプロテクトスイッチが付いています。スイッチをLOCK側に切り替えると、新たにデータを記録できなくなり、カメラやパソコンで削除やフォーマットができなくなります。

  画像モニターには🔑と表示されます。
- カメラ使用直後にSDメモリーカードを取り出すと、カードが熱くなっている場合がありますのでご注意ください。
- SDメモリーカードへのデータの記録／再生中、またはUSBケーブルでパソコンと接続中は、必ずバッテリー／カードカバーを閉じ、カードを取り出したり電源を切ったりしないでください。データの破損やカードの破損の原因となります。
- SD メモリーカードは、曲げたり強い衝撃を与えないでください。また、水に濡らしたり、高温になる場所に放置しないでください。
- SDメモリーカードのフォーマット中には絶対にカードを取り出さないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。

- SDメモリーカードに保存したデータは、以下の条件で消去される場合がありますのでご注意ください。消去されたデータについては、当社では一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
  (1) 使用者がSDメモリーカードの取り扱いを誤ったとき
  (2) SDメモリーカードを静電気や電気ノイズのある場所に置いたとき
  (3) 長期間カードを使用しなかったとき
  (4) SDメモリーカードにデータを記録／読み出し中にカードを取り出したり、バッテリーを抜いたとき
- 長期間使用しない場合は、保存したデータが読めなくなることがあります。必要なデータは、パソコンなどへ定期的にバックアップをするようにしてください。
- 静電気や電気ノイズの発生しやすい場所での使用や保管は避けてください。
- 急激な温度変化や、結露が発生する場所、直射日光のあたる場所での使用や保管は避けてください。
- 一部の書き込み速度の遅いSDメモリーカードでは、カードに空き容量があっても動画撮影時に途中で撮影が終了したり、撮影／再生時に動作が遅くなる場合があります。
- SDメモリーカードご購入の際は、あらかじめ動作確認済みのものであるかを当社ホームページでご確認いただくか、お客様相談センターにお問い合わせください。

目次

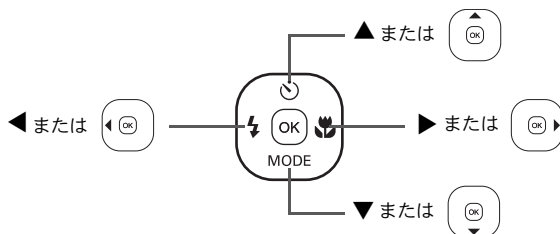
準備 31

機能共通操作 51

撮影 65

画像の再生と消去 133

画像の編集と印刷 157

本書では、十字キーの操作を次のように表記しています。

操作説明中で使用されている表記の意味は次のとおりです。

☞	関連する操作の説明が記述されているページを記載しています。
メモ	知っておくと便利な情報などを記載しています。
注意	操作上の注意事項などを記載しています。
📷モード	静止画と動画の撮影をするモードです。本書では、静止画を撮影するモードを「静止画撮影モード」、動画を撮影するモードを「🎥モード」と表記します。
▶モード	静止画と動画、音声を再生するモードです。

本書の構成

本書は、次の章で構成されています。

1 準備

お買い上げ後、写真を撮るまでの準備操作を説明しています。撮影をはじめる前に必ずお読みになり、操作をしてください。

2 機能共通操作

各ボタンの機能やメニューの設定方法など、各機能に共通する操作を説明しています。詳しい内容は、3章以降をご覧ください。

3 撮影

さまざまな撮影方法や、撮影に関する機能の設定方法を説明しています。

4 画像の再生と消去

静止画や動画をカメラやテレビで再生する方法と、カメラから消去する方法を説明しています。

5 画像の編集と印刷

撮影した静止画の印刷や、カメラでの編集方法を説明しています。

6 音声の録音と再生

音声の録音や静止画に音声（ボイスメモ）を追加する方法、音声の再生を説明しています。

7 設定

カメラの機能の設定方法を説明しています。

8 パソコンと接続する

カメラとパソコンのつなぎ方や、付属ソフトウェアのインストール方法と概要を説明しています。

9 付録

困ったときの対処方法や、別売品のご紹介などをしています。

このカメラの楽しみ方

Optio RZ18では、一般的な写真撮影のほか、いろいろなシーンに応じたバリエーションに富んだ撮影方法がお楽しみいただけます。ここでは、Optio RZ18の特長的な楽しみ方をご紹介します。操作説明のページもあわせてご覧いただき、ぜひOptio RZ18の楽しさを味わってください。

撮影も再生も、カメラがナビゲートしてくれる！

Optio RZ18は、少ないボタンで操作ができるカンタン設計。いろいろな撮影シーンで最適な設定を選べる「撮影モード」（p.69）も、再生・編集を楽しむための「再生モード」（p.138、p.158）も、わかりやすいアイコンを選ぶだけでOK。各モードの機能や使い方も、画像モニターに表示されるガイドで確認できる親切設計です。

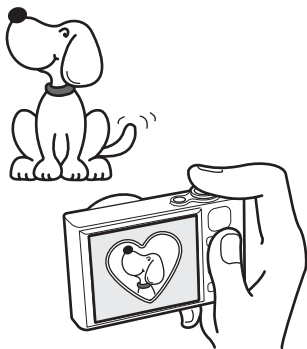
- **モードパレットでモードを選ぶと、その説明を表示（p.69、p.138）。**
- **グリーンモードを使うと、標準設定で手軽に撮影可能（p.76）。**

人物撮影が得意！

Optio RZ18は、人物の顔を検出してピントや露出を合わせる「顔検出機能」を搭載。最大で32人の顔を検出（※）するので、集合写真もキレイに撮影できます。また、人物が笑顔になったら自動的にシャッターを切ったり、まばたきしたことをお知らせすることもできるので、ベストショットがたくさん撮れます。さらに再生時には、人物の顔を順に拡大して再生できるので、表情の確認も簡単です。

※画面上に表示できる顔検出枠は、最大31個です。

- **人物の顔を検出する顔検出機能（p.72）。**
- **人物をキレイに撮影する様々な撮影モード（p.82）。**
- **みんなの顔が確認しやすい顔アップ再生（p.146）。**

いろいろなフレームと合成して撮れる！

Optio RZ18では、撮影時にはお好みのフレームを選んで合成することができます（p.90）。撮影した写真にあとからフレームを合成するのも、もちろんOK！（p.167）フレームの形や大きさに合わせて被写体の位置を微調整したり、写真を縮小・拡大して合成することもできます。フレームと被写体のバランスが微妙に合わない・・・なんていうことはありません。

- **フレームを使った記念写真に。**

カレンダー形式で表示できる！

Optio RZ18では、撮影した画像や録音した音声を日付ごとにカレンダー形式で表示できます（p.137）。再生したい写真や音声を、すばやく見つけることができます。

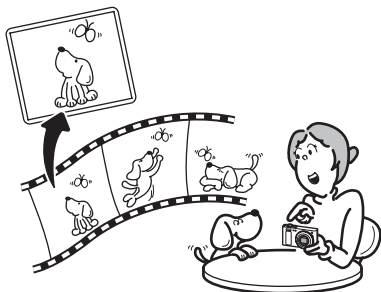
動画撮影の機能が充実！

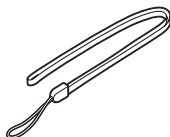
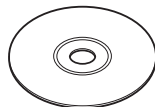
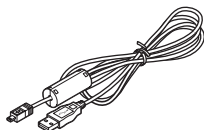
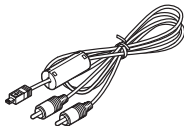
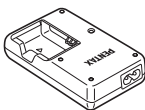
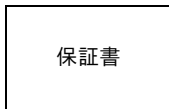
Optio RZ18では、手ぶれ補正機能（Movie SR）を使って動画撮影時のぶれを補正することができます（p.130）。また、1280×720ピクセル（16：9）の高画質なハイビジョン動画（※）も撮影できます（p.129）。

※AV機器と接続して再生した場合は、通常の解像度で出力されます。ハイビジョンで見たいときは、パソコンへ転送して再生してください。

- **お子様やペットの成長記録に、躍動感あふれる動画撮影を（p.127）。**

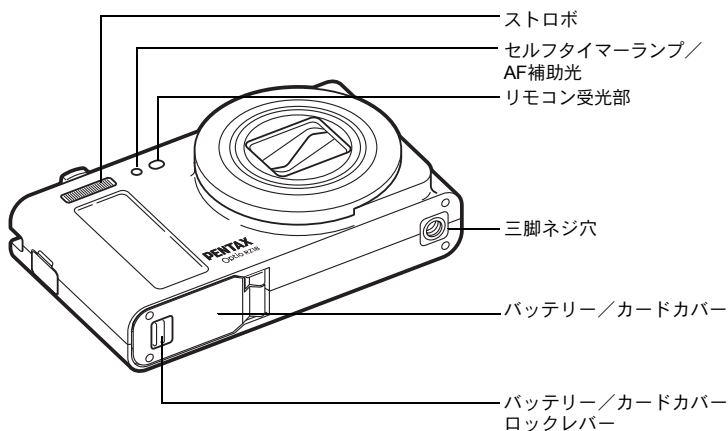
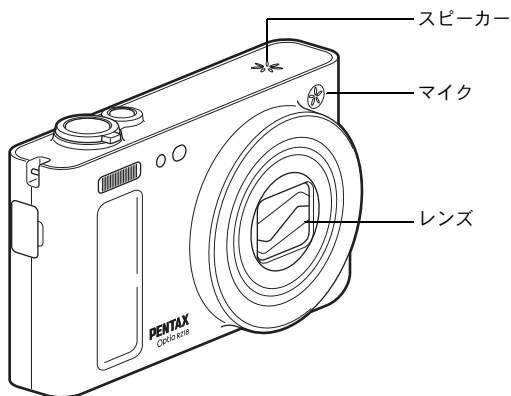
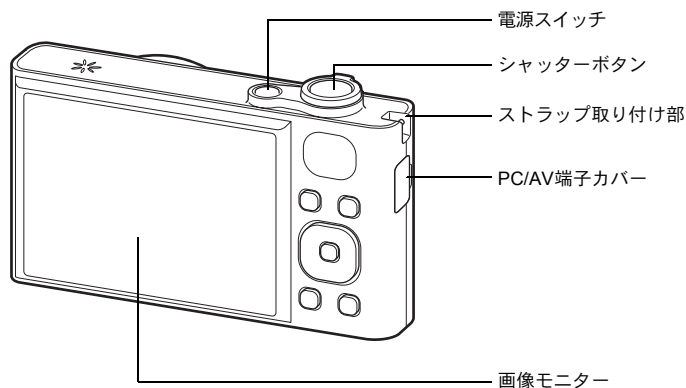
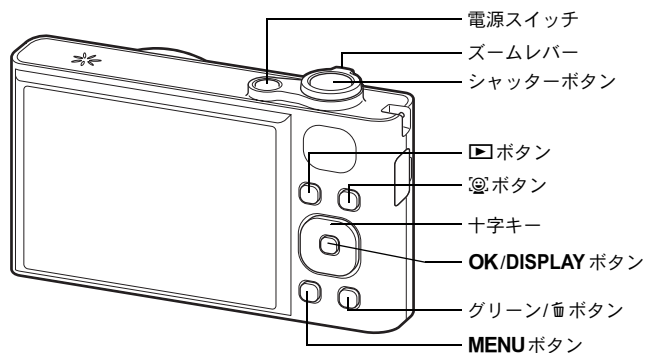
パソコンなしでも、カメラの中で楽しめる様々な機能が充実！

Optio RZ18は、パソコンに接続して画像を転送しなくても、画像の再生や編集などが楽しめる様々な機能が充実。パソコンを起動するのが面倒だな、というときでも、これ一台で撮影から画像加工、動画の編集まで楽しめます（p.158）。

- **カメラでの画像再生時に、リサイズ（p.158）、トリミング（p.159）、赤目補正（p.166）が可能。**
- **動画の分割、動画から静止画を取り出すといった動画編集が可能（p.171）。**

主な同梱品の確認

（※）の製品は、別売アクセサリーとしてもご用意しております。
（バッテリー充電器とACコードはセット（バッテリー充電器キット K-BC92J）でのみの販売となります。）
その他の別売アクセサリーについては、「別売アクセサリー一覧」（p.236）をご覧ください。

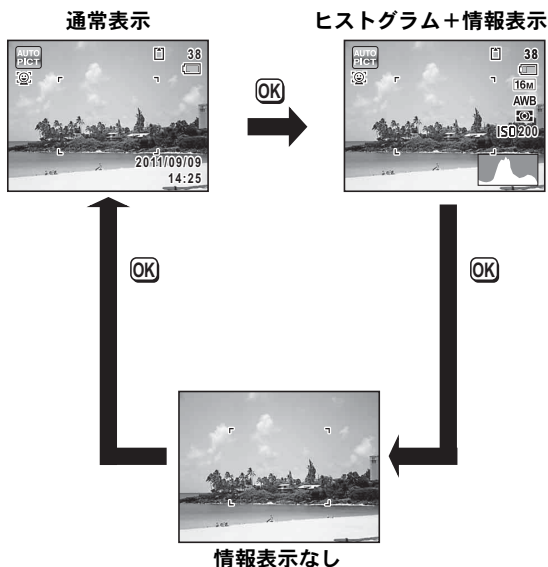
各部の名称

前面

スピーカー
マイク
レンズ
PENTAX
Optio RZ18
ストロボ
セルフタイマーランプ／
AF補助光
リモコン受光部
三脚ネジ穴
バッテリー／カードカバー
バッテリー／カードカバー
ロックレバー

背面

操作部の名称

各ボタンの機能は、「ボタンの機能を使用する」（p.52～55）をご覧ください。

画像モニターの表示

モードの表示

撮影時には、撮影条件などが表示されます。**OK/DISPLAY** ボタンを押すと、画像モニターの表示が「通常表示」「ヒストグラム＋情報表示」「情報表示なし」に切り替わります。

撮影モードが●（グリーン）モードのときは、右のように表示されます。**OK/DISPLAY** ボタンを押して表示を切り替えることはできません（p.76）。

静止画撮影モード　通常表示

1　撮影モード（p.69）
2　顔検出アイコン（p.72）
3　D-Range設定（p.111）
4　手ぶれ補正アイコン（p.118）
5　シャッタースピード
6　絞り値
7　ストロボモード（p.102）
8　ドライブモード（p.92、p.93）
9　フォーカスモード（p.104）
10 Eye-Fiアイコン（p.221）
11 デジタルズーム／インテリジェントズーム表示（p.78）
12 メモリー状態表示（p.42）
13 撮影可能枚数
14 バッテリー残量表示（p.36）
15 フォーカスフレーム（p.66）
16 現在の日時（p.48）
17 露出補正値（p.110）
18 日付写し込み設定中（p.122）
19 ワールドタイム設定中（p.193）

※ 3の表示は、「◘撮影」メニューの「D-Range設定」の設定によって変わります。

- 「ハイライト補正」が☑に設定されているとき
- 「シャドー補正」が☑に設定されているとき
- 「ハイライト補正」と「シャドー補正」の両方が☑に設定されているとき

「ハイライト補正」と「シャドー補正」の両方が□（オフ）に設定されているときは何も表示されません。

※ 4の表示は次のように変わります。

「撮影」メニューの「Shake Reduction」が「CCDシフト」または「デュアル」に設定されていて、シャッターボタンを半押ししたとき

「Shake Reduction」が「オフ」に設定されているとき（手ぶれの危険性があるときは、シャッターボタンを半押ししたときにが表示されます。）

※ 5・6は、シャッターボタンを半押ししたときのみ表示されます。

※ 9は、フォーカスモードが**AF**に設定されているときにオートマクロ機能が作動するとが表示されます（p.104）。

※ 撮影モードによっては表示されない情報もあります。

静止画撮影モード　ヒストグラム＋情報表示／情報表示なし

「ヒストグラム＋情報表示」ではA1～A19・B1が表示されます。「情報表示なし」ではB1のみ表示されます。

A1 撮影モード（p.69）
A2 顔検出アイコン（p.72）
A3 D-Range設定（p.111）
A4 手ぶれ補正アイコン（p.118）
A5 ストロボモード（p.102）
A6 ドライブモード（p.92、p.93）
A7 フォーカスモード（p.104）
A8 Eye-Fiアイコン（p.221）
A9 デジタルズーム／インテリジェントズーム表示（p.78）
A10 メモリー状態表示（p.42）
A11 撮影可能枚数
A12 バッテリー残量表示（p.36）
A13 記録サイズ（p.108）
A14 ホワイトバランス（p.112）
A15 測光方式（p.114）
A16 感度（p.115）
A17 ヒストグラム（p.28）
A18 露出補正値（p.110）
A19 日付写し込み設定中（p.122）
B1 フォーカスフレーム（p.66）
B2 シャッタースピード
B3 絞り値

※ A3の表示は、「撮影」メニューの「D-Range設定」の設定によって変わります。
- 「ハイライト補正」がに設定されているとき
- 「シャドー補正」がに設定されているとき
- 「ハイライト補正」と「シャドー補正」の両方がに設定されているとき

「ハイライト補正」と「シャドー補正」の両方が□（オフ）に設定されているときは何も表示されません。

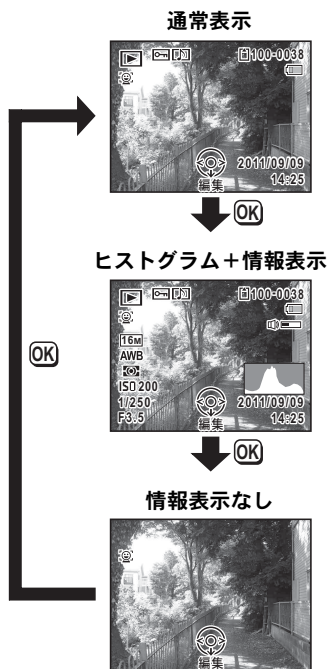
※ A4の表示は次のように変わります。
- 「撮影」メニューの「Shake Reduction」が「CCDシフト」または「デュアル」に設定されていて、シャッターボタンを半押ししたとき
- 「Shake Reduction」が「オフ」に設定されているとき（手ぶれの危険性があるときは、シャッターボタンを半押ししたときにが表示されます。）

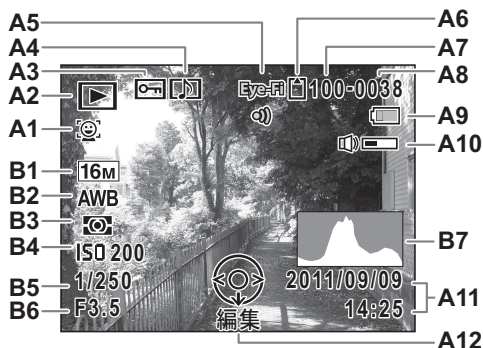
※ B2・B3は、シャッターボタンを半押ししたときのみ表示されます。

※ 撮影モードが（オートピクチャー）のときは「情報表示なし」でも、シャッターボタンを半押しすると、A1の位置に選択されたモードが表示されます（p.74）。

※ 撮影モードによっては表示されない情報もあります。

▶モードの表示

再生時には、撮影したときの画像の情報が表示されます。**OK/DISPLAY**ボタンを押すと、表示が切り替わります。

再生モード　通常表示／ヒストグラム＋情報表示
（説明のためにすべてを表示させたイラストで記載しています。）

撮影条件などを表示します。A1～A12は「通常表示」「ヒストグラム＋情報表示」のいずれの場合も表示されます。B1～B7は「ヒストグラム＋情報表示」のときにのみ表示されます。

A1　顔検出アイコン（p.72）
A2　再生モード表示
　　▶：静止画（p.134）
　　動画アイコン：動画（p.135）
　　音声アイコン：音声（p.182）
A3　画像プロテクト表示（p.152）
A4　ボイスメモ表示（p.185）
A5　Eye-Fiアイコン（p.221）
A6　メモリー状態表示（p.42）
A7　フォルダー番号（p.197）
A8　ファイル番号
A9　バッテリー残量表示（p.36）
A10　音量表示
A11　撮影日時（p.48）
A12　十字キーガイド表示
B1　記録サイズ（p.108）
B2　ホワイトバランス（p.112）
B3　測光方式（p.114）
B4　感度（p.115）
B5　シャッタースピード
B6　絞り値
B7　ヒストグラム（p.28）

※ A1は、撮影時に顔検出した場合のみ表示されます
※ A9・A11は、通常表示時に2秒間何もボタン操作をしないと消えます。
※ A10 は、動画／音声／ボイスメモ再生中に音量調節をしているときのみ表示されます（p.135、p.182、p.185）。
※ A12は「情報表示なし」時でも表示されますが、2秒間何もボタン操作をしないと消えます。また「通常表示」「ヒストグラム+情報表示」時に2秒間何もボタン操作をしないと、「編集」の文字のみ消えます。

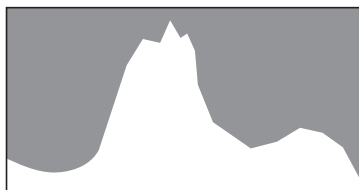
ガイド表示

操作中は、画像モニターにボタン操作のガイドが次のように表示されます。

▲	十字キー（▲）
▼	十字キー（▼）
◀	十字キー（◀）
▶	十字キー（▶）
MENU	**MENU**ボタン

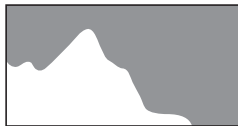
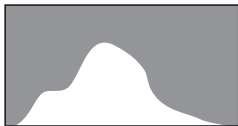
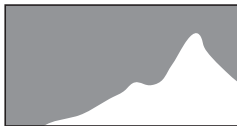
🔍	ズームレバー
OK	**OK/DISPLAY**ボタン
SHUTTER	シャッターボタン
●／🗑	グリーン/🗑ボタン
☺／☺	☺ボタン

ヒストグラム

ヒストグラムとは、画像の明るさの分布を表したグラフです。横軸は明るさ（左端は黒、右端は白）を、縦軸は各明るさごとの画素数を示します。
撮影の前後にヒストグラムの形状を見ることで、画像の明るさと明暗差が適正かどうかを確認し、露出補正や撮り直しの判断に利用できます。

露出を補正する ☞p.110

画像の明るさを見る

画像の明るさが適正な画像では、グラフの山は中央にあります。しかし、暗い画像ではグラフの山は左側に偏り、明るい画像では右側に偏ります。

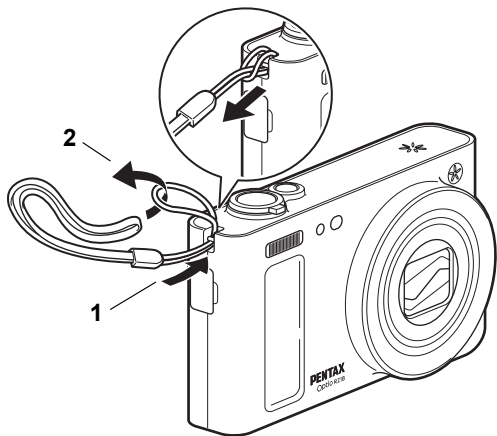
暗い画像

適正な明るさの画像

明るい画像

また、画像の中で、暗過ぎてヒストグラムの左端よりも左になる部分は真っ黒になり（黒つぶれ）、明る過ぎてヒストグラムの右端よりも右になる部分は真っ白になってしまいます（白とび）。

明暗差のバランスを見る

明暗差のバランスが取れた画像では、グラフの中央部がなだらかな山のピークになります。しかし、明暗差が激しく、中間的な明るさの部分が少ない画像では、左右に山のピークがあり、中央部分がくぼんだグラフになります。

1 準備

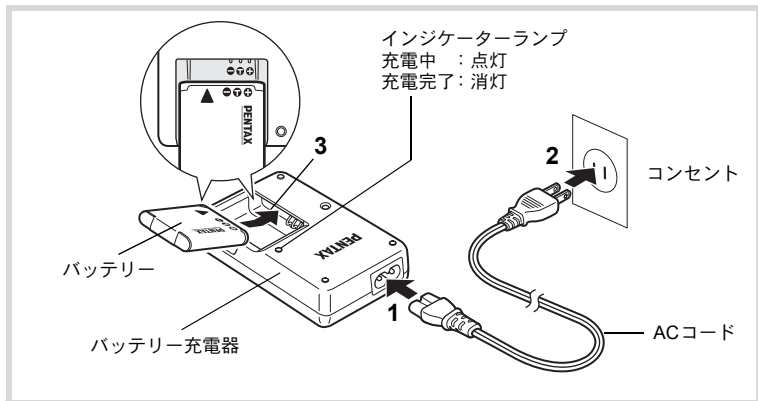
ストラップを取り付ける

付属のストラップ（O-ST104）を取り付けます。

1 **ストラップの細いひもの部分を、本体のストラップ取り付け部に通す**

2 **ストラップの端を細いひもの輪にくぐらせて引き締める**

電源を準備する

バッテリーを充電する

はじめてご使用になるときや長時間使用しなかったとき、「電池容量がなくなりました」というメッセージが表示されたときは、付属のバッテリー充電器（D-BC92）で充電式リチウムイオンバッテリー（D-LI92）を充電してください。

1 バッテリー充電器にACコードを接続する

2 ACコードをコンセントに差し込む

3 PENTAXロゴ面を上にしてバッテリーをセットする

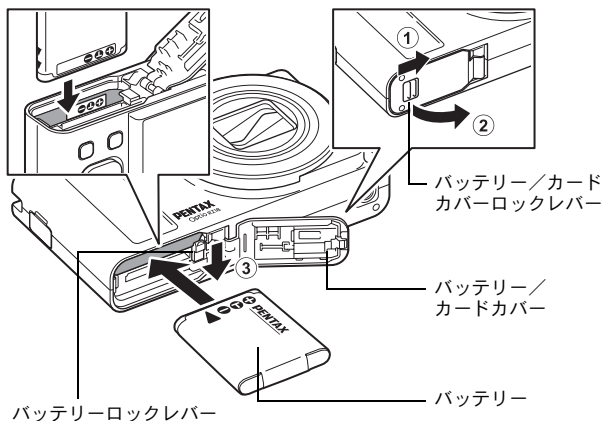
充電中はインジケーターランプが点灯します。
充電が完了すると、インジケーターランプが消灯します。

4 充電終了後、バッテリー充電器からバッテリーを取り出す

- 付属のバッテリー充電器D-BC92では、充電式リチウムイオンバッテリー D-LI92以外のバッテリーを充電しないでください。充電器の破損や発熱の原因となります。
- 正しく充電しても使用できる時間が短くなったらバッテリーの寿命です。新しいバッテリーと交換してください。
- バッテリーを正しい向きにセットしてもインジケーターランプが点灯しない場合は、バッテリーの異常です。新しいバッテリーと交換してください。

充電時間は、最大で約120分です（周囲の温度や充電状態によって異なります）。周囲の温度が0～40℃の範囲で充電してください。

バッテリーをセットする

付属の充電式リチウムイオンバッテリー（D-LI92）をセットします。はじめてご使用になるときは、バッテリーを充電してからセットしてください。

1 バッテリー／カードカバーを開ける

バッテリー／カードカバーロックレバーを①の方向にスライドさせます。手を離すと自然に②の方向に開きます。

2 バッテリーロックレバーを矢印③の方向に押しながら、バッテリーのPENTAXロゴ面をカメラのレンズ側に向けて挿入する

カメラの電池室内とバッテリーのマークの向きを合わせ、ロックされるまでバッテリーを挿入してください。

バッテリーは、必ずPENTAXロゴ面をカメラのレンズ側に向けて挿入してください。逆向きに挿入すると、カメラの電源が入らないだけでなく、故障の原因にもなります。

3 バッテリー／カードカバーを閉じる

バッテリー／カードカバーを閉じてからカバーロックレバーを①と反対方向にスライドさせ、カチッと音がしてロックされたことを確認します。

バッテリーを取り出す

1 バッテリー／カードカバーを開ける

2 バッテリーロックレバーを矢印③の方向に押す

バッテリーが少し飛び出します。落とさないように気をつけて引き抜いてください。

- 充電式リチウムイオンバッテリー D-LI92 が、このカメラの専用バッテリーです。他のバッテリーを使用すると、カメラが破損し作動しなくなることがあります。
- バッテリーは正しく入れてください。間違った向きに入れると故障の原因になります。
- 電源がONのときはバッテリーを取り出さないでください。
- バッテリーを半年以上長期保存する場合は、バッテリー充電器で30分程度充電し、本体から外した状態で保管してください。
  その後、半年から1年ごとに再充電してください。また、高温になる場所は避け、できるだけ室温以下を保持できるような場所に保管してください。
- 長期間本体にバッテリーをセットしないと、日時の設定がリセットされることがあります。
- カメラを長時間連続で使用した場合、本体やバッテリーが熱くなっていることがありますのでご注意ください。

- **静止画撮影可能枚数と動画撮影・音声録音・再生時間の目安**
  （23℃・画像モニター点灯・専用バッテリーフル充電時）

静止画撮影可能枚数※1（ストロボ使用率50％）	動画撮影時間※2	音声録音時間※2	再生時間※2
約240枚	約100分	約300分	約230分

※1　撮影可能枚数は CIPA 規格に準じた測定条件による目安であり、使用条件により変わります。（CIPA規格抜粋：画像モニターON、ストロボ使用率50％、23℃）
※2　時間は当社の測定条件による目安であり、使用条件により変わります。

- 使用環境の温度が下がると、バッテリーの性能が低下することがあります。
- 海外旅行など長期のお出かけ、寒冷地で撮影する場合や、大量に撮影する場合は、予備のバッテリーをご用意ください。

- **バッテリーの残量表示**

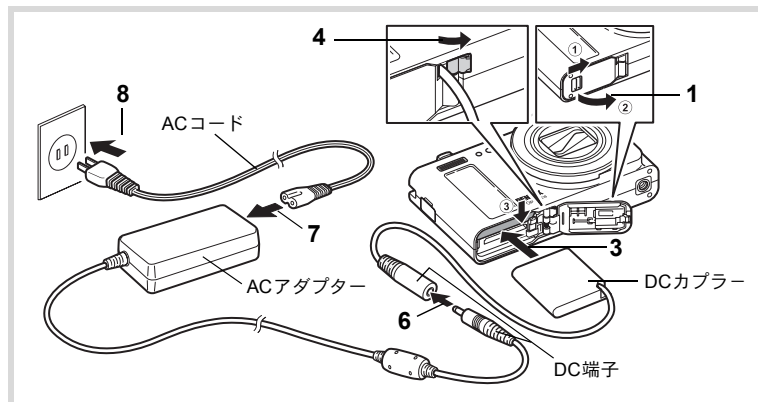
画像モニターの表示で、バッテリーの残量が確認できます。

画像モニターの表示	バッテリーの状態
（緑）	バッテリーがまだ十分に残っています。
（緑）	少し減っています。
（黄）	だいぶ減っています。
（赤）	残量がほとんどありません。
「電池容量がなくなりました」	メッセージ表示後、電源が切れます。

リサイクルについて

このマークは小型充電式電池のリサイクルマークです。
ご使用済みの小型充電式電池を廃棄するときは、端子部に絶縁テープを貼って、小型充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

ACアダプターを使用する

長時間ご使用になるときや、パソコンと接続するときは、別売のACアダプターキット（K-AC117J）のご使用をお勧めします。

1 カメラの電源が切れていることを確認してから、バッテリー／カードカバーを開ける

2 バッテリーを取り出す

バッテリー／カードカバーの開け方／閉じ方と、バッテリーの取り出し方は、p.34～35を参照してください。

3 DCカプラーを挿入する

バッテリーロックレバーを押しながら挿入し、DCカプラーがロックされたことを確認してください。

4 DCカプラーのコードを引き出す

バッテリー／カードカバーとカメラの接続部分にあるツメを引き上げて、DCカプラーのコードを外に引き出します。

5 バッテリー／カードカバーを閉じる

6 DCカプラーとACアダプターのDC端子を接続する

7 ACコードをACアダプターに接続する

8 電源プラグをコンセントに差し込む

- AC アダプターの接続／取り外しは、必ずカメラの電源を切った状態で行ってください。
- 電源と接続ケーブルはしっかりと差し込んでください。SD メモリーカードまたは内蔵メモリーにデータを記録中にケーブルが外れると、データが壊れることがあります。
- ACアダプターを使用する場合は、火災や感電に十分ご注意ください。ご使用の前に、必ず「バッテリー充電器とACアダプターについて」（p.2）をお読みください。
- ACアダプターをご使用になるときは、ACアダプターキットK-AC117Jの使用説明書をあわせてご覧ください。

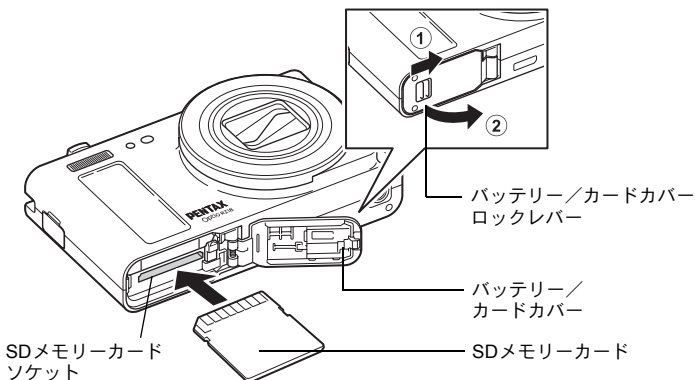
SDメモリーカードをセットする

このカメラでは、SDメモリーカード、SDHCメモリーカードまたはSDXCカードが使用できます（本書では総称して「SDメモリーカード」と表記します）。撮影した画像や録音した音声は、カメラにセットしたSDメモリーカードに記録されます。SDメモリーカードをセットしていないときは、内蔵メモリーに記録されます（p.42）。

- **未使用または他のカメラやデジタル機器で使用したSDメモリーカードは、必ずこのカメラでフォーマット（初期化）してからご使用ください。フォーマットについては「フォーマットする」（p.188）をご覧ください。**
- 新しいEye-Fiカードをはじめて使用するときは、カードをフォーマットする前にカード内のEye-Fi Managerのインストールファイルをパソコンにコピーしてからフォーマットしてください。
- SDメモリーカードのセット／取り出しは、必ずカメラの電源を切った状態で行ってください。

- 撮影できる静止画の枚数は、使用するSDメモリーカードの容量と画像の記録サイズ・画質によって異なります（p.41）。
- SDメモリーカードにアクセス中（データの記録や読み出し中）は、セルフタイマーランプが点滅します。

データバックアップのお勧め

内蔵メモリーに記録されたデータは、故障などの原因でまれに読み出しができなくなることがあります。大切なデータは、パソコンなどを利用して、内蔵メモリーとは別の場所に保存しておくことをお勧めします。

1 バッテリー／カードカバーを開ける

バッテリー／カードカバーロックレバーを①の方向にスライドさせます。手を離すと自然に②の方向に開きます。

2 SDメモリーカードのラベル面をカメラの画像モニター側に向け、カメラのSDメモリーカードソケットに挿入する

カードはカチッと音がするまでしっかり押し込んでください。カードがしっかり入っていないと、データが正常に記録されないことがあります。

3 バッテリー／カードカバーを閉じる

バッテリー／カードカバーを閉じてからカバーロックレバーを①と反対方向にスライドさせ、カチッと音がしてロックされたことを確認します。

SDメモリーカードを取り出す

1 バッテリー／カードカバーを開ける

2 SDメモリーカードを中に押し込む

SDメモリーカードが少し飛び出すので、引き抜いてください。

SDメモリーカードに記録できる枚数

撮影した画像の記録サイズなどによって、画像のファイルサイズは異なり、SDメモリーカードに記録できる枚数も異なります。

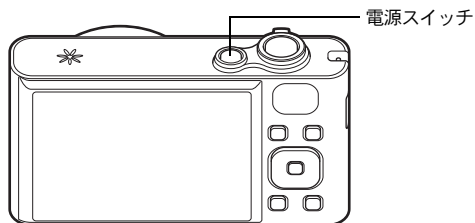
静止画の記録サイズの設定は、「📷撮影」メニューで行います。

記録サイズを選択する ☞p.108

動画の記録サイズとフレームレートの設定は、「📷撮影」メニューの「動画」で行います。

動画の記録サイズとフレームレートを選択する ☞p.129

SDメモリーカードに記録できる撮影可能枚数／時間の目安については、「主な仕様」（p.238）をご覧ください。

電源をON／OFFする

1 電源スイッチを押す

電源が入り、画像モニターが点灯します。
電源を入れると、レンズバリアが開き、レンズが前に繰り出します。
カメラの電源を入れたときに、「言語設定」あるいは「日時設定」の画面が表示された場合は、p.44の手順に従って設定してください。

2 もう一度電源スイッチを押す

電源が切れ、画像モニターが消灯してレンズが収納されます。

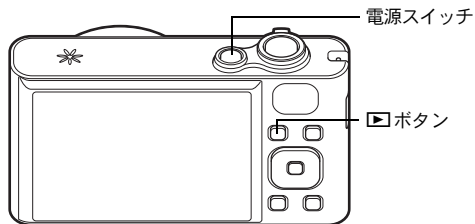
静止画を撮影する ☞p.66

カードチェック

電源を入れると、カードチェックが行われ、メモリーの状態が表示されます。

[SDカードアイコン]	SDメモリーカードがセットされています。画像や音声は、SDメモリーカードに記録されます。
[内蔵メモリーアイコン]	SDメモリーカードがセットされていません。画像や音声は、内蔵メモリーに記録されます。
[ロックアイコン]	SDメモリーカードのライトプロテクトスイッチがLOCKになっています（p.6）。画像や音声の記録はできません。

再生起動モード

再生起動モードは、撮影をしないで、すぐに画像や音声を再生したいときに使用します。

1 ▶ボタンを押しながら、電源スイッチを押す

レンズは収納されたまま画像モニターが点灯し、再生モードで起動します。

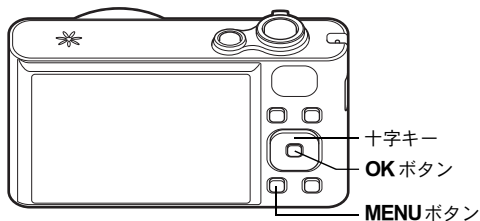
再生モードで起動後に📷モードへ切り替えるときは、▶ボタンを押すかシャッターボタンを半押ししてください。

静止画を再生する ☞p.134

初期設定をする

カメラの電源を入れて「Language/言語」画面が表示されたら、下記の「言語を設定する」の手順で言語を「日本語」に、「日時を設定する」(p.48)の手順で現在の日時を設定してください。

設定した言語と日時はあとから変更することもできます。操作方法は下記のページをご覧ください。
- 言語を変更したいとき：「表示言語を変更する」(☞p.196)
- 日時を変更したいとき：「日時を変更する」(☞p.190)

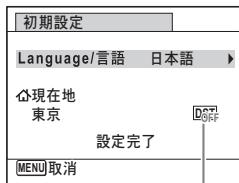
言語を設定する

1 十字キー(▲▼◄►)で「日本語」を選ぶ

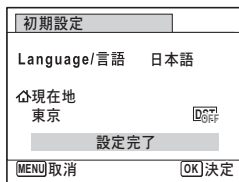
Language/言語

English	日本語	Türkçe
Français	Dansk	Ελληνικά
Deutsch	Svenska	Русский
Español	Suomi	ไทย
Português	Polski	한국어
Italiano	Čeština	中文繁體
Nederlands	Magyar	中文简体

MENU 取消　OK 決定

2 OK ボタンを押す

日本語の「初期設定」画面が表示されます。「現在地」が「東京」、「夏時間」が DST OFF に設定されていたら、手順3に進みます。
それ以外の設定になっていたら、「現在地と夏時間を設定する」（p.47）に進んでください。

初期設定
Language/言語　日本語
現在地
東京　DST OFF
設定完了
MENU 取消
夏時間

3 十字キー（▼）を2回押して「設定完了」を選ぶ

4 OK ボタンを押す

「日時設定」画面が表示されます。「日時を設定する」（p.48）に進んでください。

もし誤って日本語以外の言語を選んで次に進んでしまったら、あわてず下記の操作で、日本語の表示に設定し直してください。

●「Language/言語」画面で、日本語以外の言語を選んでOKボタンを押してしまった！

1 十字キー(▶)を押す

2 十字キー(▲▼◀▶)で「日本語」を選んで、OKボタンを押す

日本語の「初期設定」画面が表示されます。

● 手順2で外国語の設定のまま次の画面を表示させてしまった！

1 MENUボタンを押す

設定画面を終了させて、一旦、撮影できる状態にします。

2 MENUボタンを押す

「📷撮影」メニューが表示されます。

3 十字キー（▶）を押す

4 十字キー（▼▲）で「Language/言語」を選ぶ

5 十字キー（▶）を押す

「Language/言語」画面が表示されます。

6 十字キー（▲▼◀▶）で「日本語」を選ぶ

7 OKボタンを押す

日本語の「🔧設定」メニューが表示されます。

ここまでの操作で、「Language/言語」の設定が「日本語」に設定し直されました。現在地と日時を設定し直す必要がある場合は、下記のページを参照してください。

- 現在地を変更したいとき：「ワールドタイムを設定する」（☞p.193）
- 日時を変更したいとき：「日時を変更する」（☞p.190）

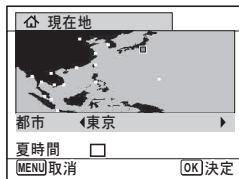
現在地と夏時間を設定する

3 十字キー（▼）を押す

選択枠が「⌂現在地」に移動します。

4 十字キー（▶）を押す

「⌂現在地」画面が表示されます。

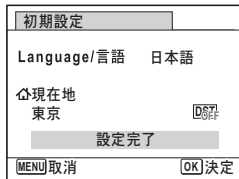
5 十字キー（◀▶）で「東京」を選ぶ

6 十字キー（▼）を押す

選択枠が「夏時間」に移動します。

7 十字キー（◀▶）で□（オフ）に設定する

8 OKボタンを押す

「初期設定」画面に戻ります。

9 十字キー（▼）で「設定完了」を選ぶ

10 OKボタンを押す

「日時設定」画面が表示されます。引き続き、日付と時刻を設定します。

初期設定で「現在地」を変更すると、ビデオ出力方式（NTSC／PAL）が選んだ都市の方式に自動的に設定されます。設定されるビデオ出力方式と、初期設定後の変更のしかたについては下記のページをご覧ください。

• 初期設定で設定されるビデオ出力方式：「都市名一覧」（☞p.235）
• ビデオ出力方式を変更したいとき：「ビデオ出力方式を選択する」(☞p.198)

日時を設定する

日付の表示スタイルと現在の日付・時刻を設定します。

1 十字キー（▶）を押す

選択枠が「年/月/日」に移動します。

2 十字キー（▲▼）で日付の表示スタイルを選ぶ

年/月/日／月/日/年／日/月/年から選択します。

3 十字キー（▶）を押す

選択枠が「24h」に移動します。

4 十字キー（▲▼）で24h（24時間表示）／12h（12時間表示）を選ぶ

5 十字キー（▶）を押す

選択枠が「表示スタイル」に戻ります。

6 十字キー（▼）を押す

選択枠が「日付」に移動します。

7 十字キー（▶）を押す

選択枠が西暦年に移動します。

日時設定
表示スタイル　年/月/日 24h
日付　▶2011/01/01
時刻　00:00
設定完了
MENU 取消

8 十字キー（▲▼）で西暦年を設定する

同様に月／日を設定します。
続いて時刻を設定します。
手順4で「12h」を選択した場合は、時刻調整に連動してAM／PMが切り替わります。

9 十字キー（▼）で「設定完了」を選ぶ

日時設定
表示スタイル　年/月/日 24h
日付　2011/01/01
時刻　00:00
設定完了
MENU 取消　OK 決定

10 OKボタンを押す

日時が確定します。

手順10で**OK**ボタンを押すと、0秒にセットされます。時報に合わせて**OK**ボタンを押すと、秒単位まで正確に日時が設定できます。

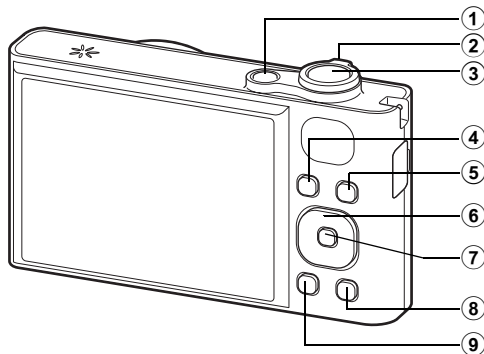
初期設定の途中で**MENU**ボタンを押すと、それまで設定した内容がキャンセルされますが、撮影することはできます。この場合は、次回電源を入れたときに再度、初期設定を行う画面が表示されます。

設定した言語／日時／現在地／夏時間はあとから変更することができます。操作方法は下記のページをご覧ください。

- 言語を変更したいとき：「表示言語を変更する」（☞p.196）
- 日時を変更したいとき：「日時を変更する」（☞p.190）
- 現在地、夏時間のオン／オフを変更したいとき：「ワールドタイムを設定する」（☞p.193）

2 機能共通操作

ボタンの機能を使用する

モード時

① **電源スイッチ**
電源を切ります（p.42）。

② **ズームレバー**
撮影する範囲を変えます（p.78）。

③ **シャッターボタン**
静止画撮影モードでは、半押しするとピント合わせを行います（フォーカスモードが、**PF**／▲／**MF**のときを除く）。全押しすると、静止画を撮影します（p.67）。
（動画）モードでは、動画の撮影を開始／終了します（p.127）。
ボイスレコーディングでは、音声の録音を開始／終了します（p.181）。

④ **ボタン**
モードに切り替えます（p.56）。

⑤ 顔検出ボタン

顔検出機能（p.72）を切り替えます。顔検出ボタンを押すたびに、スマイルキャッチ→顔検出オフ→顔検出オンと切り替わります。

⑥ **十字キー**

- ▲　ドライブモードを切り替えます（p.92、p.93）。
- ▼　撮影モードパレットを表示します（p.69）。
- ◀　ストロボモードを切り替えます（p.102）。
- ▶　フォーカスモードを切り替えます（p.104）。
- ▲▼　フォーカスモードが**MF**のときにピントを調整します（p.105）。

⑦ **OK/DISPLAYボタン**

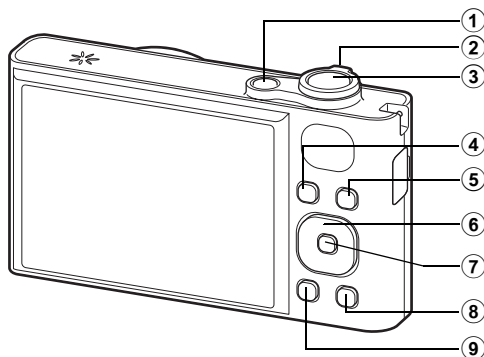
画像モニターに表示される情報を切り替えます（p.22）。

⑧ **グリーンボタン**

●（グリーン）モードに移行します（p.76）。
特定の機能をすばやく呼び出します（p.123）。

⑨ **MENUボタン**

「📷撮影」メニューを表示します（p.57）。

▶モード時

① **電源スイッチ**
電源を切ります（p.42）。

② **ズームレバー**
1画面表示時に左（▦）に回すと4画面表示になります。もう一度左に回すと9画面表示になります。右（Q）に回すと前の表示に戻ります（p.136）。
1画面表示時に右（Q）に回すと画像が拡大表示されます。左（▦）に回すと前の表示に戻ります（p.145）。
9画面表示時に左（▦）に回すと、フォルダー表示またはカレンダー表示になります（p.137）。
フォルダー表示／カレンダー表示時に右（Q）に回すと、9画面表示になります（p.137）。
動画／音声／ボイスメモ再生中は、音量調節をします（p.135、p.182、p.185）。

③ **シャッターボタン**
📷モードに切り替えます（p.56）。

④ **▶ボタン**
📷モードに切り替えます（p.56）。

⑤ 顔ボタン

撮影時に顔検出が行われた画像を表示しているときに押すと、顔検出された順に、被写体の顔をクローズアップ表示（顔アップ再生）します（p.146）。

⑥ 十字キー

▲	動画／音声を再生／一時停止します（p.135、p.182）。
▼	再生モードパレットを表示します（p.138）。 再生中の動画／音声を停止します（p.135、p.182）。
◀ ▶	1画面表示時は、前後の画像／音声を表示します（p.134）。 動画再生時は、早送り／巻き戻し／コマ送り／コマ戻し／逆方向再生／順方向再生をします（p.135）。 音声再生時は、早送り／巻き戻し／インデックス位置への移動をします（p.182）。
▲▼◀▶	4画面表示／9画面表示時は画像、フォルダー表示時はフォルダー、カレンダー表示時は日付を選択します（p.136、p.137）。 拡大表示時は、表示範囲を移動します（p.145）。 フレーム合成時は、画像の位置を調整します（p.167）。

⑦ OK/DISPLAY ボタン

画像モニターに表示される情報を切り替えます（p.26）。
4画面表示／9画面表示／拡大表示時は、1画面表示に戻ります（p.136、p.145）。
フォルダー表示時は、選択フォルダーの9画面表示に変わります（p.137）。
カレンダー表示時は、選択日付の1画面表示に変わります（p.138）。

⑧ グリーン/🗑 ボタン

1画面表示時は、消去画面に移行します（p.148）。
4画面表示／9画面表示時は、選択消去画面に移行します（p.150）。
フォルダー表示時は、カレンダー表示画面に移行します（p.137）。
カレンダー表示時は、フォルダー表示画面に移行します（p.137）。

⑨ MENUボタン

1画面表示時は、「🔧設定」メニューを表示します（p.57）。
再生モードパレット表示時は、1画面表示に戻ります（p.138）。
4画面表示／9画面表示／拡大表示時は、1画面表示に戻ります（p.136）。
フォルダー表示時は、選択フォルダーの9画面表示に変わります（p.137）。
カレンダー表示時は、選択日付の9画面表示に変わります（p.137）。

◘モードと▶モードの切り替え

本書では、静止画の撮影など記録を行うモードを「◘モード」（撮影モード）と表記します。また、撮影して記録した画像を画像モニターに表示するなど再生を行うモードを「▶モード」（再生モード）と表記します。▶モードでは、撮影した画像に簡単な画像処理を加えることもできます。
◘モードと▶モードの切り替えは、次のように行います。

◘モードから▶モードへ切り替える

1 ▶ボタンを押す

▶モードに切り替わります。

▶モードから◘モードへ切り替える

1 ▶ボタンを押す、またはシャッターボタンを半押しする

◘モードに切り替わります。

内蔵メモリー内のデータの表示について
SDメモリーカードがセットされているときは、SDメモリーカード内の画像／動画／音声が表示されます。内蔵メモリー内の画像／動画／音声を表示する場合は、SDメモリーカードを取り出してください。

SDメモリーカードは、必ずカメラの電源が切れた状態で取り出してください。

カメラの機能を設定する

カメラの設定を変更するときは、**MENU**ボタンを押して、「撮影」メニューまたは「設定」メニューを呼び出します。画像や音声の再生／編集に関するメニューは、再生モードパレットから呼び出します(p.138)。

メニューの操作のしかた

モードで**MENU**ボタンを押すと、「撮影」メニューが表示されます。モードで**MENU**ボタンを押すと、「設定」メニューが表示されます。
「撮影」メニューと「設定」メニューは、十字キー（◀▶）で切り替えます。

撮影中

P 38
2011/09/09
14:25

再生中

100-0038
編集 2011/09/09
14:25

MENU

MENU

撮影 1/4

記録サイズ	16M
ホワイトバランス	AWB
AF	
測光方式	
感度	AUTO
感度AUTO調整範囲	ISO80-800

MENU 終了

設定 1/3

サウンド	
日時設定	2011/09/09
ワールドタイム	
文字サイズ	標準
Language/言語	日本語
フォルダー名	日付

MENU 終了

OK

OK

撮影 1/4

記録サイズ	16M
ホワイトバランス	AWB
AF	
測光方式	
感度	AUTO
感度AUTO調整範囲	ISO80-800

MENU 終了

設定 1/3

サウンド	
日時設定	2011/09/09
ワールドタイム	
文字サイズ	標準
Language/言語	日本語
フォルダー名	日付

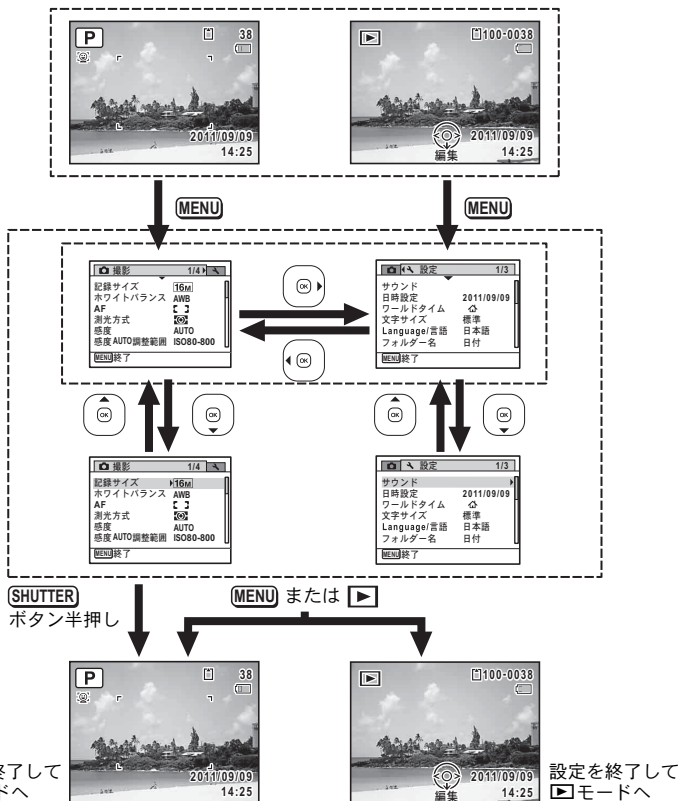
MENU 終了

SHUTTER
ボタン半押し

MENU または ▶

設定を終了して
モードへ

P 38
2011/09/09
14:25

100-0038
編集 2011/09/09
14:25

設定を終了して
▶モードへ

メニュー操作中は、使用するボタンやキーの機能が画像モニターに表示されます（p.28）。

例)「撮影」メニューの「AFエリア」を設定する

1 モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

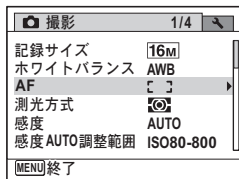
2 十字キー(▼)を押す

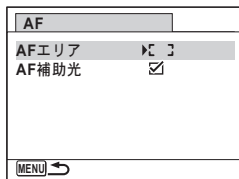
選択枠が「記録サイズ」に移動します。

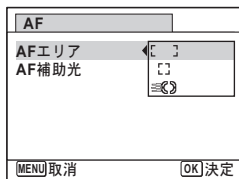
3 十字キー(▼)を2回押す

選択枠が「AF」に移動します。

4 十字キー(▶)を押す

「AF」画面が表示されます。

5 十字キー(▶)を押す

選べる内容がポップアップで表示されます。
ポップアップには、現在のカメラの条件で選択できる設定が表示されます。

6 十字キー(▲▼)で設定を切り替える

十字キー(▲▼)を押すたびに、AFエリアが切り替わります。

7 OKボタンまたは十字キー（◀）を押す

設定が保存され、他の項目が設定できる状態になります。
設定を終了するときは、**MENU**ボタンを押します。

その他の操作をする場合は、手順7で本ページの操作をしてください。

設定を保存して撮影をしたいとき

7 シャッターボタンを半押しする

設定が保存され、撮影できる状態になります。
全押しすると、写真が撮影されます。

▶モードから「🔧設定」メニューを表示した場合は、▶ボタンを押して📷モードに移行することもできます。

設定を保存して再生をしたいとき

7 ▶ボタンを押す

📷モードから「📷撮影」メニューを表示した場合は、設定が保存され、再生できる状態になります。

変更を取り消してメニュー操作を続けたいとき

7 MENUボタンを押す

変更が取り消され、手順3に戻ります。

MENUボタンの機能は、画面の状態によって異なります。ガイド表示を参照してください。

MENU 終了	メニュー操作を終了し、元の画面に戻ります。
MENU ⮌	現在の設定のまま、ひとつ前の画面に戻ります。
MENU 取消	現在の選択を保存しないでメニュー操作を終了し、ひとつ前の画面に戻ります。

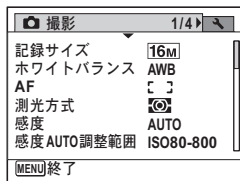
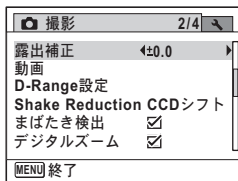
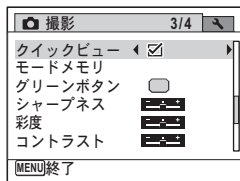
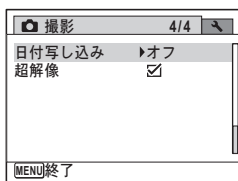
メニュー一覧

メニュー画面で設定できる項目とその内容を示します。カメラの電源を切ったときに設定を記憶するかどうか、リセットしたときに初期設定に戻るかどうかは、付録の「初期設定一覧」(p.230) をご覧ください。

「撮影」メニュー

撮影に関するメニューです。

項目		内容	参照
記録サイズ		静止画の記録サイズを選びます。	p.108
ホワイトバランス		撮影時の光の状態に合わせて色を調整します。	p.112
AF	AFエリア	オートフォーカスの対象になる範囲を変更します。	p.106
	AF補助光	AF補助光を発光させるかどうかを設定します。	p.107
測光方式		どの部分で明るさを測り、露出を決めるのかを設定します。	p.114
感度		感度を設定します。	p.115
感度AUTO調整範囲		感度がAUTOのときの調整範囲を設定します。	p.116
露出補正		撮影する画像の明るさを調整します。	p.110
動画	記録サイズ	動画の記録サイズとフレームレートを選びます。	p.129
	Movie SR	手ぶれ補正を使うかどうかを設定します。	p.130
D-Range設定	ハイライト補正	明るすぎる部分を補正し、白とびを防ぎます。	p.111
	シャドー補正	暗すぎる部分を補正し、黒つぶれを防ぎます。	
Shake Reduction		静止画撮影時の手ぶれ補正の設定を選びます。	p.118
まばたき検出		顔検出したときに、まばたき検出を行うかどうか設定します。	p.117
デジタルズーム		デジタルズームを使うかどうかを設定します。	p.80
クイックビュー		クイックビューを表示するかどうかを設定します。	p.119
モードメモリ		電源を切ったときに撮影機能の設定値を保存するか、初期設定に戻すかを設定します。	p.131
グリーンボタン		モード時にグリーンボタンで呼び出す機能を設定します。	p.123
シャープネス		画像の境界をハードまたはソフトにします。	p.120
彩度		色の鮮やかさを設定します。	p.120
コントラスト		画像の明暗差の度合いを設定します。	p.121
日付写し込み		静止画撮影時に日付と時刻の写し込みをするかどうかを設定します。	p.122
超解像		超解像処理を行うかどうか設定します。	p.123

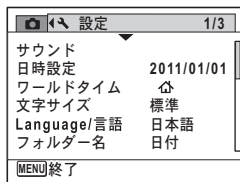
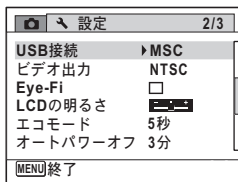
● 「撮影」メニュー 1

● 「撮影」メニュー 2

● 「撮影」メニュー 3

● 「撮影」メニュー 4

- 「撮影」メニューの設定に関係なく、標準設定で手軽に撮影を楽しみたいときは、（グリーン）モードを利用してください（p.76）。
- よく使う機能は、グリーンボタンに登録しておくと、すばやく呼び出せます（p.123）。

「設定」メニュー

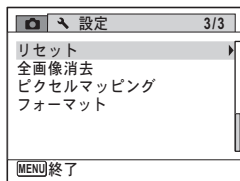
項目	内容	参照
サウンド	操作音量・再生音量・起動音・シャッター音・操作音・セルフタイマー音を設定します。	p.189
日時設定	日付と時刻を設定します。	p.190
ワールドタイム	現在地と目的地を設定します。	p.193
文字サイズ	メニューの文字サイズを設定します。	p.195
Language/言語	メニューやメッセージを表示する言語を設定します。	p.196
フォルダー名	画像や音声を保存するフォルダーの命名方法を設定します。	p.197
USB接続	USBケーブルの接続方法（MSC／PTP）を設定します。	p.213

項目	内容	参照
ビデオ出力	AV機器へのビデオ出力形式を設定します。	p.198
Eye-Fi	Eye-Fiカードを使って画像の転送を開始します。	p.198
LCDの明るさ	画像モニターの明るさを設定します。	p.199
エコモード	節電モードになるまでの時間を設定します。	p.200
オートパワーオフ	自動的に電源が切れるまでの時間を設定します。	p.201
リセット	設定内容を工場出荷時の状態に戻します。	p.204
全画像消去	保存されているすべての画像／音声を消去します。	p.151
ピクセルマッピング	CCDの画素に欠けがあった場合に、その部分を補完します。	p.203
フォーマット	SDメモリーカード／内蔵メモリーをフォーマットします。	p.188

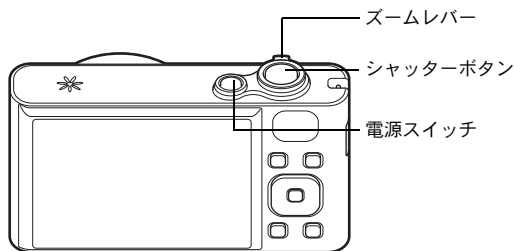
●「設定」メニュー 1

設定 1/3
サウンド
日時設定 2011/01/01
ワールドタイム
文字サイズ 標準
Language/言語 日本語
フォルダー名 日付
MENU 終了

●「設定」メニュー 2

●「設定」メニュー 3

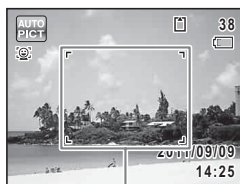
3 撮影

静止画を撮影する

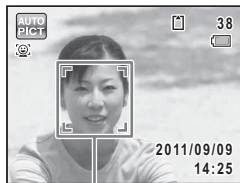
標準的な撮影のしかた

Optio RZ18には、被写体やシーンに応じた多彩な撮影モードや機能が備わっています。ここでは最も標準的な設定（工場出荷時の初期設定）で撮影する手順を説明します。

1 電源スイッチを押す

電源が入り、静止画が撮影できる状態になります。本書ではこの状態を「静止画撮影モード」と表記します。

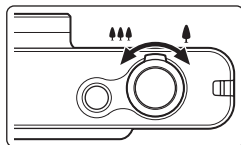
2 画像モニターを確認する

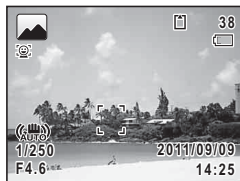
画像モニター中央のフォーカスフレームの中が、自動でピントが合う範囲です。

フォーカスフレーム

カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます（p.72）。カメラがペットを検出した場合は、ペット検出枠（水色）を表示し、自動的に撮影されます。

顔検出枠

ズームレバーを左右に回すと、被写体の写る範囲が変わります（p.78）。

右（♠）　被写体を拡大して写す

左（♠♠♠）　被写体を広い範囲で写す

3 シャッターボタンを半押しする

周囲が暗い場合はAF補助光が発光します。ピントが合った位置で、フォーカスフレーム（または顔検出枠）が緑色に変わります。

4 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

ストロボは、明るさに応じて自動的に発光します。

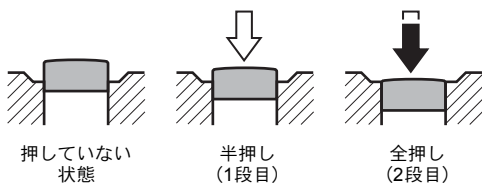
撮影した画像は画像モニターに表示（クイックビュー、p.69）された後、SDメモリーカードまたは内蔵メモリーに保存されます。

グリーンボタンを押すと、すべての撮影条件をカメラが自動設定する ●（グリーン）モードに切り替わります（p.76）。

シャッターボタンの押しかた

シャッターボタンは「半押し」と「全押し」の2段階になっています。

半押し
シャッターボタンを1段目まで軽く押した状態です。ピント位置と露出がロックされます。半押しのときにピントが合うと、画像モニターに緑色の枠が点灯します。ピントが合っていないときは、白い枠が点灯します。

全押し
シャッターボタンを2段目まで押しきった状態です。撮影が行われます。

ピント合わせの苦手な条件
写したいものが下の例のような条件にある場合は、ピントが合わないことがあります。その場合はいったん撮りたいものと同じ距離にあるものにピントを固定（シャッターボタン半押し）し、その後撮りたい位置に構図を戻してシャッターを切ります。

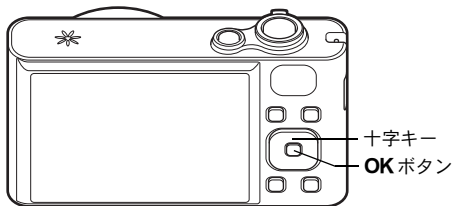
- 青空や白壁など極端にコントラストが低いもの
- 暗い場所、あるいは真っ暗なものなど、光の反射しにくい条件
- 細かい模様の場合
- 非常に速い速度で移動しているもの
- 遠近のものが同時に存在する場合
- 反射の強い光、強い逆光（周辺が特に明るい場合）

クイックビューとまばたき検出

撮影直後には、撮影した画像が画像モニターに表示（クイックビュー）されます。顔検出機能（p.72）が働いているときに、被写体が目を閉じたとカメラが検出すると、「目を閉じていました」というメッセージが3秒間表示されます（まばたき検出）。

- 顔検出が行われなかったときは、まばたき検出も行われません。また顔検出した場合でも、検出した顔の条件によってまばたき検出ができないことがあります。
- まばたきを検出しないように設定することもできます（p.117）。

撮影モードを設定する

Optio RZ18 には、多彩な撮影モードが用意されています。撮影モードパレットで撮影するシーンに合った撮影モードを選ぶだけで、手軽にぴったりの雰囲気の写真の撮影、動画の記録ができます。

1 **◘モードで十字キー（▼）を押す**

撮影モードパレットが表示されます。

2 **十字キー（▲▼◀▶）で撮影モードを選択する**

撮影モードパレットでアイコンを選択すると、選んだ撮影モードの説明が表示されます。

3 OK ボタンを押す

撮影モードが選択され、撮影できる状態になります。

撮影モードパレットでは、次の24のモードが選択できます。

撮影モード		内容	参照
AUTO PICT	オートピクチャー	適切なシーンを自動的に判断して撮影します。	p.74
P	プログラム	一般的な撮影に適しています。さまざまな機能を設定して撮影することができます。	p.75
	ポートレート	人物の撮影に適しています。肌色を健康的に仕上げます。	p.82
	夜景ポートレート	夜景での人物撮影に適しています。ぶれに注意し、三脚などで固定して撮影してください。	p.80
	夜景	夜景の撮影に適しています。ぶれに注意し、三脚などで固定して撮影してください。	p.80
	動画	動画を撮影します。	p.127
	風景	風景の撮影に適しています。木々の緑と空の青をより鮮やかに写します。	—
	青空	青空の彩度を強調してより鮮やかに写します。	—
	夕焼け	夕焼けの雰囲気を残して撮影します。	—
	花	花の撮影に適しています。花の輪郭を柔らかめに表現します。	—
	スポーツ	動きの速い被写体の撮影に適しています。撮影するまでピントを合わせ続けます。	p.87
	ペット	動き回るペットの撮影に適しています。登録したペットの検出もできます。	p.84
	高感度	ぶれを軽減して撮影するために、より高い感度を使用します。	p.80
	美肌	人物の撮影に適しています。肌がより美しく見えるように撮影します。	p.82
	キッズ	動きの多い子供を撮影するのに適しています。肌色を健康的に仕上げます。	p.83
	花火	花火の撮影に適しています。ぶれに注意し、三脚などで固定して撮影してください。	p.80
	フレーム合成	フレーム付きの画像を撮影します。	p.90
	パーティー	パーティー会場での撮影に適しています。	p.88

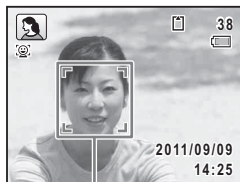
撮影モード		内容	参照
	料理	料理の撮影に適しています。より鮮やかに仕上げます。	—
	キャンドルライト	キャンドルライトの雰囲気を生かして撮影します。	p.80
	テキスト	文字の撮影に適しています。白黒や反転などの効果が選択できます。	p.89
	サーフ&スノー	砂浜や雪山など、明るい場所での撮影に適しています。	p.87
WIDE	デジタルワイド	撮影した2枚の画像をカメラ内でつなぎ合わせて、より広い範囲の画像を作成します。	p.96
	パノラマ	撮影した画像をカメラ内でつなぎ合わせてパノラマ写真を作成します。	p.99

※ 上記以外に、（グリーン）モード（p.76）／ボイスレコーディング（p.180）のモードがあります。

- P／／／／／WIDE／以外の撮影モードでは、彩度・コントラスト・シャープネス・ホワイトバランスなどが自動的に各モードに最適な値に設定されています。
- 撮影モードによっては、一部の機能が設定できなかったり、制限がある場合があります。詳しくは、「各撮影モードの機能対応」（p.224）をご確認ください。

顔検出機能を利用する

顔検出枠

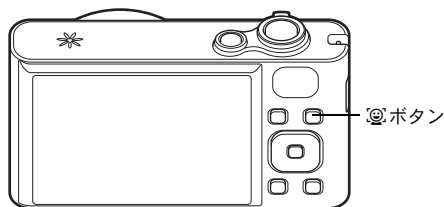
Optio RZ18では、すべての撮影モードで、「顔検出」機能が利用できます。
顔検出機能は、カメラが人物の顔を検出すると、画像モニター上の顔の位置に黄色の顔検出枠を表示し、ピント合わせ（顔検出AF）と露出補正（顔検出AE）を行います。
顔検出枠は、被写体の人物が動くと、顔を追尾して位置や大きさが変化します。

複数の顔を検出した場合

メイン枠　白い枠

人物の顔は最大32人まで検出できます。複数の顔を検出した場合は、メインの顔に黄色の枠が表示され、他の顔には白い枠が表示されます。枠は、メイン枠・白い枠を合わせて最大31個まで表示できます。

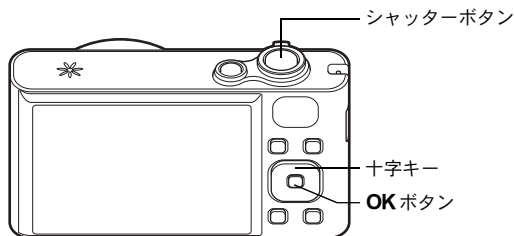
- サングラスなどで被写体の顔の一部がさえぎられている場合や、顔の向きが正面ではない場合は、顔検出AFと顔検出AEが働かないことがあります。
- 被写体の顔が検出できない場合は、選択されているAFエリアでピントを合わせます。
- 「スマイルキャッチ」機能がオンの場合、検出した顔が小さすぎるなどの条件によっては「スマイルキャッチ」機能が働かず、自動的にシャッターが切れないことがあります。その場合はシャッターボタンを押すと、シャッターが切れます。
- AUTO PICT（オートピクチャー）／（ペット）モードで、ペットを検出した場合は、ペット検出枠（水色）を表示し、自動的にシャッターが切れます。

顔検出機能を切り替える

初期状態では、顔検出機能がオンになっています。被写体が笑顔になるとシャッターを自動的に切る「スマイルキャッチ」機能に切り替えることもできます。ボタンを押すたびに、スマイルキャッチ→顔検出機能オフ（顔検出オフ）→顔検出オンと切り替わります。

顔検出機能を切り替えると、顔検出機能またはスマイルキャッチ機能を示すアイコンが画像モニターに表示されます（顔検出機能がオフのときには、アイコンは表示されません)。

- （オートピクチャー）／（ポートレート）／（夜景ポートレート）／（ペット）／（美肌）／（キッズ）モードでは、顔検出機能をオフにはできません。顔検出機能またはスマイルキャッチ機能のどちらかが必ずオンになります。
- （グリーン）／（オートピクチャー）／（ポートレート）／（夜景ポートレート）／（動画）／（美肌）／（キッズ）モードを選択すると、自動的に顔検出機能がオンになります。これらの撮影モードから他の撮影モードに移行すると、元の顔検出機能の設定に戻ります。
- ストロボモードを（オート）に設定しているときに顔検出された場合は、自動的に（強制＋赤目）で撮影されます。

カメラまかせで撮影する（オートピクチャーモード）

AUTO PICT（オートピクチャー）モードでは、カメラが被写体やシーンを自動的に判別して最適な撮影モードで撮影できます。

1 ◘モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で AUTO PICT を選ぶ

3 OK ボタンを押す

AUTO PICT モードが選択され、撮影できる状態になります。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます（p.72）。
カメラがペットを検出した場合は、ペット検出枠（水色）を表示し、自動的に撮影されます。

4 シャッターボタンを半押しする

判別された撮影モードが画像モニター左上に表示されます。

	標準		夜景		夜景ポートレート
	風景		花		ポートレート
	スポーツ		キャンドルライト		青空
	人物×青空		人物×逆光		夕焼け
	人物×夕焼け		集合写真		テキスト

また、ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

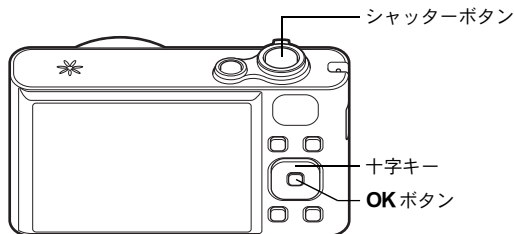
5 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

[AUTO PICT]モードでは以下の制限があります。

- 顔検出機能はオフにできません。
- AFエリアは[　]（マルチ）固定になります。
- デジタルズーム／インテリジェントズームを使用しているときは、「花」は選択されません。
- ストロボモードを⚡A（オート）／◉A（オート＋赤目）に設定していて「夜景」が選ばれた場合は、自動的に⊛（発光禁止）になります。
- ストロボモードを ⚡A（オート）に設定していて「夜景ポートレート」が選ばれた場合に、カメラが人物の顔を検出し、かつストロボ発光が必要と判断すると、自動的に◉⚡（強制＋赤目）になります。
- 「スマイルキャッチ」機能が選択されている場合は、ペットの検出は行われません。

お好みの設定で撮影する（プログラムモード）

P（プログラム）モードでは、シャッタースピードと絞り値をカメラが自動的に設定して撮影します。ストロボの発光方式や記録サイズなどの機能が自由に設定できます。

1 ◘モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）でPを選ぶ

3 撮影

3 OKボタンを押す

Ⓟモードが選択され、撮影できる状態になります。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます(p.72)。

4 必要に応じて設定を変更する

設定のしかたは、「撮影のための機能を設定する」(p.102～126)をご覧ください。

5 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

6 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

簡単撮影モードで撮影する（グリーンモード）

●（グリーン）モードでは、「◘撮影」メニューの設定に関係なく、標準設定で手軽に撮影を楽しめます。
●モードの設定値は、以下のとおりです。

項目	設定値
ストロボモード	⚡A（オート）
ドライブモード	□（標準）
フォーカスモード	AF（標準）
顔検出機能	オン
情報表示	標準
記録サイズ	16M（4608 × 3456）
ホワイトバランス	AWB（オート）
AFエリア	〔 〕（マルチ）
AF補助光	☑（オン）
測光方式	◙（分割測光）
感度	AUTO
感度AUTO調整範囲	80～800

項目	設定値
露出補正	±0.0
ハイライト補正	□（オフ）
シャドー補正	□（オフ）
Shake Reduction	CCDシフト
まばたき検出	☑（オン）
デジタルズーム	☑（オン）
クイックビュー	☑（オン）
シャープネス	━━━（標準）
彩度	━━━（標準）
コントラスト	━━━（標準）
日付写し込み	オフ
超解像	☑（オン）

1 モードでグリーンボタンを押す

モードに切り替わります。
もう1回グリーンボタンを押すと、モードに入る前の撮影モードに戻ります。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます（p.72）。

2 シャッターボタンを半押しする

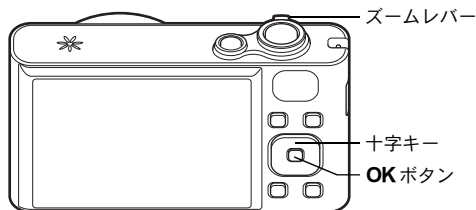
ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

3 シャッターボタンを全押しする

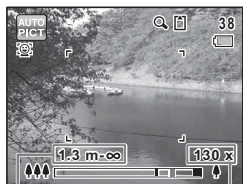
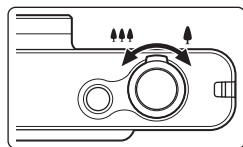
撮影されます。

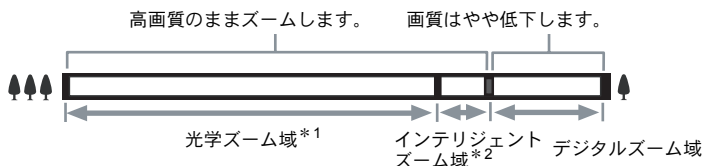
- モードを利用する場合は、「撮影」メニューの「グリーンボタン」にモードを登録しておきます（p.123）。初期設定ではモードに設定されています。
- モードでは、**OK/DISPLAY** ボタンを押して情報表示を切り替えることはできません。
- モードで**MENU**ボタンを押すと、「設定」メニューが表示されます。「撮影」メニューは表示できません。
- 撮影モードをモードにしたまま電源を切ると、次回もモードで起動します。

ズームを使って撮影する

ズーム機能を使って、写る範囲を変えて撮影できます。

1 ◘モードでズームレバーを回す

右（♠） 望遠 被写体を拡大して写す
左（♠♠♠） 広角 被写体を広い範囲で写す

右（♠）に回し続けると、自動的に光学ズームからインテリジェントズームに切り替わり、デジタルズームの切り替わり点で止まります。
いったんズームレバーから指を離して、もう一度回すとデジタルズームになります。

※フォーカスモードがPFまたは▲、撮影モードが❊（花火）のときは、フォーカス可能範囲は表示されません。

ズームバーは、次のように表示されます。

*1 光学18倍（最大）までズームできます。
*2 記録サイズにより、インテリジェントズーム域は変化します。次の表をご覧ください。

記録サイズと最大ズーム倍率

記録サイズ	インテリジェントズーム	デジタルズーム
16M	不可（光学ズームのみ）	約130倍相当
12M 1:1 ／ 12M 16:9	不可（光学ズームのみ）	
7M	約27倍	
3M	約40.5倍	
2M 16:9	約43.2倍	
2M	約51.8倍	
640	約130倍（デジタルズームと同じ）	

- 高倍率の撮影では、手ぶれを防止するため三脚などのご使用をお勧めします。
- デジタルズーム領域で撮影すると、光学ズーム領域で撮影したときよりも画像があらくなります。
- 次の場合、インテリジェントズームは使えません。
  - 記録サイズが16M／12M 1:1／12M 16:9のとき（光学ズームは使用可）
  - （高感度）モード
  - 感度を3200／6400に設定しているとき
- インテリジェントズームで高倍率に拡大すると、画像モニターの画像があらく見えることがあります。撮影した静止画の画質には、影響はありません。
- （動画）モードで撮影中は、デジタルズームのみ使えます。

デジタルズーム機能を設定する

初期設定では、デジタルズームはオンに設定されています。光学ズームとインテリジェントズームだけを使って撮影したい場合は、オフに設定します。

1　モードでMENUボタンを押す

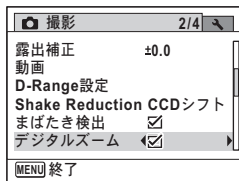
「撮影」メニューが表示されます。

2　十字キー（▲▼）で「デジタルズーム」を選ぶ

3　十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑　デジタルズームを使用する
□　光学ズームとインテリジェントズームだけを使用する

設定が保存されます。

撮影 2/4	
露出補正	±0.0
動画	
D-Range設定	
Shake Reduction	CCDシフト
まばたき検出	☑
デジタルズーム	◀☑▶
MENU 終了	

4　MENUボタンを押す

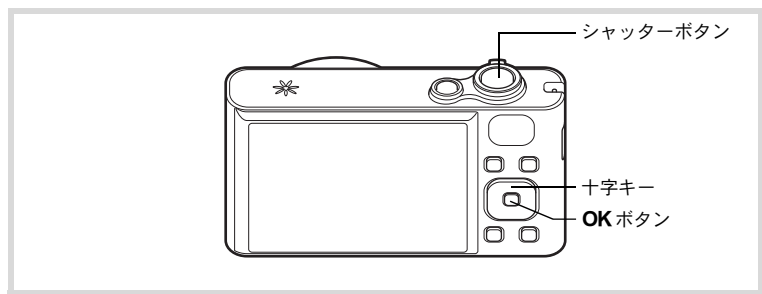
撮影できる状態になります。

デジタルズーム機能の設定を保存する ☞p.131

暗いシーンを撮影する（夜景ポートレート／夜景／高感度／花火／キャンドルライトモード）

夜景など暗いシーンを撮影するのに適切な設定にセットされます。

モード	説明
夜景ポートレート	夜景での人物撮影に適しています。ぶれに注意し、三脚などで固定して撮影してください。 ストロボモードを（オート）に設定しているときに顔検出された場合は、自動的に（強制＋赤目）で撮影されます。
夜景	夜景の撮影に適しています。ぶれに注意し、三脚などで固定して撮影してください。
高感度	ぶれを軽減して撮影するために、より高い感度を使用します。感度は「AUTO」、記録サイズは5M（2592×1944）に固定されます。

❊	花火	花火の撮影に適しています。ぶれに注意し、三脚などで固定して撮影してください。シャッター速度は4秒、感度は最低感度に固定されます。
🕯	キャンドルライト	キャンドルライトの雰囲気を生かして撮影します。

1 📷モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で[icon]／[icon]／[icon]／❊／🕯を選ぶ

3 OK ボタンを押す

[icon]／[icon]／[icon]／❊／🕯モードになり、撮影できる状態になります。カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます（p.72）。

4 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

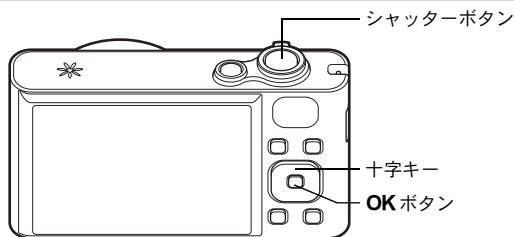
5 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

- 暗いシーンの撮影は、シャッタースピードが遅くなります。
- 手ぶれを防ぐには、手ぶれ補正機能（p.118）を設定するか、三脚とセルフタイマー（p.92）またはリモコン（別売）（p.95）を使った撮影が有効です。

人物を撮影する（ポートレート／美肌モード）

（ポートレート）／（美肌）モードは、人物を撮影するのに適しています。またいずれの撮影モードも、顔検出機能（p.72）が自動的にオンになるので、被写体の顔を主体にした写真を簡単に撮ることができます。

ポートレート	人物の撮影に適しています。肌色を健康的に仕上げます。
美肌	人物の撮影に適しています。肌がより美しく見えるように撮影します。

1 モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で／を選ぶ

3 OK ボタンを押す

／モードになり、撮影できる状態になります。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます（p.72）。

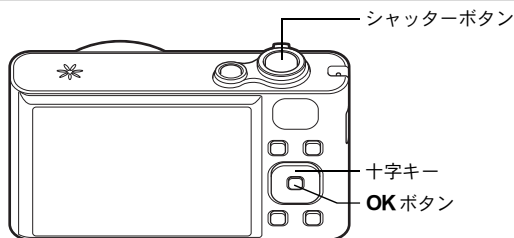
4 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

5 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

子供を撮影する（キッズモード）

🏃（キッズ）モードは、動きの多い子供を撮影するのに適しています。また、肌色を明るく健康的に仕上げることができます。🏃モードでは、顔検出機能（p.72）が自動的にオンになるので、被写体の顔を主体にした写真を簡単に撮ることができます。

1 📷モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で🏃を選ぶ

3 OK ボタンを押す

🏃モードになり、撮影できる状態になります。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます（p.72）。

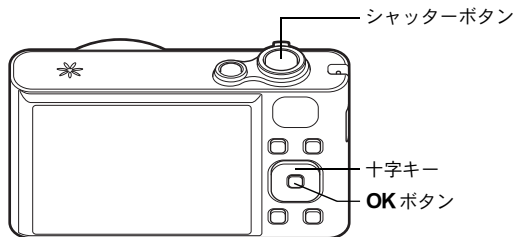
4 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

5 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

ペットを撮影する（ペットモード）

（ペット）モードでは、ペットを検出すると、自動的にシャッターが切れます。また、ペットをカメラに登録することもできます。

1 モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

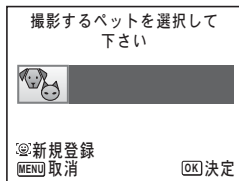
2 十字キー（▲▼◀▶）で を選ぶ

3 OK ボタンを押す

モードが選択され、撮影できる状態になります。
カメラがペットを検出すると、ペット検出枠（水色）を表示し、自動で撮影されます。

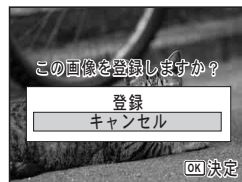
ペットを登録する

1 ペットモードの撮影画面で ボタンを押す

ペット選択画面が表示されます。

2　もう一度🐾ボタンを押す

ペットを登録する画面が表示されます。
ペットの顔が正面を向くようカメラを構えると、自動で撮影され、登録確認画面が表示されます。

ペットを登録する画面

十字キー（▲）で「登録」を選択し、OKボタンを押すと、登録したペットの写真が画像モニター左上に表示され、撮影できる状態になります。

登録確認画面

カメラがペットの顔を検出すると、ペット検出枠（水色）を表示し、自動的にシャッターが切れます。
シャッターボタンを押して撮影することも可能です。

撮影画面

撮影画面で🐾ボタンを2回押すと、ペットを登録する画面が表示され、他のペットを登録することができます。ペットは合計3匹まで登録可能です。

- ペットを登録する画面で**MENU**ボタンを押すと、登録が中止され、撮影できる状態になります。
- 🐾（ペット）モードで登録できる動物は、犬と猫のみです。他の動物や人物の顔は登録できません。またペットの顔が小さすぎるなど、条件によっては登録できないことがあります。
- 登録されたペットでも、顔が小さすぎるなど、条件によっては検出できないことがあります。
- AFエリアは（自動追尾）に、ストロボは（発光禁止）に設定されます。変更も可能です。
- AF補助光はオフに設定されます。変更も可能です。

撮影するペットを切り替える

ペットを登録しているときは、撮影したいペットを選んでください。

1 **ペットモードの撮影画面で⦿ボタンを押す**

ペット選択画面が表示されます。

2 **十字キー（◀▶）で撮影するペットを選ぶ**

3 **OK ボタンを押す**

選択したペットが選ばれ、撮影画面に戻ります。

登録したペットを消去する

1 **ペットモードの撮影画面で⦿ボタンを押す**

ペット選択画面が表示されます。

2 **十字キー（◀▶）で消去するペットを選ぶ**

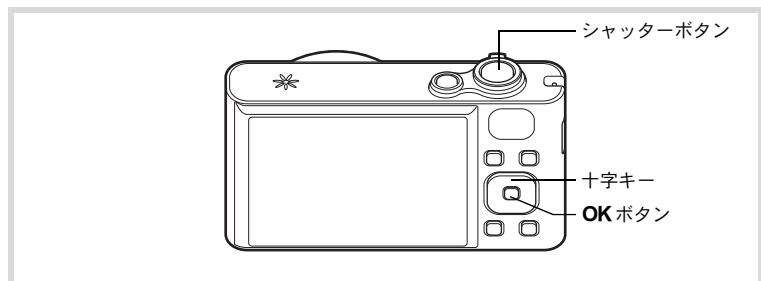
3 **グリーンボタンを押す**

4 **十字キー（▲）で「消去」を選ぶ**

5 **OK ボタンを押す**

選択したペットが消去されます。

レジャーシーンやスポーツを撮影する（スポーツ／サーフ＆スノーモード）

スポーツ	動きの速い被写体の撮影に適しています。撮影するまでピントを合わせ続けます。
サーフ＆スノー	砂浜や雪山など、明るい場所での撮影に適しています。

1 モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で／を選ぶ

3 OK ボタンを押す

／モードになり、撮影できる状態になります。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます（p.72）。

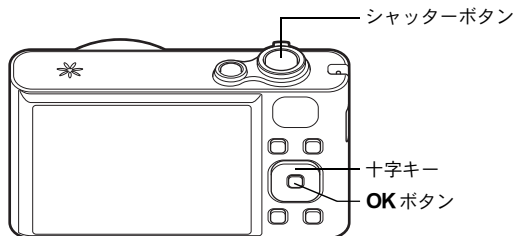
4 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。
モードを選択した場合は、シャッターボタンを半押しし続けている間、フォーカスフレームが被写体を追い続けます。

5 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

室内で撮影する（パーティーモード）

🍸（パーティー）モードは、パーティー会場などの室内で撮影するのに適しています。

1　📷モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2　十字キー（▲▼◀▶）で🍸を選ぶ

3　OKボタンを押す

🍸モードになり、撮影できる状態になります。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます（p.72）。

4　シャッターボタンを半押しする

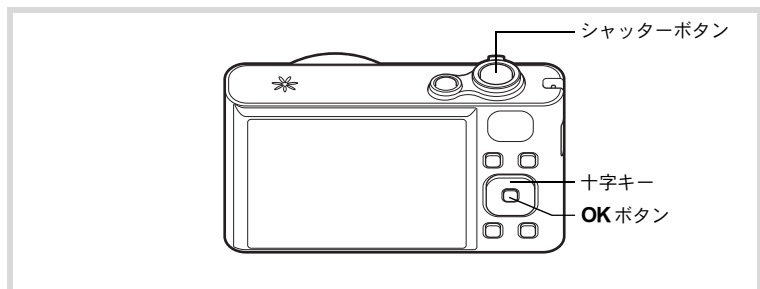
ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

5　シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

文字を撮影する（テキストモード）

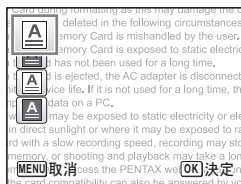
文字をくっきりと読みやすく撮影します。大事な書類を画像にして保存するときや、テキストの文字が小さくて読みにくいときに便利です。

モード	説明
カラー	テキストを元の色のまま撮影します。
カラー反転	カラーが反転します。
白黒	テキストを白黒で撮影します。
白黒反転	白黒が反転するように撮影します。

1 モードで十字キー（▼）を押す

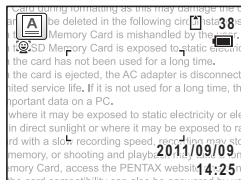
撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）でを選ぶ

3 OK ボタンを押す

モードの選択画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で／／／を選ぶ

5 OKボタンを押す

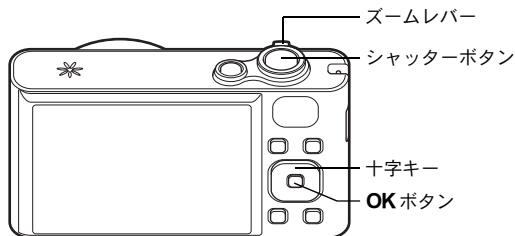
選択したアイコンが表示され、撮影できる状態になります。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます（p.72）。

6 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

7 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

フレームをつけて撮影する（フレーム合成モード）

（フレーム合成）モードでは、カメラに保存されているフレーム（飾り枠）に合わせて撮影することができます。

1 モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

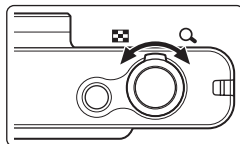
2 十字キー（▲▼◀▶）でを選ぶ

3 OKボタンを押す

フレーム選択の9分割画面が表示されます。

4　十字キー（▲▼◀▶）で使用するフレームを選ぶ

5　ズームレバーを右（Q）に回す

選んだフレームが1画面表示されます。
フレームは次の方法で選び直すことができます。

十字キー（◀▶）	別のフレームを選択
ズームレバー左（▦）	フレーム選択の9分割画面に戻り、手順4と同様の操作で別のフレームを選択

6　OKボタンを押す

フレーム付きの撮影画面が表示されます。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます(p.72)。

7　シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

8　シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

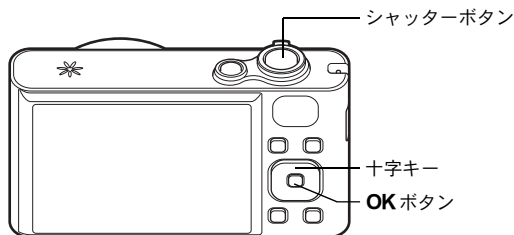
- 記録サイズは、3M（2048×1536）に固定されます。
- 工場出荷時には、デフォルトフレーム3種類が内蔵されています（付属のCD-ROMには、デフォルトフレームを含む90種類のフレームが収録されています）。

オプションのフレーム画像について
付属のCD-ROM（S-SW121）にはオプションのフレームが登録されています。オプションフレームを使用する場合は、CD-ROMからコピーしてください（p.170）。このオプションフレームは、パソコンから内蔵メモリーのファイルを削除したり、内蔵メモリーをフォーマットすると削除されます。

撮影した画像にフレームを合成する ☞p.167

セルフタイマーを使って撮影する

シャッターボタンを押してから、10秒後または2秒後に撮影されます。セルフタイマーを使って撮影するときは、カメラを三脚等に固定してください。

セルフタイマー	シャッターボタンを押してから約10 秒後に撮影されます。撮影者も含めて集合写真を撮る場合などに利用できます。
2sセルフタイマー	シャッターボタンを押してから約2秒後に撮影されます。手ぶれを避けるために利用できます。

1　モードで十字キー（▲）を押す

「ドライブモード」画面が表示されます。

2　十字キー（◀▶）でを選択し、十字キー（▼）を押す

3 十字キー（◀▶）で⏲／⏲2sを選択し、OKボタンを押す

セルフタイマーを使って撮影できる状態になります。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます（p.72）。

4 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

5 シャッターボタンを全押しする

10秒後または2秒後に撮影されます。

静止画撮影の場合、セルフタイマーランプの点滅中に構図を変えると、ピントが合わなくなります。

- 🎥（動画）モードでは、10秒後または2秒後に動画撮影が始まります。
- カウントダウン中にシャッターボタンを半押しするとカウントダウンを中止し、全押しするとカウントダウンをやり直します。
- ⏲2sは●（グリーン）モードの初期設定では選択できません。ただし、他の撮影モードで⏲2sを選んでから、撮影モードを●モードに切り替えると、選択できます。

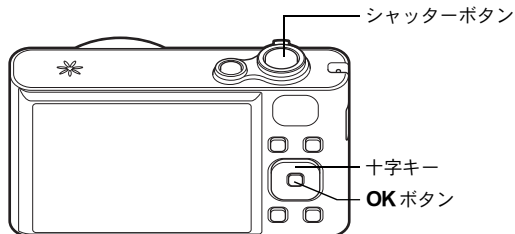
連続して撮影する（連続撮影／連写）

シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。

⧉	連続撮影	1枚撮影するごとに、画像をメモリーに書き込み、続いて次の静止画を撮影します。高画質の画像ほど、撮影間隔が長くなります。SDメモリーカードまたは内蔵メモリーがいっぱいになるまで、連続撮影できます。
⧉L	連写L	記録サイズを5M（2592×1944）に固定し、連続して撮影します。撮影間隔は⧉L→⧉M→⧉Hの順に速くなります。
⧉M	連写M	
⧉H	連写H※	

※「📷撮影」メニューの「Shake Reduction」（p.118）が「CCDシフト」に設定されていると、撮影中にCCDが動作する音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

3 撮影

連続して撮影できる枚数と撮影コマ速度は、撮影条件により変わります。

1 モードで十字キー（▲）を押す

「ドライブモード」画面が表示されます。

2 十字キー（◀ ▶）で ／ ／ ／ を選択し、OK ボタンを押す

連続して撮影できる状態になります。

3 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

4 シャッターボタンを全押しする

シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。

- ストロボは発光しません。
- （グリーン）／（動画）／（花火）／（フレーム合成）／ WIDE（デジタルワイド）／（パノラマ）モードでは、選択できません。
- ／ ／ では、デジタルズームとインテリジェントズームを使用できません。

3 撮影

- ピント・露出・ホワイトバランスは、1枚目で固定されます。
- 顔検出機能（p.72）がオンの場合は、1枚目の撮影時のみ顔検出機能が働きます。
- まばたき検出は、最後に撮影された画像に対して行われます。
- AUTO PICT（オートピクチャー）モードの場合は、最初に判別された撮影モードのまま連続して撮影されます。

リモコン（別売）を使って撮影する

リモコン（別売）を使用して、カメラから離れたところからの撮影をします。

3s	3秒後レリーズ	リモコンのシャッターボタンを押すと、約3秒後にシャッターが切れます。
	即レリーズ	リモコンのシャッターボタンを押すと、すぐにシャッターが切れます。

1 モードで十字キー（▲）を押す

「ドライブモード」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）で3sを選択し、十字キー（▼）を押す

3 十字キー（◀▶）で3s／ を選択し、OK ボタンを押す

セルフタイマーランプがゆっくり点滅を始め、リモコンを使って撮影できる状態になります。

カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます（p.72）。

3

撮影

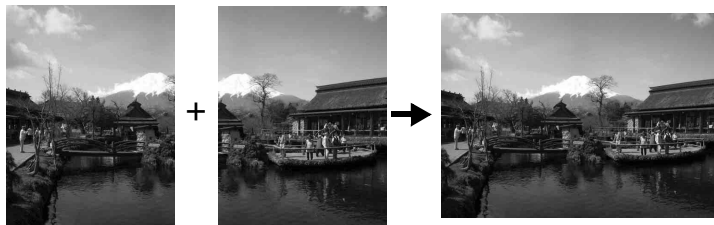
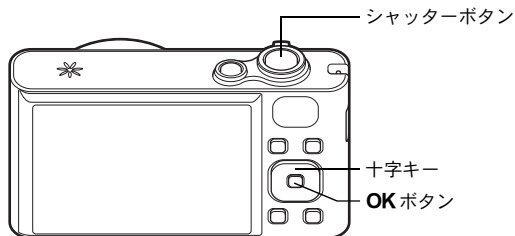
4 **リモコンをカメラ正面のリモコン受光部に向け、リモコンのシャッターボタンを押す**

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わり、以下のタイミングで撮影されます。

3秒後レリーズの場合：セルフタイマーランプが速く点滅し、約3秒後に撮影されます。
即レリーズの場合　：すぐに撮影されます。

- リモコン撮影ができる距離は、カメラ正面から約4mです。
- （動画）モードでは、もう1度シャッターボタンを押すと撮影が終了します。
- ピントが合わなかったときでも、撮影されます。
- カウントダウン中にカメラのシャッターボタンを半押しするとカウントダウンを中止し、もう一度リモコンのシャッターボタンを押すと、カウントダウンをやり直します。
- （グリーン）モードでは、/ は選択できません。
- （ペット）モードでは、セルフタイマーランプは点滅しません。

デジタルワイドを使って撮影する（デジタルワイドモード）

WIDE（デジタルワイド）モードでは、縦位置の2枚の撮影画像をカメラ内で合成することで、最大で約19mm相当（35mmフィルム換算）の広角撮影ができます。

1 ◘モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）でWIDEを選ぶ

3 OKボタンを押す

WIDEモードになります。
カメラを時計方向に90°回して縦位置（ボタンが下側）に構え、1枚目の構図を決めます。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます(p.72)。

4 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

5 シャッターボタンを全押しする

1枚目の撮影画像が記憶され、2枚目の撮影画面が表示されます。

6 2枚目を撮影する

画面左の位置合わせガイドに画像を重ねて、2枚目の構図を決めます。
手順４～５と同じ操作で2枚目を撮影すると、1枚目と2枚目の撮影画面が合成されます。
合成された画像は画像モニターに表示（クイックビュー）された後、保存されます。

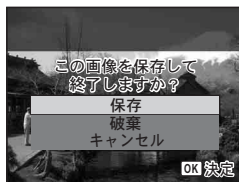
- 2枚目を撮影するときは、位置合わせガイドの右端を軸にしてカメラを旋回させるようにすると、ひずみの少ない写真ができます。
- 1枚目と2枚目の重ね合わせ部分に、動くものや繰り返しパターンの像があったり、逆に何もない場合は、うまく合成できないことがあります。
- 顔検出機能（p.72）がオンの場合は、1枚目の撮影時のみ顔検出機能が働きます（まばたき検出は行われません）。
- 合成された画像は、5M（2592×1944）で保存されます。

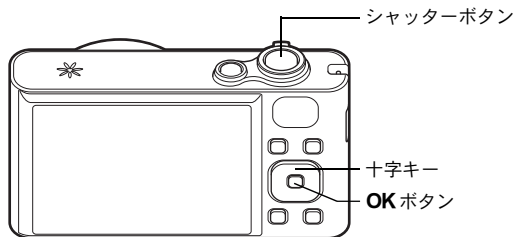
1枚目で撮影をやめるとき

1 p.97の手順5で2枚目の撮影画面が表示されているときに、OKボタンを押す

確認の画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で処理を選び、OKボタンを押す

保存	1枚目の画像を保存し、新たに1枚目から撮影します。1枚目の画像は3M（2048×1536）で保存されます。
破棄	1枚目の画像を保存しないで、新たに1枚目から撮影します。
キャンセル	2枚目の撮影画面に戻ります。

パノラマ撮影をする（パノラマモード）

▮■▮（パノラマ）モードでは、2枚または3枚の撮影画像をカメラ内で合成してパノラマ写真を作成します。

1 **◘モードで十字キー（▼）を押す**

撮影モードパレットが表示されます。

2 **十字キー（▲▼◀▶）で▮■▮を選ぶ**

3 **OK ボタンを押す**

▮■▮モードになり、「移動する方向を指定してください」とメッセージが表示されます。

4 **十字キー（◀▶）で画像をつなげる方向を選ぶ**

1枚目を撮影する画面が表示されます。

カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます(p.72)。

3 撮影

5 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

6 シャッターボタンを全押しする

1枚目の画像が撮影され、2枚目を撮影する画面が表示されます。

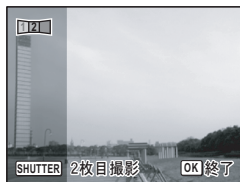
手順4で▶を選んでいる場合

画面の左端に、1枚目に撮った画像の右端部分が透過表示されます。

手順4で◀を選んでいる場合

画面の右端に、1枚目に撮った画像の左端部分が透過表示されます。

7 2枚目の画像を撮影する

実画像が1枚目の画像の透過表示に重なるようにカメラを移動し、シャッターを切ります。

8 3枚目の画像を撮影する

3枚目も手順5～7を繰り返して撮影します。
画像がパノラマ合成され、合成結果が表示されます。
クイックビュー（p.69、p.119）がオフの場合は、合成結果は表示されません。

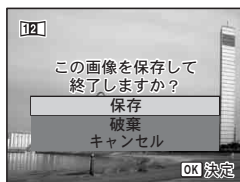
- 1枚目と2枚目、または2枚目と3枚目の重ね合わせ部分に、動くものや繰り返しパターンの像があったり、逆に何もない場合は、うまく合成できないことがあります。
- 顔検出機能（p.72）がオンの場合は、1枚目の撮影時のみ顔検出機能が働きます（まばたき検出は行われません）。

1枚目または2枚目で撮影をやめるとき

1 p.100の手順6で1枚目の画像を撮影後、または手順7で2枚目の画像を撮影後に、OKボタンを押す

確認の画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で処理を選び、OKボタンを押す

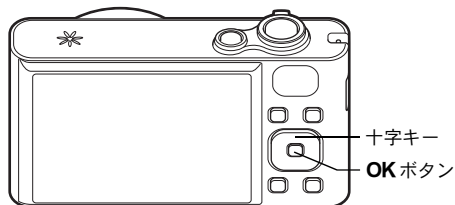
保存	撮影済みの画像を保存し、新たに1枚目から撮影します。2枚目の画像撮影後に選択すると、1枚目と2枚目の撮影画像がパノラマ合成され、合成結果が表示されます。
破棄	撮影済みの画像を保存しないで、新たに1枚目から撮影します。
キャンセル	直前の撮影画面に戻ります。

モードで撮影した合成前の画像は、2M（1600×1200）で保存されます。

撮影のための機能を設定する

ストロボの発光方法を選択する

オート	暗いときや逆光のときにストロボが自動的に発光します。顔検出した場合は、自動的にになります。
発光禁止	暗いときや逆光のときでも発光しません。ストロボが使えない場所での撮影にご利用ください。
強制発光	明るさにかかわらず、常にストロボを発光します。
オート＋赤目	ストロボの光が目に反射して赤く写るのを軽減します。自動的にストロボを発光します。本発光の前に予備発光を行います。
強制＋赤目	ストロボの光が目に反射して赤く写るのを軽減します。常にストロボを発光します。本発光の前に予備発光を行います。

- 以下のときは、固定になります。
  - 撮影モードが（動画）／（花火）のとき
  - ドライブモードが（連続撮影）／（連写L）／（連写M）／（連写H）のとき
  - フォーカスモードが（無限遠）のとき
- 撮影モードが WIDE（デジタルワイド）／（パノラマ）のときは、にセットされますが、変更は可能です。
- （グリーン）モードでは、／のみ選択できます。
- （夜景）モードでは、／は選択できません。

近距離撮影時にストロボを発光させると、ストロボの配光にムラができる場合があります。

1 ◘モードで十字キー（◀）を押す

「ストロボモード」画面が表示されます。
押すたびに発光方法が切り替わります。十字キー（▲▼）でも切り替えられます。

2 OK ボタンを押す

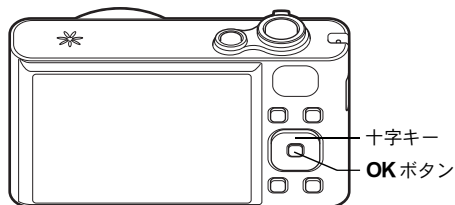
設定が保存され、撮影できる状態になります。

ストロボ撮影の赤目現象について
ストロボ撮影で人物の目が赤く写ることがあります。これは、目の網膜にストロボの光が反射して発生する現象です。赤目現象は、人物の周りを明るくしたり、撮影距離を近くして広角側で撮影すると、発生しにくくなります。また、ストロボの発光方法を◉A／◉⚡にするのも有効です。
それでも赤目になってしまった画像は、赤目補正機能（p.166）を使って修正できます。

ストロボ発光方法の設定を保存する ☞p.131

3
撮影

ピントの合わせ方を選ぶ（フォーカスモード）

AF 標準	被写体までの距離が40cm以上のときに使用します。シャッターボタンを半押ししたときに、AFエリアにあるものにピントを合わせます。
マクロ	被写体までの距離が約10～50cmのときに使用します。シャッターボタンを半押ししたときに、AFエリアにあるものにピントを合わせます。
スーパーマクロ	被写体までの距離が約4～30cmのときに使用します。シャッターボタンを半押ししたときに、AFエリアにあるものにピントを合わせます。
PF パンフォーカス	他の人に撮ってもらうときや、車や電車の窓越しに外の風景を撮るときなどに使用します。手前から奥までピントが合うようになります。
▲ 無限遠	遠くにあるものを撮影するときに使用します。ストロボは（発光禁止）になります。
MF マニュアルフォーカス	手動でピントを合わせます。

1 モードで十字キー（▶）を押す

「フォーカスモード」画面が表示されます。押すたびにフォーカスモードが切り替わります。十字キー（▲▼）でも切り替えられます。

2 OKボタンを押す

設定が保存され、撮影できる状態になります。

3 撮影

- ●（グリーン）モードでは、**AF**／🌷／**PF**のみ選択できます。
- ※（花火）モードは▲に固定されます。
- **AF**を選択し、被写体までの距離が40cmより近いと、自動的に10cmからのピント合わせが行われます（オートマクロ）。その場合は、画像モニターに🌷が表示されます。
- 🌷を選択して撮影する場合、被写体までの距離が50cmより遠いと、自動的に∞（無限遠）までのピント合わせが行われます。また、ピントが合っていなくても、シャッターを全押しすると撮影できます。

フォーカスモードの設定を保存する ☞p.131

手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）

1 📷モードで十字キー（▶）を押す

「フォーカスモード」画面が表示されます。

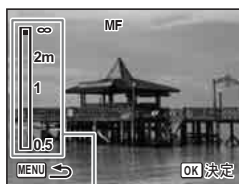
2 十字キー（▶）でMFを選ぶ

3 OKボタンを押す

画面中央部が画像モニターいっぱいに拡大して表示されます。

4 十字キー（▲▼）でピントを合わせる

画像モニターに**MF**バーが表示され、おおよその距離が表示されます。これを目安にピントを合わせます。

▲　遠くにピントが合う
▼　近くにピントが合う

MFバー

5 OKボタンを押す

フォーカス位置が決定し、撮影できる状態になります。
フォーカス位置を決定させた後、もう一度十字キー(▶)を押すと、MFバーが表示され、ピントを合わせ直すことができます。

MFバーが表示されている間は、撮影モードやドライブモードを変更できません。

MFから他のフォーカスモードに切り替えるときは、MFバーが表示されている間に十字キー(▶)を押します。

3 撮影

オートフォーカス範囲を設定する(AFエリア)

オートフォーカスの対象となる範囲(AFエリア)を設定します。

[ ] マルチ	通常範囲に設定します。
[] スポット	フォーカスが合う範囲を狭くします。
自動追尾	動き回る被写体にフォーカスを合わせ続けます。

1 モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

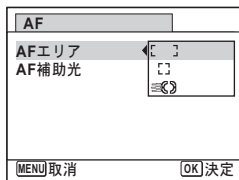
2 十字キー(▲▼)で「AF」を選ぶ

3 十字キー(▶)を押す

「AF」画面が表示されます。

4 十字キー(▶)を押す

ポップアップが表示されます。

5 十字キー(▲▼)でAFエリアを選ぶ

6 OK ボタンを押す

設定が保存されます。

7 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

- 🎥（動画）／▢（フレーム合成）モードでは、≡⟨⟩は選択できません。
- ●（グリーン）／AUTO PICT（オートピクチャー）モードでは、［ ］に固定されます。
- 「AFエリア」の設定をよく変更する場合は、グリーンボタンに登録しておくとすぐに呼び出せます（p.123）。

AF補助光を設定する

AF補助光は、周囲が暗い場合に自動的に発光します。AF補助光のオン／オフを設定します。

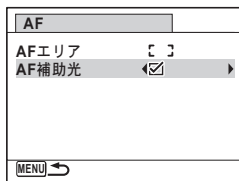
1 📷モードでMENUボタンを押す

「📷撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「AF」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「AF」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で「AF補助光」を選ぶ

5 十字キー（◀▶）で「☑（オン）／□（オフ）」を切り替える

設定が保存されます。

6 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

AF補助光を直接見ても安全上の問題はありませんが、多少まぶしく感じますので、発光部を至近距離から直接のぞきこむことはしないでください。

- 次の場合、AF補助光は発光しません。
  - （動画）／（花火）モード時
  - フォーカスモードが、PF（パンフォーカス）、▲（無限遠）、MF（マニュアルフォーカス）のいずれかのとき
- （ペット）モード時の初期設定は□（オフ）です。

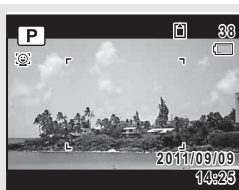
3 撮影

記録サイズを選択する

静止画の記録サイズ（横×縦の画素数）を6種類から選択できます。
記録サイズが大きいほど、プリントしたときに、より鮮明な画像が得られます。ただし、写真の美しさ、鮮明さは画質や露出制御、使用するプリンターの解像度なども関係するので、むやみに大きくする必要はありません。記録サイズが大きくなるほど、画像が大きくなりファイルサイズも増えます。
次の表を参考に、用途に応じて適切な「記録サイズ」を設定してください。

記録サイズ		用途（↑鮮明、きれい）
16M	4608×3456	フォトプリントなどの高画質印刷、A4以上の大判プリント、画像編集などの加工用など
12M 1:1	3456×3456	
12M 16:9	4608×2592	
7M	3072×2304	はがきサイズプリントなど
2M 16:9	1920×1080	ハイビジョンテレビと同じアスペクト比による、自然な広がり感の表現など
640	640× 480	ホームページ掲載、電子メール添付など

初期設定は、16Mです。

12M 16:9 または 2M 16:9 を選ぶと、画像の横縦比が16：9になり、撮影／再生時の画像モニターの表示は右のようになります。

1 モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「記録サイズ」を選ぶ

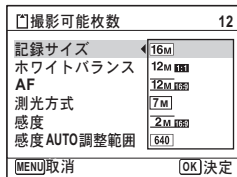
3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4 十字キー（▲▼）で記録サイズを選ぶ

撮影可能枚数 12

記録サイズ 16M
ホワイトバランス 12M 1:1
AF 12M 16:9
測光方式 7M
感度 2M 16:9
感度AUTO調整範囲 640

MENU取消 OK決定

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

6 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

- （グリーン）モードで撮影した画像は、16M に固定されます。
- （フレーム合成）モードで撮影した画像は、3M に固定されます。
- （高感度）／ WIDE （デジタルワイド）モードで撮影した画像は、5M に固定されます（2枚目の撮影をせずにデジタルワイドを終了した場合は 3M になります）。
- 「記録サイズ」の設定をよく変更する場合は、グリーンボタンに登録しておくとすぐに呼び出せます（p.123）。

3
撮影

露出を補正する

撮影する画像全体の明るさを調整します。
意図的に露出をオーバー（明るく）やアンダー（暗く）にして撮影するときに利用します。

1 ◘モードでMENUボタンを押す

「◘撮影」メニューが表示されます。

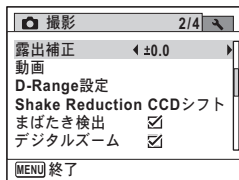
2 十字キー（▲▼）で「露出補正」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）で補正量を選ぶ

明るくする場合は+側、暗くする場合は–側に設定します。
露出補正の値は、–2.0～+2.0EVの範囲を1/3EV単位で選択できます。

4 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

メモ

- 静止画撮影／再生モードでヒストグラムを表示すると、露出が適切かどうかを確認できます（p.28）。
- ●（グリーン）／AUTO PICT（オートピクチャー）モードでは、露出補正は使用できません。
- 「露出補正」の設定をよく変更する場合は、グリーンボタンに登録しておくとすぐに呼び出せます（p.123）。

露出補正の設定を保存する ☞p.131

明るさを補正する（D-Range設定）

表現できる階調の幅を広げて白とび・黒つぶれを防ぎます。明るすぎる部分を補正して白とびを防ぐ「ハイライト補正」と、暗すぎる部分を補正して黒つぶれを防ぐ「シャドー補正」があります。

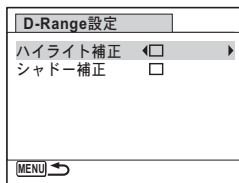
1 Aモードで MENU ボタンを押す

「A 撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「D-Range 設定」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「D-Range設定」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）でハイライト補正／シャドー補正を選ぶ

5 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

6 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。
画像モニターにはD-Range設定のアイコンが表示されます。

DH	「ハイライト補正」が☑に設定されているとき
DS	「シャドー補正」が☑に設定されているとき
D	「ハイライト補正」と「シャドー補正」の両方が☑に設定されているとき

- 「ハイライト補正」を☑に設定すると、最低感度は160になります。
- ハイライト補正／シャドー補正の設定をよく変更する場合は、グリーンボタンに登録しておくとすぐに呼び出せます（p.123）。

ホワイトバランスを調整する

撮影時の光の状態に応じて、画像を自然な色合いに調整します。

AWB オート	カメラが自動的に調整します。
太陽光	太陽の下で撮影するときに設定します。
日陰	日陰で撮影するときに設定します。
白熱灯	電球など白熱灯で照明されたものを撮影するときに設定します。
蛍光灯	蛍光灯で照明されたものを撮影するときに設定します。
マニュアル	手動で調整して撮影するときに設定します。

- ホワイトバランスを **AWB** に設定して撮影した画像がお好みの色合いでない場合には、ホワイトバランスを**AWB**以外に設定してください。
- 撮影モードによっては、ホワイトバランスが変更できない場合があります。詳しくは「各撮影モードの機能対応」(p.224)をご覧ください。

1 モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「ホワイトバランス」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「ホワイトバランス」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で設定を選ぶ

設定を切り替えるたびに、選んだ色合いで画像モニターが表示されます。

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

6　MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。
マニュアルで設定する場合は、下記の「マニュアルで設定する」をご覧ください。

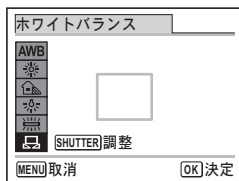
「ホワイトバランス」の設定をよく変更する場合は、グリーンボタンに登録しておくとすぐに呼び出せます（p.123）。

ホワイトバランスの設定を保存する ☞p.131

マニュアルで設定する

あらかじめ、白い紙などホワイトバランスの調整に用いる素材を用意しておきます。

1　「ホワイトバランス」画面で十字キー（▲▼）を押し、（マニュアル）を選ぶ

2　調整に用いる素材にレンズを向け、画像モニター中央に表示されている枠の中いっぱいに素材が入るよう、カメラを構える

3　シャッターボタンを全押しする

ホワイトバランスが自動的に調整されます。

4　OKボタンを押す

設定が保存され、「撮影」メニューに戻ります。

5　MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

測光方式を設定する

画面のどの部分で明るさを測り、露出を決めるのかを設定します。

🔲	分割測光	画面内を256分割して明るさを測り、露出を決めます。
⦾	中央重点測光	画面の中央に重点を置きつつ、画面全体の明るさを均等に測って露出を決めます。
⊡	スポット測光	画面の中央だけの明るさを測り、露出を決めます。

1 📷モードでMENUボタンを押す

「📷撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「測光方式」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

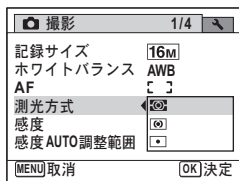
4 十字キー（▲▼）で測光方式を選ぶ

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

6 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

3 撮影

- シャッターボタンを半押ししたときに測光が行われ、露出が決定します。
- 画面の中央にない被写体を「スポット測光」を利用して適正露出で撮影したいときは、いったん被写体を画面中央に置き、シャッターボタンを半押しして露出を固定してからカメラを動かし、撮りたい構図を決めます。
- 撮影モードによっては、測光方式が変更できない場合があります。詳しくは「各撮影モードの機能対応」（p.224）をご覧ください。
- 「測光方式」の設定をよく変更する場合は、グリーンボタンに登録しておくとすぐに呼び出せます。（p.123）

測光方式の設定を保存する ☞p.131

感度を設定する

撮影する場所の明るさに応じて、感度を設定することができます。

AUTO	設定をカメラにまかせます（感度 80～1600）。
80	↑ 感度が低い（数字が小さい）ほど、ノイズの少ない画像が得られます。暗い場所ではシャッタースピードが遅くなります。
100	
200	
400	
800	
1600	
3200	
6400	↓ 感度が高い（数字が大きい）ほど、暗い場所でもシャッタースピードを速くできます。画像にはノイズが増えます。

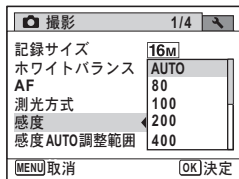
1 Ａモードで MENU ボタンを押す

「Ａ撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「感度」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4 十字キー（▲▼）で感度を選ぶ

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

6 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

- 感度を3200／6400に設定すると、記録サイズは5M（2592×1944）に固定されます。
- ●（グリーン）／動画（動画）モードに設定されているときは、「AUTO」（感度80～800）のみになります。
- （高感度）モードに設定されているときは、「AUTO」（感度80～6400）のみになります。
- （花火）モードに設定されているときは、最低感度に固定されます。
- 「感度」の設定をよく変更する場合は、グリーンボタンに登録しておくとすぐに呼び出せます（p.123）。

感度の設定を保存する ☞p.131

感度AUTO調整範囲を設定する

感度で「AUTO」を選択した場合の感度の範囲設定を行います。
80-100／80-200／80-400／80-800／80-1600の5種類から選択できます。

1 ◘モードでMENUボタンを押す

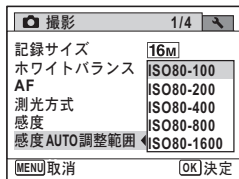
「◘撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「感度AUTO調整範囲」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4 十字キー（▲▼）で調整範囲を選ぶ

撮影 1/4
記録サイズ 16M
ホワイトバランス
AF
測光方式
感度
感度AUTO調整範囲
ISO80-100
ISO80-200
ISO80-400
ISO80-800
ISO80-1600
MENU 取消
OK 決定

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

6 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

D-Range設定の「ハイライト補正」が☑（オン）の場合は、160-200／160-400／160-800／160-1600の4種類から選択します。

まばたき検出を設定する

顔検出機能が働いたときに、まばたき検出を行うかどうかを設定します。初期設定は☑（オン）です。

1 📷モードでMENUボタンを押す

「📷撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「まばたき検出」を選ぶ

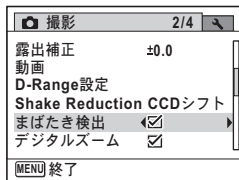
3 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

- ☑ まばたきを検出する
- □ まばたきを検出しない

設定が保存されます。

4 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

まばたき検出 ☞p.69

手ぶれ補正を設定する

撮影時の手ぶれを補正することができます。光学補正のみ（CCDシフト）、もしくは光学補正と電子補正の両方を使って手ぶれを補正することができます（デュアル）。初期設定は、光学補正のみ（CCDシフト）です。

CCDシフト	光学手ぶれ補正のみ行います。
デュアル	光学手ぶれ補正と電子手ぶれ補正の両方を行います。
オフ	光学手ぶれ補正も電子手ぶれ補正も行いません。

メモ

（動画）の手ぶれ補正は、Movie SRで行います（p.130）。

1 モードでMENUボタンを押す

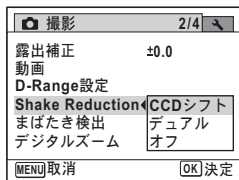
「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「Shake Reduction」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4 十字キー（▲▼）で設定を選ぶ

撮影 2/4
露出補正 ±0.0
動画
D-Range設定
Shake Reduction CCDシフト
まばたき検出 デュアル
デジタルズーム オフ
MENU 取消 OK 決定

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

6 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。
画像モニターに次のアイコンが表示されます。

AUTO	「Shake Reduction」が「CCDシフト」または「デュアル」に設定されていて、シャッターボタンを半押ししたとき

「Shake Reduction」が「オフ」に設定されているとき（手ぶれの危険性があるときは、シャッターボタンを半押ししたときに⚠が表示されます。）

- デュアルに設定した場合、撮影後に手ぶれ補正処理を行ってから画像が保存されます。
- 「CCDシフト」に設定していると、（連写H）での撮影中にCCDが動作する音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

注意

以下のときには、「Shake Reduction」を「デュアル」に設定できません（ポップアップの選択肢も、「CCDシフト」と「オフ」のみになります）。また「デュアル」に設定されている場合に、以下の条件になると、自動的に「CCDシフト」に切り替わります。

- 撮影モードが（動画）／（花火）／（フレーム合成）／WIDE（デジタルワイド）／（パノラマ）のとき
- ドライブモードが（セルフタイマー）／（連続撮影）／（連写L）／（連写M）／（連写H）のとき
- ストロボが発光するとき
- シャッタースピードが1/4秒より遅いとき
- 感度を1600以上に設定しているとき
- ボイスレコーディングのとき

クイックビューを設定する

撮影直後に画像を表示するクイックビューを表示するかしないかを設定します。初期設定は☑（オン）です。

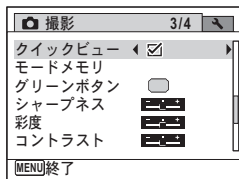
1 モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「クイックビュー」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑　クイックビューを表示する

□　クイックビューを表示しない

3 撮影

4 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

クイックビュー ☞p.69

撮影時にまばたき検出が行われた場合は、クイックビュー時に「目を閉じていました」と3秒間表示されます。

シャープネスを設定する

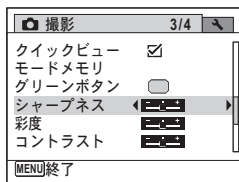
画像の輪郭をハードまたはソフトにします。

1 📷モードでMENUボタンを押す

「📷撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「シャープネス」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）でシャープネスの強さを切り替える

- ソフト
- 標準
- ハード

4 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

「シャープネス」の設定をよく変更する場合は、グリーンボタンに登録しておくとすぐに呼び出せます（p.123）。

彩度を設定する

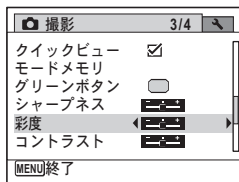
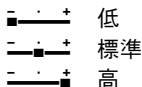
色の鮮やかさを設定します。

1 📷モードでMENUボタンを押す

「📷撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「彩度」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）で彩度の高さを切り替える

低
標準
高

4 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

メモ 「彩度」の設定をよく変更する場合は、グリーンボタンに登録しておくとすぐに呼び出せます（p.123）。

コントラストを設定する

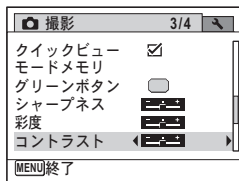
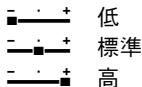
画像の明暗差の度合いを設定します。

1 📷モードでMENUボタンを押す

「📷撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「コントラスト」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）でコントラストの高さを切り替える

低
標準
高

4 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

メモ 「コントラスト」の設定をよく変更する場合は、グリーンボタンに登録しておくとすぐに呼び出せます（p.123）。

日付写し込みを設定する

静止画撮影時に日付と時刻を写し込むかどうかを設定します。

1 A モードでMENUボタンを押す

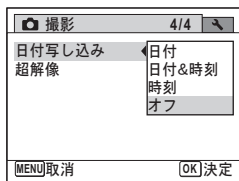
「A 撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「日付写し込み」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4 十字キー（▲▼）で写し込む内容を選ぶ

日付／日付＆時刻／時刻／オフから選択します。

5 OK ボタンを押す

設定が保存されます。

6 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

注意

- 「日付写し込み」で画像に写し込んだ日付／時刻は、あとから消去できません。
- 日付／時刻を写し込んだ画像を印刷するときに、画像編集ソフトなどで日付を印刷するように設定すると、日付／時刻が重なって印刷されます。

メモ

- 「日付写し込み」を設定すると、A モードのときに画像モニターに DATE と表示されます。
- 日付／時刻は、「日時を設定する」（p.48）で設定した表示スタイルで写し込まれます。

超解像処理を行うかどうか設定する

超解像技術を応用した画像処理によって、より解像感のある画像を撮影できます。

1 Aモードで MENU ボタンを押す

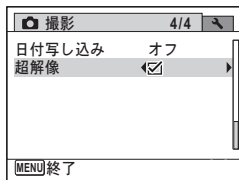
「A撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「超解像」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

☑（オン）　超解像処理をする

□（オフ）　超解像処理をしない

設定が保存されます。

4 MENU ボタンを押す

撮影できる状態になります。

以下の場合は、超解像はオフ固定となります。

- 感度が3200または6400のとき
- 撮影モードが（高感度）のとき
- ドライブモードが（連写L）／（連写M）／（連写H）のとき

グリーンボタンを設定する

●ボタンに●（グリーン）モード（p.76）／ボイスレコーディング（p.180）／動画（p.127）／Fn設定のいずれかの機能を登録できます。●ボタンを押すだけで、登録されている機能に切り替わります。

グリーンモード	●ボタンを押すと、●（グリーン）モードで撮影できます。（初期設定）
ボイスレコーディング	●ボタンを押すと、音声を記録できます。
動画	●ボタンを押すと、動画を撮影できます。

3 撮影

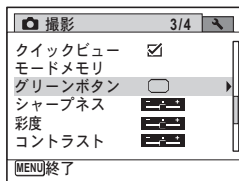
Fn設定	●ボタンを押すと、十字キー（▲▼◀▶）に割り当てた機能が利用できます。よく使う機能を十字キーに割り当てておくと、撮影時に簡単に設定が変更できます。 **MENU**ボタンを押す前の撮影モードによって、設定できる機能が異なります。 • 静止画撮影モードで**MENU**ボタンを押したとき：静止画撮影時の機能を割り当て • 動画撮影モードで**MENU**ボタンを押したとき：動画撮影時の機能を割り当て

Fn設定の初期設定

十字キー	静止画撮影時	動画撮影時
▲	露出補正	Movie SR
▼	記録サイズ	露出補正
◀	感度	記録サイズ
▶	ホワイトバランス	ホワイトバランス

1 ◘モードでMENUボタンを押す

「◘撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「グリーンボタン」を選ぶ

●ボタンを押して切り替えた🎥モードでは、「◘撮影」メニューの「グリーンボタン」の設定ができません。🎥以外の撮影モードに切り替えてから設定してください。

3 十字キー（▶）を押す

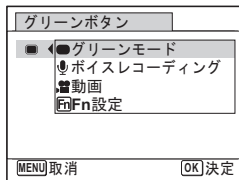
「グリーンボタン」画面が表示されます。

メモ

「Ｆｎ設定」が登録済みの場合は、さらにもう1回十字キー（▶）を押してください。

4　十字キー（▲▼）で登録する機能を選び、OKボタンを押す

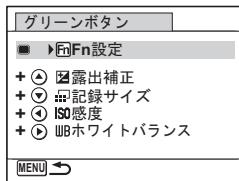
「グリーンモード」「ボイスレコーディング」「動画」を選んだ場合は、設定が保存されます。
「Fn設定」を選んだ場合は、手順6に進んでください。

グリーンボタン
グリーンモード
ボイスレコーディング
動画
Fn設定
MENU 取消　OK 決定

5　MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

Fn設定を選んだ場合

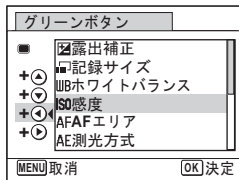
6　十字キー（▲▼）で登録するキーを選ぶ

グリーンボタン
Fn設定
＋▲ 露出補正
＋▼ 記録サイズ
＋◀ ISO感度
＋▶ WBホワイトバランス
MENU

7　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

8　十字キー（▲▼）で登録する機能を選ぶ

以下の機能が登録できます。

グリーンボタン
露出補正
記録サイズ
WBホワイトバランス
ISO感度
AFエリア
AE測光方式
MENU 取消　OK 決定

静止画撮影時機能	記録サイズ／ホワイトバランス／AFエリア／測光方式／ハイライト補正／シャドー補正／感度／露出補正／シャープネス／彩度／コントラスト
動画撮影時機能	記録サイズ／Movie SR／ホワイトバランス／AFエリア／露出補正／シャープネス／彩度／コントラスト

9 OKボタンを押す

設定が保存されます。
他のキーも登録する場合は、手順6～9を繰り返します。

10 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

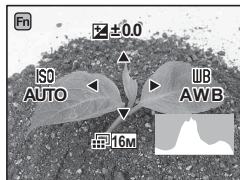
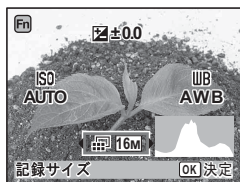
メモ　各キーに登録できる機能は、ひとつだけです。

3
撮影

Fn設定の使いかた

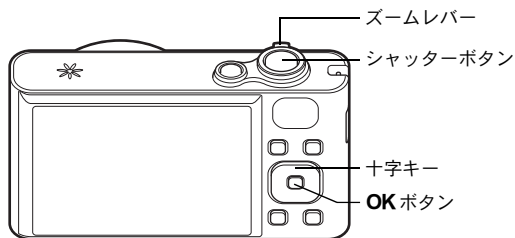
1 📷モードで●ボタンを押す

Fn画面にFn設定で登録した機能が表示されます。
●ボタンを押す前の状態が静止画撮影モードか動画撮影モードかによって、表示される機能が異なります。

2 十字キー（▲▼◀▶）で変更したい機能を選択する

3 十字キー（▲▼）または十字キー（◀▶）で設定を変更する

4 OKボタンを押す

設定が保存され、撮影できる状態になります。

動画を撮影する

動画を撮影します。音声も同時に記録されます。

1 ◘モードで十字キー（▼）を押す

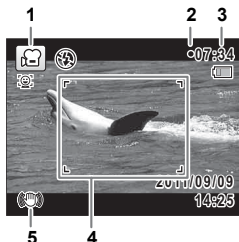
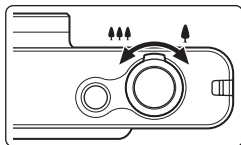
撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で🎥（動画）を選ぶ

3 OK ボタンを押す

🎥モードになり、撮影できる状態になります。

画像モニターに次の情報が表示されます。

1 動画モードアイコン
2 録画中アイコン（録画中に点滅）
3 撮影可能時間
4 フォーカスフレーム（録画中は表示されません）
5 手ぶれ補正アイコン

ズームレバーを左右に回すと、被写体の写る範囲が変わります。
右（♠） 被写体を拡大して写す
左（♠♠♠） 被写体を広い範囲で写す

4 シャッターボタンを全押しする

録画が開始されます。録画は連続で内蔵メモリー／SDメモリーカードの容量いっぱい、または最大で2GBまで可能です。

5 シャッターボタンを全押しする

録画が終了します。

動画を再生する ☞p.135

- ストロボは発光しません。
- フォーカスモードは、撮影開始前に変更することができます。
- フォーカスモードを**MF**（マニュアルフォーカス）に設定している場合は、撮影開始前にピントを調整することができます。
- 光学ズームとデジタルズームは、撮影開始前に使うことができます。デジタルズームは撮影中にも使うことができます。
- 動画撮影中は、**OK**/**DISPLAY** ボタンを使って画像モニターの表示を切り替えても、ヒストグラムは表示されません。
- 撮影モードを 🎥 にすると、顔検出機能がオンになります。動画の撮影を開始する前に ☺ ボタンを押して、スマイルキャッチ機能を選択するか、または顔検出機能をオフにできます（p.72）。スマイルキャッチ機能が選択されている場合は、笑顔を検出すると自動的に動画の撮影が開始されます。ただし検出した顔の条件によっては「スマイルキャッチ」機能が働かず、自動的に動画の撮影が開始されないことがあります。その場合は、シャッターボタンを押すと撮影が開始されます。
- リモコン（別売）を使って撮影することもできます（p.95）。

シャッターボタンを押し続けて撮影する

シャッターボタンを1秒以上押し続けると、シャッターボタンを押し続けている間だけ動画が撮影されます。シャッターボタンから指を離すと撮影が終了します。

動画の記録サイズとフレームレートを選択する

動画の記録サイズとフレームレートを選択できます。
「記録サイズ」が大きいほど鮮明な画像になりますが、ファイルサイズが増えます。また、「フレームレート」が大きい方が滑らかな動きになりますが、ファイルサイズが増えます。

設定	記録サイズ	フレームレート	用途
1280 30	1280×720	30fps	ハイビジョンサイズ（16：9）で記録されます。動きが滑らかに記録されます。（初期設定）
1280 15	1280×720	15fps	ハイビジョンサイズ（16：9）で記録されます。画像の容量が小さいため、長く記録できます。
640 30	640×480	30fps	テレビやパソコンの画面で見るときに適しています。動きが滑らかに記録されます。
640 15	640×480	15fps	テレビやパソコンの画面で見るときに適しています。画像の容量が小さいため、長く記録できます。
320 30	320×240	30fps	電子メール添付やホームページ掲載に適しています。動きが滑らかに記録されます。
320 15	320×240	15fps	電子メール添付やホームページ掲載に適しています。画像の容量が小さいため、長く記録できます。

※ フレームレート（fps）は1秒あたりのコマ数を表します。

1 撮影モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「動画」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

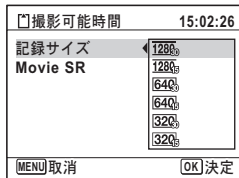
「動画」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で「記録サイズ」を選ぶ

5 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

6 十字キー（▲▼）で記録サイズとフレームレートを選ぶ

撮影可能時間 15:02:26
記録サイズ 1280 30
Movie SR 1280 15
640 30
640 15
320 30
320 15
MENU 取消 OK 決定

7 OKボタンを押す

設定が保存されます。

8 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

動画の手ぶれ補正を設定する（Movie SR）

動画モードでは、Movie SR（動画手ぶれ補正）で動画撮影中の手ぶれを補正することができます。

1 撮影モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「動画」を選ぶ

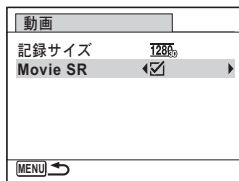
3 十字キー（▶）を押す

「動画」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で「Movie SR」を選ぶ

5 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑　手ぶれを補正する
□　手ぶれを補正しない

設定が保存されます。

6 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

設定を保存する（モードメモリ）

カメラの電源を切っても、カメラの設定を記憶しておく機能を「モードメモリ」と呼びます。
撮影のための設定には、モードメモリが常にオンのもの（電源を切っても常に設定を記憶するもの）と、モードメモリのオン／オフが選べるもの（電源を切ったときに設定を記憶するかどうかを選べるもの）があります。モードメモリのオン／オフが選べる項目を表に示します（ここに示した項目以外は、電源を切っても常に設定が保存されます）。
☑（オン）を選ぶと、電源を切る直前の設定状態が保存されます。□（オフ）を選ぶと、電源を切ったときにその項目の設定が工場出荷時の状態に戻ります。表では、モードメモリの初期設定がオンかオフかも示しています。

項目	内容	初期設定	参照
顔検出モード	顔検出ボタンで設定した顔検出モード	□	p.72
ストロボモード	十字キー（◀）で設定したストロボモード	☑	p.102
ドライブモード	十字キー（▲）で設定したドライブモード	□	p.92 p.93
フォーカスモード	十字キー（▶）で設定したフォーカスモード	□	p.104
ズーム位置	ズームレバーで設定したズーム位置	□	p.78
MF位置	十字キー（▲▼）で設定したマニュアルフォーカスでのピントの合う距離	□	p.105
ホワイトバランス	「撮影」メニューの「ホワイトバランス」の設定	□	p.112
感度	「撮影」メニューの「感度」で設定した値	□	p.115
露出補正	「撮影」メニューの「露出補正」で設定した値	□	p.110
測光方式	「撮影」メニューの「測光方式」の設定	□	p.114
デジタルズーム	「撮影」メニューの「デジタルズーム」の設定	☑	p.80
DISPLAY	**OK/DISPLAY** ボタンで設定した画像モニターの情報表示状態	□	p.22
ファイルNo.	オンにすると、SDメモリーカードを入れ替えた場合でも連続したファイル番号を使用	☑	—

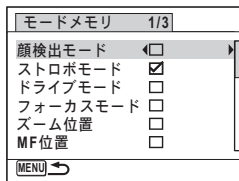
1 📷モードでMENUボタンを押す

「📷撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「モードメモリ」を選ぶ

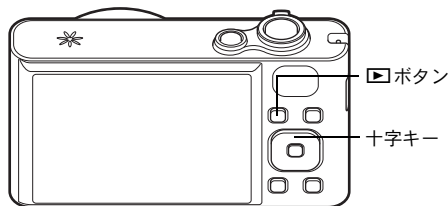
3 十字キー（▶）を押す

「モードメモリ」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で項目を選ぶ

5 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

6 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

3
撮影

4 画像の再生と消去

再生する

静止画を再生する

1 **撮影後に▶ボタンを押す**

▶モードになり、撮影した画像が画像モニターに表示されます（1画面表示）。

前後の画像を再生する

2 **十字キー（◀▶）を押す**

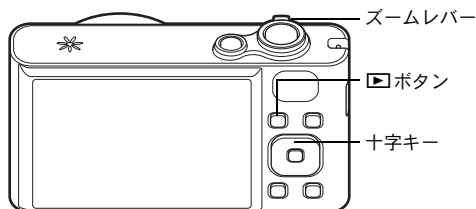
前後の画像が表示されます。

表示した画像を消去する

画像表示中に🗑ボタンを押すと、表示中の画像を消去する画面が表示されます。十字キー（▲）を押して「消去」を選び**OK**ボタンを押すと、表示中の画像を消去できます。

その他の消去のしかた ☞p.148

動画を再生する

動画を再生します。動画再生時には、音声も同時に再生されます。

1 モードで十字キー（◀▶）を押し、再生したい動画を選ぶ

2 十字キー（▲）を押す

再生が開始します。

再生中にできる操作

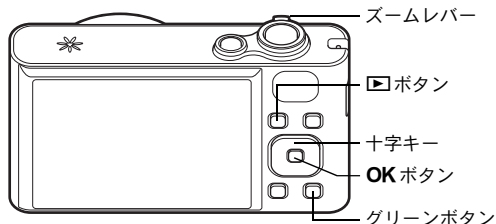
ズームレバー 右（🔍）	音量を大きくする
ズームレバー 左（▦）	音量を小さくする
十字キー（▲）	一時停止
十字キー（▶）長押し	押している間、早送り再生
十字キー（◀）	逆方向に再生
十字キー（◀）長押し	押している間、早戻し再生

一時停止中にできる操作

十字キー（▲）	再生を再開
十字キー（▶）	コマ送り
十字キー（◀）	コマ戻し

3 十字キー（▼）を押す

再生が停止します。

複数の画像を表示をする

4画面表示／9画面表示

複数の画像を同時に4枚または9枚ずつ画像モニターに表示します。

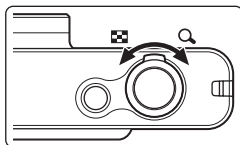
1 モードでズームレバーを左（）に回す

4画面表示になり、画像が4コマずつ1ページに表示されます。もう一度ズームレバーを左（）に回すと、9画面表示になります。

画像は4コマまたは9コマずつ1ページに表示され、ページ単位で表示される画像が切り替わります。
十字キー（▲▼◀▶）で選択枠が移動します。1ページに表示されていない画像がある場合は、①の画像を選択しているときに十字キー（▲◀）を押すと前のページが表示され、②の画像を選択しているときに十字キー（▼▶）を押すと次のページが表示されます。

4画面表示

9画面表示

4
画像の再生と消去

画像に表示される記号の意味は次のとおりです。

（無印）	音声なしの静止画
🎥	動画（1コマ目の画像を表示）
🎙（画像あり）	音声付きの静止画
🎙（画像なし）	音声のみのファイル

OK ボタンを押すと、選択した画像の1画面表示に切り替わります。
▶ボタンを押すと、📷モードに切り替わります。

フォルダー表示／カレンダー表示

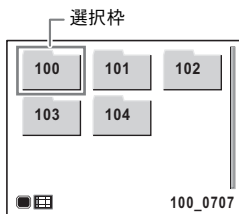
9画面表示でズームレバーを左（⊞）に回すと、フォルダー表示またはカレンダー表示に切り替わります。フォルダー表示とカレンダー表示は、グリーンボタンで切り替えます。

1 ▶モードで、ズームレバーを左（⊞）に3回回す

画面がフォルダー表示またはカレンダー表示に切り替わります。

フォルダー表示

画像や音声が記録されているフォルダーが一覧表示されます。

十字キー（▲▼◀▶）	選択枠を移動
ズームレバー右（🔍）／**OK** ボタン	フォルダー内の画像を9画面表示
MENU ボタン	9画面表示に戻る

カレンダー表示
画像や音声が、日付ごとにカレンダー形式で表示されます。
カレンダーには、各日付で撮影された最初の画像が表示されます。
その日付で最初に記録されているのが音声だけのデータの場合は、🎙が表示されます。

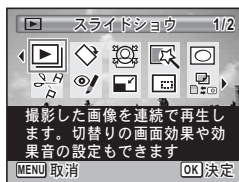
十字キー（▲▼◀▶）	選択枠を移動
ズームレバー右（Q）	その日付で撮影した画像を9画面表示
OK ボタン	その日付で最初に撮影した画像を1画面表示
MENU ボタン	9画面表示に戻る

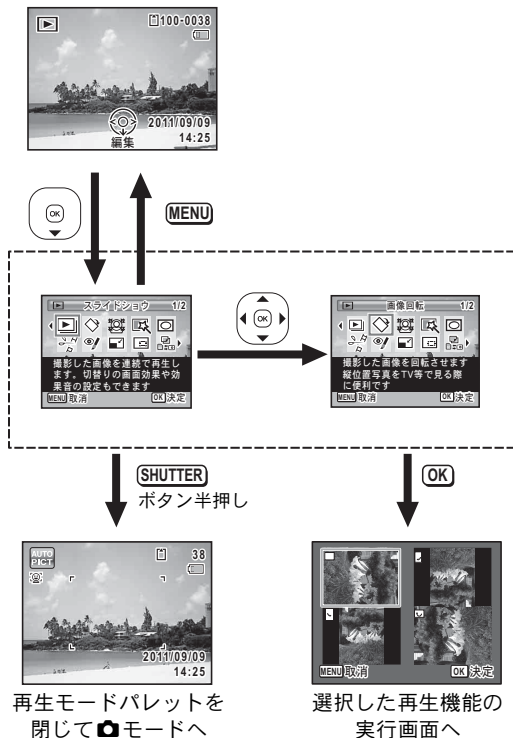
再生機能を使う

1 ▶モードで十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）でアイコンを選ぶ

選択した機能の説明が下に表示されます。

3 OK ボタンを押す

再生機能が呼び出されます。

再生モードパレット一覧

<table>
<tr><th colspan="3">再生モード</th><th>内容</th><th>参照</th></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">スライドショウ</td><td>撮影した画像を連続で再生します。切り替わりの画面効果や効果音の設定もできます。</td><td>p.141</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">画像回転</td><td>撮影した画像を回転させます。縦位置写真をTVなどで見る際に便利です。</td><td>p.143</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">小顔フィルター</td><td>検出した顔が小さくなるように画像を加工します。</td><td>p.160</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">デジタルフィルター</td><td>撮影した画像にカラーフィルターやソフトフィルターをかけて仕上げます。</td><td>p.162</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">フレーム合成</td><td>撮影した画像にフレームを付けて保存します。上書きまたは新規保存が選べます。</td><td>p.167</td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">動画編集</td><td>静止画保存</td><td>動画の1コマを静止画として保存します。</td><td rowspan="2">p.171</td></tr>
<tr><td>動画分割</td><td>1つの動画を2つに分割します。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">赤目補正</td><td>赤目になった画像を修正します。元画像によっては正しく補正できない場合があります。</td><td>p.166</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">リサイズ</td><td>撮影した画像の記録サイズと画質を変更して、ファイルサイズを小さくします。</td><td>p.158</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">トリミング</td><td>画像の不要な部分を削除して好みの大きさに変更します。新規保存されます。</td><td>p.159</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">画像/音声コピー</td><td>内蔵メモリーとSDメモリーカード間で画像や音声のファイルをコピーします。</td><td>p.173</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">ボイスメモ</td><td>撮影した画像に音声を付けます。カードの空き容量分の録音ができます。</td><td>p.184</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">プロテクト</td><td>消したくない画像や音声を保護します。ただしフォーマットを行うと、消去されます。</td><td>p.152</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">DPOF</td><td>撮影した画像の印刷設定をします。お店でプリントする際に便利です。</td><td>p.176</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">起動画面設定</td><td>撮影した画像をカメラの起動時に表示するよう設定します。</td><td>p.202</td></tr>
</table>

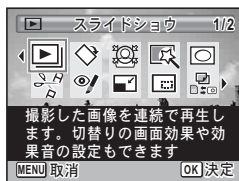
スライドショウで連続再生する

保存されている画像を連続して再生します。

1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、スライドショウを開始する画像を選ぶ

2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で▶（スライドショウ）を選ぶ

4 OK ボタンを押す

スライドショウの設定画面が表示されます。

5 十字キー（▲▼）で「スタート」を選ぶ

6 OK ボタンを押す

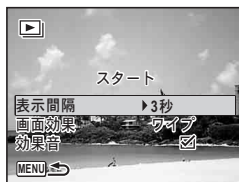
スライドショウが始まります。
スライドショウの途中で**OK**ボタンを押すと、一時停止します。もう一度**OK**ボタンを押すと再開します。

7 OK ボタン以外のどれかのボタンを押す

スライドショウが終了します。

スライドショウの条件を設定する

再生時の表示間隔と画像切り替え時の画面効果と効果音を設定します。

1 **p.141の手順5の画面で十字キー（▲▼）を押し、「表示間隔」を選ぶ**

2 **十字キー（▶）を押す**

ポップアップが表示されます。

3 **十字キー（▲▼）で表示間隔を選び、OKボタンを押す**

3秒／5秒／10秒／20秒／30秒から選択します。

4 **十字キー (▲▼)で「画面効果」を選ぶ**

5 **十字キー（▶）を押す**

ポップアップが表示されます。

6 **十字キー (▲▼)で画面効果を選び、OKボタンを押す**

ワイプ	左から右へ画面が流れる効果
チェッカー	小さな四角のモザイク状のブロックで画面が切り替わる効果
フェード	現在の画像が徐々に消え、そこに次の画像が浮かび上がってくる効果
ランダム	様々な効果をランダムに
オフ	切り替え効果なし

7 **十字キー（▲▼）で「効果音」を選ぶ**

8 **十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える**

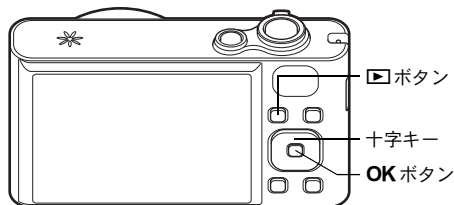
「画面効果」を「オフ」以外に設定すると、画面が切り替わるときに流れる音のオン／オフを切り替えることができます。

9 十字キー（▲▼）で「スタート」を選び、OK ボタンを押す

設定した表示間隔と画面効果でスライドショウが始まります。

- スライドショウは、OK ボタン以外のいずれかのボタンを押して終了するまで何度も繰り返します。
- 動画や音声付き画像は表示間隔の設定にかかわらず、すべて再生されてから次の画像に移ります。ただし、動画の再生中や音声付き画像の音声再生中に十字キー（▶）を押すと、すぐに次の画像へ移ります。
- ボイスレコーディングで録音した音声は、スライドショウでは再生されません。
- スライドショウの再生にパノラマ画像が含まれる場合は、パノラマ画像は表示間隔や画面効果の設定にかかわらず、4秒間かけて左から右へスライド表示されます。
- 画面効果を「ランダム」に設定したときには、表示間隔は固定され、効果音もオフになります。また、音声付き静止画の音声は再生されません。

AV機器と接続する ☞p.155

画像を回転表示する

1 撮影後に ▶ ボタンを押す

撮影した画像が画像モニターに表示されます。

2 十字キー（▼）を押す

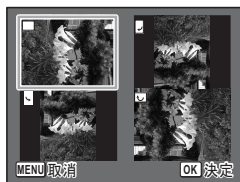
再生モードパレットが表示されます。

3　十字キー（▲▼◀▶）で ◇（画像回転）を選ぶ

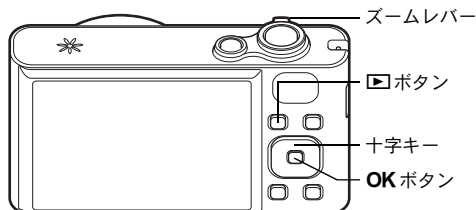
4　OKボタンを押す

回転方向を4種類（0／右90／左90／180°）から選ぶ画面が表示されます。

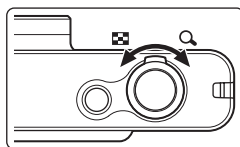
5　十字キー（▲▼◀▶）で回転方向を選び、OKボタンを押す

回転した状態で画像が保存されます。

- パノラマ撮影された画像や動画は回転表示できません。
- プロテクトされた画像は、回転表示はできますが、回転された状態は保存されません。

再生画像を拡大する

画像を再生するときに、最大10倍まで拡大表示できます。

1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、拡大表示したい画像を選ぶ

2 ズームレバーを右（Q）に回す

画像が大きく（1.1～10倍）表示されます。ズームレバーを右（Q）に回し続けると連続的に大きさが変わります。

画像のどの部分を拡大しているかを画面左下のガイド表示の＋マークで確認できます。

ガイド表示

拡大表示中にできる操作

十字キー（▲▼◀▶）	拡大位置を移動
ズームレバー右（Q）	画像を拡大 （最大10倍まで）
ズームレバー左（⊞）	画像を縮小 （最小1.1倍まで）

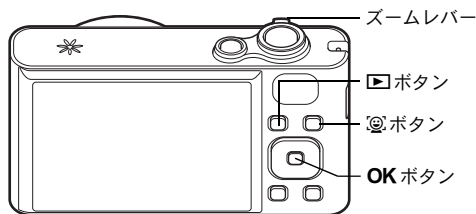
3 OK ボタンを押す

1画面表示に戻ります。

動画は拡大表示できません。

4 画像の再生と消去

被写体の顔を自動的に拡大する（顔アップ再生）

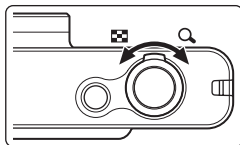
撮影時に顔検出機能が働いて被写体の顔を検出した画像を再生する場合は、[顔アイコン]ボタンを押すだけで、被写体の顔をクローズアップした再生（顔アップ再生）ができます。

1 [再生アイコン]モードで十字キー（◀▶）を押し、拡大表示したい画像を選ぶ

2 画像に[顔アイコン]アイコンが表示されているのを確認し、[顔アイコン]ボタンを押す

メインの顔を中心に、顔アップ再生されます。

撮影時に複数の顔を検出した場合は、[顔アイコン]ボタンを押すたびに、それぞれの被写体の顔を中心にした顔アップ再生が行われます。

顔アップ再生中にできる操作

ズームレバー右（Q）	顔アップ再生されている被写体を中心に、現在の拡大率と同じかやや大きい倍率で表示
ズームレバー左（⊞）	顔アップ再生されている被写体を中心に、現在の拡大率と同じかやや小さい倍率で表示

3 OKボタンを押す。

1画面表示に戻ります。

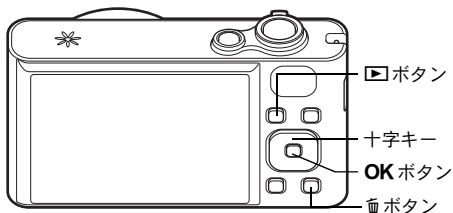
- 動画や動画から切り出された画像は、顔アップ再生できません。
- 顔アップ再生時の拡大倍率は、撮影時に検出された顔の大きさなどの条件によって異なります。
- ペット検出で撮影された画像も、顔アップ再生ができます。

消去する

失敗したり、不要になった画像や音声を消去します。

1画像ずつ消去する

1画像、1音声ずつ消去します。

プロテクトされている画像／音声は消去できません（p.152）。

1 **▶モードで十字キー（◀▶）を押し、消去したい画像／音声を選ぶ**

2 **🗑ボタンを押す**

消去を確認する画面が表示されます。

3 **十字キー（▲▼）で「消去」を選ぶ**

4 **OKボタンを押す**

消去されます。

音声を消去する

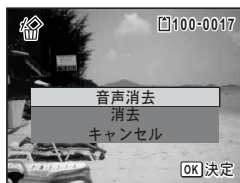
音声（ボイスメモ）付きの画像（p.184）の場合は、画像は消去せずに音声のみを消去することができます。

1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、音声付きの画像を選ぶ

音声付きの画像は♫が表示されています。

2 🗑ボタンを押す

消去を確認する画面が表示されます。

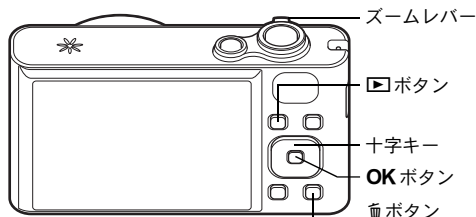
3 十字キー（▲▼）で「音声消去」を選ぶ

4 OKボタンを押す

音声が消去されます。

- 画像と音声の両方を消去するには、手順3で「消去」を選びます。
- 動画の音声だけを消去することはできません。

選択して消去する

4画面表示／9画面表示で複数の画像／音声を選択し、まとめて削除します。

プロテクトされている画像／音声は消去できません（p.152）。

1 **▶モードでズームレバーを左（⊞）に1回または2回回す**

4画面表示または9画面表示になります。

2 **🗑ボタンを押す**

画像／音声に□が表示されます。

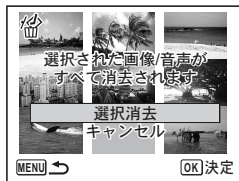
3 **十字キー（▲▼◀▶）で削除する画像／音声に移動し、OKボタンを押す**

画像が選択され、☑が表示されます。
ズームレバーを右（Q）に回すと、回している間だけ選択した画像が1画面表示されるので、削除したい画像かどうかを確認できます（ズームレバーから指を離すと4画面表示／9画面表示に戻ります）。ただし、プロテクトされた画像は1画面表示できません。

4
画像の再生と消去

4 🗑ボタンを押す

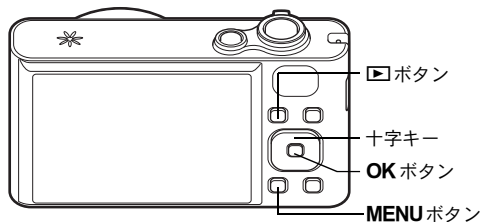
消去を確認する画面が表示されます。

5 十字キー（▲▼）で「選択消去」を選ぶ

6 OKボタンを押す

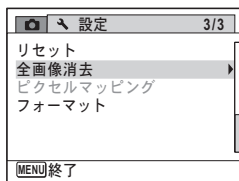
選択した画像／音声が消去されます。

まとめて消去する

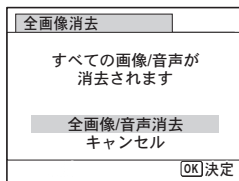
保存されているすべての画像／音声を消去します。

プロテクトされている画像／音声は消去できません（p.152）。

1 ▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▲▼）で「全画像消去」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「全画像消去」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で「全画像/音声消去」を選ぶ

5 OKボタンを押す

すべての画像／音声が消去されます。

消去できないようにする（プロテクト）

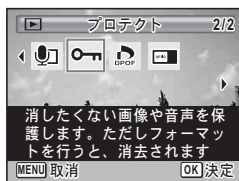
記録した画像／音声を誤って消去しないようにプロテクト（保護）します。

1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、プロテクトする画像を選ぶ

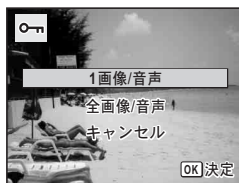
2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

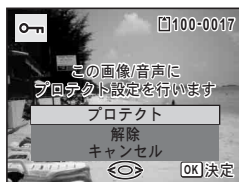
3 十字キー（▲▼◀▶）でO┯（プロテクト）を選ぶ

4 画像の再生と消去

4 OKボタンを押す

1画像/音声／全画像/音声を選択する画面が表示されます。

5 十字キー（▲▼）で「1画像/音声」を選ぶ

6 OKボタンを押す

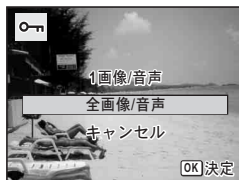
「この画像/音声にプロテクト設定を行います」とメッセージが表示されます。
別の画像／音声をプロテクトする場合は、十字キー（◀▶）で画像／音声を選びます。

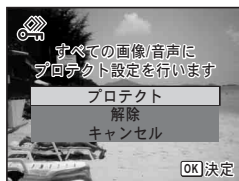
7 十字キー（▲▼）で「プロテクト」を選ぶ

8 OKボタンを押す

選択した画像／音声がプロテクトされ、手順5の画面に戻ります。
他の画像／音声をプロテクトする場合は、手順5～8を繰り返します。
終了する場合は「キャンセル」を選びます。

- プロテクトを解除するときは、手順7で「解除」を選びます。
- プロテクトされた画像／音声は、再生時に⊶が表示されます。
- 「1画像/音声」で続けてプロテクトできる画像／音声は99枚までです。

すべての画像と音声をプロテクトするには

1 **p.153の手順5で「全画像/音声」を選ぶ**

2 **OKボタンを押す**

3 **十字キー（▲▼）で「プロテクト」を選ぶ**

4 **OKボタンを押す**

すべての画像／音声がプロテクトされ、手順1の画面に戻ります。

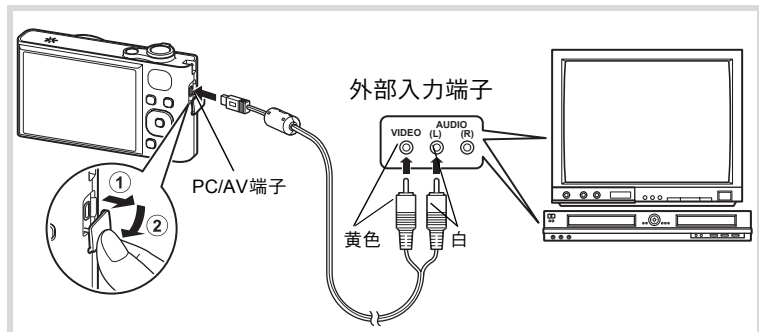
5 **十字キー（▲▼）で「キャンセル」を選び、OKボタンを押す**

再生モードパレットに戻ります。

注意 フォーマットすると、プロテクトされている画像／音声も消去されます（p.188）。

メモ 手順3で「解除」を選ぶと、すべての画像／音声のプロテクト設定が解除されます。

AV機器と接続する

付属のAVケーブル（I-AVC7）を使用すると、テレビなどのビデオ入力端子を備えた機器をモニターにして撮影や再生ができます。

1 AV機器とカメラの電源を切る

2 カメラのPC/AV端子にAVケーブルを接続する

AVケーブル端子の⇦を、カメラの画像モニター側に向けて接続してください。

3 AVケーブルのもう一方の端子を、AV機器の映像入力端子と音声入力端子に接続する

ステレオ音声の機器に接続するときは、音声端子をL（白）に差し込んでください。

4 AV機器の電源を入れる

カメラを接続した機器と画像を映し出す機器が別の場合は、両方の電源を入れます。
複数の映像入力端子があるAV機器（テレビなど）で画像を見る場合は、ご使用のAV機器の使用説明書をご確認の上、カメラを接続している映像入力端子を選択してください。

5 カメラの電源を入れる

- 長時間使用するときは、別売のACアダプターキット（K-AC117J）のご使用をお勧めします（p.37）。
- 国や地域によってはビデオ出力方式が初期設定（「NTSC」）になっていると画像や音声を再生できない場合があります。その場合は、出力方式を「PAL」に切り替えてください（p.198）。
- AV 機器に接続している間は、カメラの画像モニターは表示されません。また、カメラのズームレバーで音量調整はできません。
- AV 機器と接続した場合、リモコン（別売）を使って、画像の送り戻しができます。

AV機器と接続して再生した場合は、通常の解像度で出力されます。1280 30（1280×720・30fps）／1280 15（1280×720・15fps）で撮影した動画をハイビジョンで見たいときは、パソコンへ転送して再生してください（p.207）。

5 画像の編集と印刷

印刷について
このカメラで撮影した画像を印刷するには、次の方法があります。

1 プリントサービス店を利用する
2 SDメモリーカードスロットのあるプリンターを利用して、SDメモリーカードから直接印刷する
3 お手持ちのパソコンのソフトウェアを利用して印刷する

画像のサイズを変更する（リサイズ）

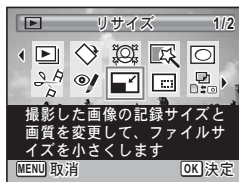
選択した画像の記録サイズを変更して、元の画像よりもファイルサイズを小さくすることができます。SDメモリーカードまたは内蔵メモリーがいっぱいになって撮影できなくなったとき、画像をリサイズして上書きすれば、空き容量が増え、続けて撮影ができます。

注意
- 記録サイズが12M 1:1（3456 × 3456）／2M 16:9（1920 × 1080）で撮影された画像またはパノラマ撮影された画像、動画はリサイズできません。
- 元の画像よりも大きいサイズは選択できません。

1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、リサイズする画像を選ぶ

2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

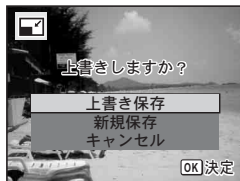
3 十字キー（▲▼◀▶）で（リサイズ）を選ぶ

4 OKボタンを押す

記録サイズを選択する画面が表示されます。

5 十字キー（◀▶）で記録サイズを選択する

6 OKボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

7 十字キー（▲▼）で上書き保存／新規保存を選ぶ

8 OKボタンを押す

リサイズされた画像が保存されます。

画像をトリミングする

画像周囲の不要な部分をカットして、別の画像として保存します。

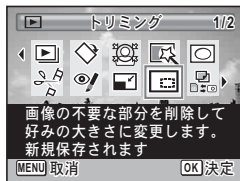
記録サイズが12M 1:1（3456 × 3456）／12M 16:9（4608 × 2592）／2M 16:9（1920 × 1080）で撮影された画像またはパノラマ撮影された画像、動画はトリミングできません。

1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、トリミングする画像を選ぶ

2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で⬚（トリミング）を選ぶ

5 画像の編集と印刷

4　OK ボタンを押す

トリミングを行う画面が表示されます。
画面にはトリミングできる最大の範囲が緑の枠で表示されます。この範囲を越えてトリミングはできません。

5　トリミング範囲を決める

以下の操作で緑の枠を動かして、画面のどの部分をトリミングするか決めます。

ズームレバー	トリミングサイズの変更
十字キー（▲▼◀▶）	トリミング位置の移動
グリーンボタン	トリミング範囲の回転 • 回転できるサイズのときだけボタンが表示されます。

6　OK ボタンを押す

トリミングされた画像が新しいファイル名で保存されます。
トリミング後の記録サイズは、トリミングサイズに応じて自動的に設定されます。

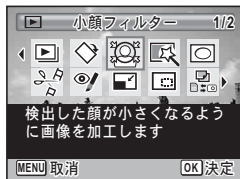
顔が小さく見えるように加工する

撮影時に顔検出機能（p.72）で検出された人物の顔を小さく見えるように加工します。

1　▶モードで十字キー（◀▶）を押し、編集する画像を選ぶ

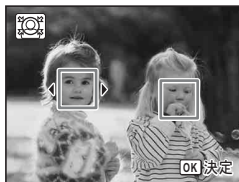
2　十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3　十字キー（▲▼◀▶）で ☺（小顔フィルター）を選ぶ

4 OKボタンを押す

補正できる顔に顔検出枠が表示されます。
検出枠が1つのみの場合は、手順6に進みます。

5 十字キー（▲▼◀▶）で加工する顔を選択する

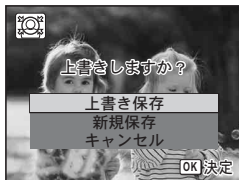
緑色の枠が加工の対象となる顔です。

6 OKボタンを押す

7 十字キー（◀▶）で縮小率を切り替える

- 約5%
- 約7%
- 約10%

8 OKボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

9 十字キー（▲▼）で上書き保存／新規保存を選ぶ

10 OKボタンを押す

▶モードに戻り、加工した画像が表示されます。

以下の場合は、加工できないことがあります。
- 画像に対して顔の占める割合が大きすぎる、または小さすぎる
- 顔が画像の端に写っている

この場合は、手順4で顔検出枠が表示されません。

デジタルフィルターを使う

選択した画像の色調を変えたり、特殊な加工を施します。

白黒	白黒写真のような画像に加工します。
セピア	セピア写真のような画像に加工します。
トイカメラ	トイカメラで撮影したような画像に加工します。
レトロ	古い写真のような画像に加工します。
カラー	選択したカラーフィルターをかけた画像にします。赤／桃／紫／青／緑／黄の6種類のフィルターがあります。
色抽出	特定の色だけを抽出し、他の部分を白黒に加工します。赤／緑／青の3種類のフィルターがあります。
色強調	青空／新緑／花見／紅葉の色彩を強調します。
ハイコントラスト	撮った画像のコントラストの強さを調整します。
トゥインクル	夜景や水面の光の輝きなど、ハイライト部にクロス状の光条などを表現し、キラキラした雰囲気を強調します。クロス／ハート／星の3種類のフィルターがあります。
ソフト	全体をぼかしたようなやわらかい画像に加工します。
明るさ	明るさを調整します。
ミニチュア	画像のボケ具合を操作してミニチュア風の写真に加工します。

パノラマ撮影された画像や動画、他のカメラで撮影した画像はデジタルフィルターで加工できません。再生モードパレットで機能を選択して**OK**ボタンを押すと、エラーメッセージが表示されます。

1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、編集する画像を選ぶ

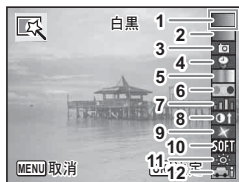
2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3　十字キー（▲▼◀▶）で[icon]（デジタルフィルター）を選ぶ

4　OKボタンを押す

フィルターを選択する画面が表示されます。

1 白黒
2 セピア
3 トイカメラ
4 レトロ
5 カラー
6 色抽出
7 色強調
8 ハイコントラスト
9 トゥインクル
10 ソフト
11 明るさ
12 ミニチュア

選択するフィルターによって、以下に進んでください。

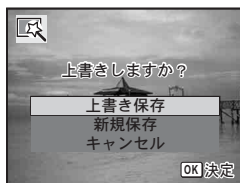
白黒／セピア／ソフトの場合

5 十字キー（▲▼）でフィルターを選ぶ

フィルターに応じた加工結果がプレビュー表示されます。

6 OKボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

7 十字キー（▲▼）で上書き保存／新規保存を選ぶ

8 OKボタンを押す

フィルターで加工された画像が保存されます。

レトロ／カラー／色抽出／色強調／トゥインクルの場合

5 十字キー（▲▼）でフィルターを選ぶ

フィルターに応じた加工結果がプレビュー表示されます。

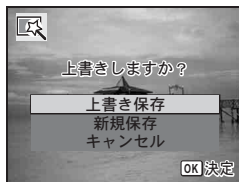
6 十字キー（◀▶）で色を選択する

十字キー（▶）を押すたびに、次のように色が切り替わります。

レトロ	元画像→アンバー→ブルー
カラー	赤→桃→紫→青→緑→黄
色抽出	赤→緑→青
色強調	青空→新緑→花見→紅葉
トゥインクル	クロス→ハート→星

7 OK ボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

8 十字キー（▲▼）で上書き保存／新規保存を選ぶ

9 OKボタンを押す

フィルターで加工された画像が保存されます。

トイカメラ／ハイコントラスト／明るさ／ミニチュアの場合

5 十字キー（▲▼）でフィルターを選ぶ

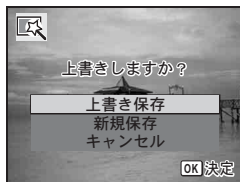
フィルターに応じた加工結果がプレビュー表示されます。

6 十字キー（◀▶）で効果を調整する

	十字キー（◀）	初期設定	十字キー（▶）
トイカメラ	弱	標準	強
ハイコントラスト	弱	標準	強
明るさ	暗い	標準	明るい
ミニチュア	上部	上下	下部

7 OKボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

8 十字キー（▲▼）で上書き保存／新規保存を選ぶ

9 OKボタンを押す

フィルターで加工された画像が保存されます。

赤目を補正する

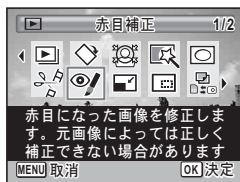
ストロボ撮影で人物の目が赤く写った画像を補正します。

- パノラマ撮影された画像や動画、カメラ側で赤目画像と特定できなかった画像は赤目補正できません。手順4でエラーメッセージが表示されます。
- 赤目補正できるのは、このカメラで撮影した静止画のみです。

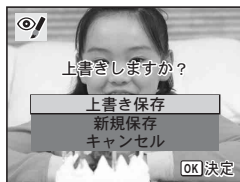
1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、赤目補正する画像を選ぶ

2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で👁（赤目補正）を選ぶ

4 OKボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

5 十字キー（▲▼）で上書き保存／新規保存を選ぶ

6 OKボタンを押す

赤目補正された画像が保存されます。

フレームを合成する

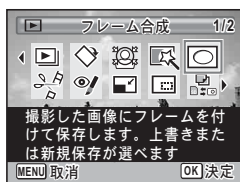
撮影した静止画に、フレーム（飾り枠）を合成します。あらかじめ3種類のフレームが登録されています。

記録サイズが12M 1:1（3456 × 3456）／12M 16:9（4608 × 2592）／2M 16:9（1920 × 1080）で撮影された画像またはパノラマ撮影された画像、動画、3M（2048×1536）より小さいサイズの画像は、フレームが合成できません。手順4でエラーメッセージが表示されます。

1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、フレーム合成する画像を選ぶ

2 十字キー（▼）を押す

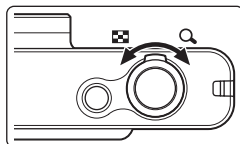
再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で◯（フレーム合成）を選ぶ

4 OKボタンを押す

フレーム選択の9分割画面が表示されます。

5 十字キー（▲▼◀▶）で使用するフレームを選ぶ

6 ズームレバーを右（Q）に回す

選んだフレームが1画面表示されます。
フレームは次の方法で選び直すことができます。

十字キー（◀▶）	別のフレームを選択
ズームレバー左（▣）	フレーム選択の9分割画面に戻り、手順5と同様の操作で別のフレームを選択

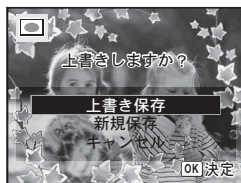
7 OKボタンを押す

画像の位置調整と拡大／縮小を行う画面が表示されます。
次の方法で調整ができます。

十字キー（▲▼◀▶）	画像の位置を調整
ズームレバー	画像の拡大／縮小

8 OKボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

9 十字キー（▲▼）で上書き保存／新規保存を選ぶ

10 OKボタンを押す

フレームが合成された画像が、3M（2048×1536）の記録サイズで保存されます。

オプションのフレーム画像について
付属のCD-ROM（S-SW121）には、オプションのフレームが登録されています。オプションフレームを使用する場合は、CD-ROMからコピーしてください。このオプションフレームは、パソコンから内蔵メモリーのファイルを削除したり、内蔵メモリーをフォーマットすると削除されます。

フレーム画像のコピーのしかた

1 カメラからSDメモリーカードを取り出す

SDメモリーカードがセットされていると、内蔵メモリーではなく、SDメモリーカードにコピーされます。

2 付属のUSBケーブル（I-USB7）でパソコンとカメラを接続する

接続のしかたは、「パソコンと接続する」（p.207）をご覧ください。

3 パソコンにデバイス検出の画面が表示されたら、「キャンセル」をクリックする

4 CD-ROM（S-SW121）をパソコンにセットする

5 インストール画面が表示されたら、「EXIT」をクリックする

6 カメラ（リムーバブルディスク）のルートディレクトリにFRAMEフォルダーがない場合は作成する

7 CD-ROM のルートディレクトリにある FRAME フォルダーから、コピーしたいファイルをカメラ（リムーバブルディスク）のFRAMEフォルダーにコピーする

パソコンのファイル操作については、お使いのパソコンの説明書などをご覧ください。

8 パソコンとカメラからUSBケーブルを外す

「パソコンと接続する」（p.207）を参考にしてください。

フレームは内蔵メモリーとSDメモリーカードの両方に登録できますが、数が多くなると処理に時間がかかる場合があります。

新しく入手したフレームを使う

ペンタックスのホームページなどから入手したフレームを使用して、フレームを合成することもできます。

- ダウンロードしたフレームは、解凍して内蔵メモリーやSDメモリーカードのFRAMEフォルダーにコピーしてください。
- FRAMEフォルダーは、SDメモリーカードを本機でフォーマットすると作成されます。
- ダウンロードの手順などの詳細は、当社ホームページをご覧ください。

動画を編集する

撮影した動画中のひとコマを切り出して静止画として保存したり、動画を分割したりすることができます。

1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、編集する動画を選ぶ

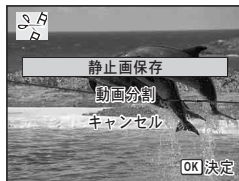
2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で✂（動画編集）を選ぶ

4 OKボタンを押す

編集方法を選択する画面が表示されます。
編集方法によって、以下に進んでください。

5 画像の編集と印刷

動画の1コマを静止画として保存する

5 編集方法を選択する画面で「静止画保存」を選ぶ

6 OKボタンを押す

静止画として保存するコマを選択する画面が表示されます。

7 十字キー（▲▼◀▶）で保存するコマを選ぶ

▲　再生／一時停止
▼　停止して最初のコマに戻る
◀　コマ戻し
▶　コマ送り

8 OKボタンを押す

選択したコマが静止画として保存されます。

動画を分割する

5 編集方法を選択する画面で「動画分割」を選ぶ

6 OKボタンを押す

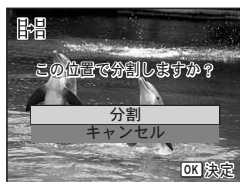
分割位置を選択する画面が表示されます。

7 十字キー（▲▼◀▶）で分割位置を決める

▲　再生／一時停止
▼　停止して最初のコマに戻る
◀　コマ戻し
▶　コマ送り

8 OKボタンを押す

分割位置を確認する画面が表示されます。

9 十字キー（▲▼）で「分割」を選ぶ

10 OKボタンを押す

指定位置で分割された動画がそれぞれ新しいファイル名で保存され、元の動画は削除されます。

プロテクトされている動画は分割できません。

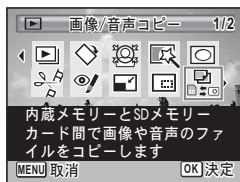
画像／音声をコピーする

内蔵メモリーとSDメモリーカード間で画像／音声をコピーします。カメラにSDメモリーカードが入っていないと、この機能は選択できません。

SDメモリーカードをセットするときや取り出すときは、必ず電源を切ってください。

1 ▶モードで十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で（画像/音声コピー）を選ぶ

3 OKボタンを押す

コピー方法を選択する画面が表示されます。
コピー方法によって、以下に進んでください。

内蔵メモリーからSDメモリーカードにコピーする場合

内蔵メモリー内のすべての画像／音声をSDメモリーカードにコピーします。画像をコピーする前に、SDメモリーカードに充分な空き容量があることを確認してください。

4 十字キー（▲▼）で「● ➡ SD」を選ぶ

5 OKボタンを押す

すべての画像／音声がSDメモリーカードにコピーされます。

SDメモリーカードから内蔵メモリーにコピーする場合

SDメモリーカード内の画像／音声を1つずつ選んで、内蔵メモリーにコピーします。

4 十字キー（▲▼）で「SD ➡ ●」を選ぶ

5 OKボタンを押す

6 十字キー（◀▶）でコピーする画像／音声を選ぶ

7　OK ボタンを押す

選択した画像／音声が内蔵メモリーにコピーされます。
他の画像／音声をコピーする場合は、手順4～7を繰り返します。終了する場合は「キャンセル」を選びます。

- 音声（ボイスメモ）付きの画像は、音声付きのままコピーされます。
- SDメモリーカードから内蔵メモリーにコピーする場合は、新しいファイル名で画像がコピーされます。

DPOFを設定する

DPOF（Digital Print Order Format）とは、デジタルカメラで撮影した静止画に、プリントのための情報を記録するためのフォーマットです。撮影した静止画にDPOFを設定すると、DPOF対応プリンターやプリントサービス店でDPOFの設定に従ったプリントができます。
動画や音声のみのファイルには、DPOF は設定できません。

注意 「日付写し込み」（p.122）で日付／時刻を写し込んだ画像には、DPOF設定で「日付」を☑（オン）にしないでください。☑にすると、日付が重なって印刷されます。

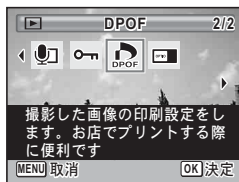
1画像ずつ設定する

各画像ごとに、以下の項目を設定します。

枚数	プリントする枚数を設定します。99枚まで設定できます。
日付	画像に日付をプリントするかしないかを設定します。

1 **▶モードで十字キー（▼）を押す**

再生モードパレットが表示されます。

2 **十字キー（▲▼◀▶）で DPOF（DPOF）を選ぶ**

3 **OKボタンを押す**

設定方法を選択する画面が表示されます。

5 画像の編集と印刷

4 十字キー（▲▼）で「1画像」を選ぶ

5 OKボタンを押す

「この画像にDPOF設定を行います」とメッセージが表示されます。

6 十字キー（◀▶）で画像を選択する

すでにDPOFが設定されている画像は、設定された枚数と日付のオン／オフが表示されます。

7 十字キー（▲▼）でプリント枚数を設定する

8 グリーンボタンで日付の☑／□を切り替える

☑　日付をプリントする
□　日付をプリントしない

他の画像にもDPOFを設定したい場合は、手順6～8を繰り返します。

9 OKボタンを押す

設定が保存され、手順4の画面に戻ります。

注意　プリンターやプリントサービス店のプリント機器によっては、DPOF設定で「日付」をオンにしても日付がプリントされないことがあります。

メモ　DPOF設定を解除する場合は、手順7で枚数を「00」に設定して、**OK**ボタンを押します。

全画像を設定する

カメラに保存されているすべての画像に同じ枚数／日付の設定を適用します。

1 p.177の手順4の画面で「全画像」を選ぶ

2 OK ボタンを押す

「すべての画像にDPOF 設定を行います」とメッセージが表示されます。

3 プリント枚数と日付の☑／□を設定する

設定のしかたは「1画像ずつ設定する」の手順7～8（p.177）をご覧ください。

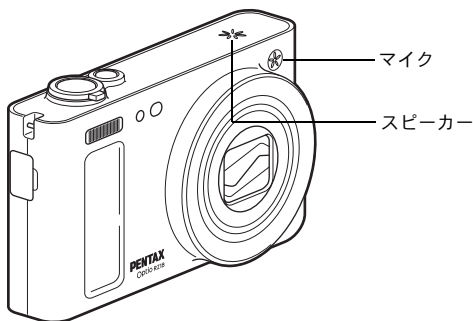
4 OK ボタンを押す

設定した値で全画像の設定が保存され、設定方法を選択する画面に戻ります。

- 「全画像」では、すべての画像に同じプリント枚数が設定されます。プリントをする前に、必ず枚数の設定が正しいか確認してください。
- 「全画像」で設定を行うと、1画像ずつの設定は解除されます。

6 音声の録音と再生

音声を録音する（ボイスレコーディング）

音声を記録します。マイクはカメラ正面にありますので、音声を記録するときは、カメラの向きを調整してください。

ボイスレコーディングを設定する

ボイスレコーディング機能を使用するには、グリーンボタンにボイスレコーディングを登録します。

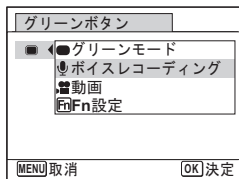
1　◘モードでMENUボタンを押す

「◘撮影」メニューが表示されます。

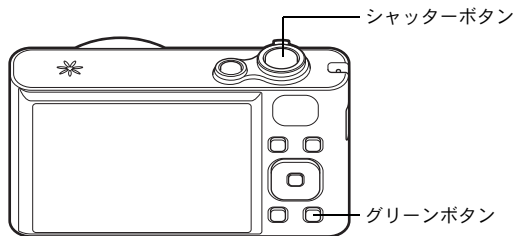
2　十字キー（▲▼）で「グリーンボタン」を選ぶ

3　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4　十字キー（▲▼）で「ボイスレコーディング」を選び、OKボタンを押す

5　MENUボタンを押す

ボイスレコーディング機能がグリーンボタンに登録されます。

音声を録音する

1　📷モードでグリーンボタンを押す

ボイスレコーディングモードになり、画像モニターに録音可能な時間と、これから録音するファイルの録音時間が表示されます。

1 録音時間
2 残り録音可能時間

1　2
01:31:44
00:00:00
SHUTTER スタート

2　シャッターボタンを全押しする

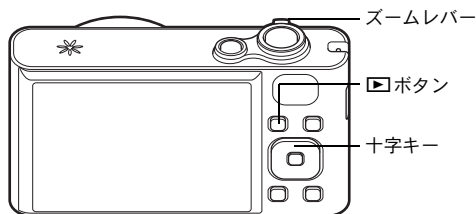
録音が開始されます。録音中は、セルフタイマーランプが点滅します。
録音は連続で18時間まで可能です。
録音中にグリーンボタンを押すと、録音中の音声にインデックスを付けることができます。

3　シャッターボタンを全押しする

録音を停止します。

- 手順2でシャッターボタンを1秒以上押し続けると、シャッターボタンから指を離したときに録音を停止します。短い音を録音したいときに便利です。
- 音声はモノラルのWAVEファイルで記録されます。

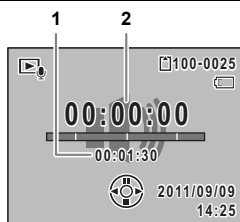
音声を再生する

ボイスレコーディングで録音した音声を再生します。

1 ボタンを押す

2 十字キー（◀▶）で再生したい音声ファイルを選ぶ

3 十字キー（▲）を押す

再生が開始されます。

1 ファイルの総録音時間
2 再生済時間

再生中にできる操作

ズームレバー右（♦）	音量を大きくする
ズームレバー左（♦♦♦）	音量を小さくする
十字キー（▲）	一時停止
十字キー（◀）	（インデックスなし）巻き戻し （インデックスあり）前のインデックス位置から再生
十字キー（▶）	（インデックスなし）早送り （インデックスあり）次のインデックス位置から再生

一時停止中にできる操作

十字キー（▲）	再生を再開
十字キー（◀）	約5秒前に戻る
十字キー（▶）	約5秒先に送る

4 十字キー（▼）を押す

再生が停止します。

画像に音声を付ける（ボイスメモ）

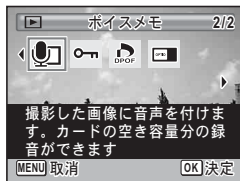
撮影した静止画に音声（ボイスメモ）を付けることができます。

ボイスメモを録音する

1　▶モードで十字キー（◀▶）を押し、ボイスメモを付けたい画像を選ぶ

2　十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

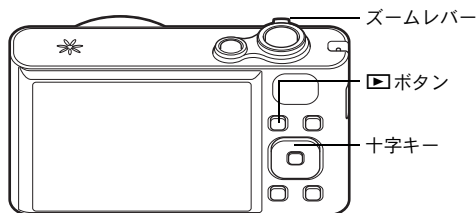
3　十字キー（▲▼◀▶）で🎙（ボイスメモ）を選ぶ

4　OK ボタンを押す

ボイスメモの録音を開始します。ボイスメモは連続で18時間まで録音できます。

5　OK ボタンを押す

ボイスメモの録音が終了します。

- すでにボイスメモが録音されている画像にボイスメモを上書きすることはできません。いったん音声を消去（p.149）してから、もう一度録音してください。
- プロテクトされている画像（p.152）にボイスメモを付けることはできません。

ボイスメモを再生する

1 モードで十字キー（◀▶）を押し、ボイスメモを再生する画像を選ぶ

ボイスメモが録音されている画像は、1画面表示時にが表示されます。

2 十字キー（▲）を押す

録音されたボイスメモが再生されます。

再生中にできる操作

ズームレバー右（♦）	音量を大きくする
ズームレバー左（♦♦♦）	音量を小さくする

3 十字キー（▼）を押す

ボイスメモの再生が停止します。

音声を消去する ☞p.149

7 設定

カメラを設定する

フォーマットする

SDメモリーカードまたは内蔵メモリーに保存されているすべてのデータを消去します。
未使用または他のカメラやデジタル機器で使用したSDメモリーカードは、必ずこのカメラでフォーマットしてからご使用ください。

- SD メモリーカードのフォーマット中は、カードを取り出さないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- フォーマットを行うと、プロテクトされた画像や、このカメラ以外で記録したデータも消去されます。ご注意ください。
- パソコンなどこのカメラ以外の機器でフォーマットされたSDメモリーカードはそのままでは使用できません。必ずカメラでフォーマットしてください。
- SDメモリーカードが挿入されていると、SDメモリーカードがフォーマットされます。内蔵メモリーをフォーマットする場合は、必ずSDメモリーカードを抜いてから操作してください。
- 新しいEye-Fiカードをはじめて使用するときは、カードをフォーマットする前にカード内のEye-Fi Managerのインストールファイルをパソコンにコピーしてからフォーマットしてください。
- フォーマットすると、付属の CD-ROM（S-SW121）からコピーされたオプションフレームも消去されます（デフォルトフレーム3種類は消去されません）。

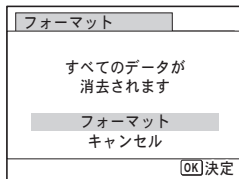
1 ▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▲▼）で「フォーマット」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「フォーマット」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で「フォーマット」を選ぶ

5 OKボタンを押す

フォーマットが開始されます。
フォーマットが終わると、📷モードまたは▶モードに戻ります。

サウンドの設定を変更する

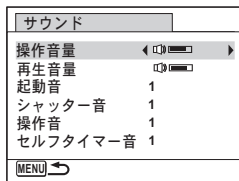
操作音の音量と音の種類を変更できます。

1 ▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▲▼）で「サウンド」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「サウンド」画面が表示されます。

操作音量／再生音量を変更する

4 十字キー（▲▼）で「操作音量」を選ぶ

5 十字キー（◀▶）で音量を調節する

音量を0にすると起動音・シャッター音・操作音・セルフタイマー音は鳴りません。

6　手順4～5と同様の操作で「再生音量」を設定する

音の種類を変更する

4　十字キー（▲▼）で「起動音」を選ぶ

5　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

6　十字キー（▲▼）で音の種類を選ぶ

1／2／3／オフから選択します。

7　OKボタンを押す

8　手順4～7と同様の操作でシャッター音／操作音／セルフタイマー音を設定する

9　MENUボタンを2回押す

📷モードまたは▶モードに戻ります。

日時を変更する

初期設定（p.48）で設定した日付と時刻を変更します。また、カメラに表示する日付の表示形式を設定します。

1　▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2　十字キー（▲▼）で「日時設定」を選ぶ

3　十字キー（▶）を押す

「日時設定」画面が表示されます。

4 十字キー（▶）を押す

選択枠が「年/月/日」に移動します。
初期設定や、前回の設定によっては、月/日/年／日/月/年で表示されていることもあります。

5 十字キー（▲▼）で日付の表示スタイルを選ぶ

年/月/日／月/日/年／日/月/年から選択します。

6 十字キー（▶）を押す

選択枠が「24h」に移動します。

7 十字キー（▲▼）で24h（24時間表示）／12h（12時間表示）を選ぶ

8 十字キー（▶）を押す

選択枠が「表示スタイル」に戻ります。

9 十字キー（▼）を押す

選択枠が「日付」に移動します。

10 十字キー（▶）を押す

日時設定
表示スタイル　年/月/日 24h
日付　▶2011/01/01
時刻　00:00
設定完了
MENU 取消

手順5で設定した表示スタイルに従って、選択枠が下記の項目に移動します。

「年/月/日」の場合　西暦年
「月/日/年」の場合　月
「日/月/年」の場合　日

以下の操作手順や画面は、「年/月/日」に設定した場合です。他の表示スタイルに設定した場合でも、操作方法は同様です。

11 十字キー（▲▼）で西暦年を設定する

12 十字キー（▶）を押す

選択枠が「月」に移動します。十字キー（▲▼）で月を設定します。月を設定後は、同様の操作で日を設定します。

13 手順8～12と同様の操作で時刻を設定する

手順7で「12h」を選択した場合は、時刻調整に連動してAM／PMが切り替わります。

14 十字キー（▼）で「設定完了」を選ぶ

15 OKボタンを押す

日時の設定が保存されます。

メモ

手順15で**OK**ボタンを押すと、0秒にセットされます。時報に合わせて**OK**ボタンを押すと、秒単位まで正確に日時が設定できます。

ワールドタイムを設定する

「日時を設定する」(p.48)や「日時を変更する」(p.190)で設定した日時は、現在地の日時として設定されます。「ワールドタイム」を設定しておくと、海外で使用するとき、画像モニターに目的地として設定した国や地域の日時を表示できます。

目的地を設定する

1　▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー(▶)を1回押します。

2　十字キー(▲▼)で「ワールドタイム」を選ぶ

3　十字キー(▶)を押す

「ワールドタイム」画面が表示されます。

4　十字キー(▲▼)で「✈目的地」を選ぶ

ワールドタイム
時刻切替 ▶ ⌂
✈目的地 DST OFF
東京 14:25
⌂現在地 DST OFF
東京 14:25
MENU ↩

5　十字キー(▶)を押す

「✈目的地」画面が表示されます。現在設定されている都市が地図上で点滅表示されます。

6　十字キー(◀▶)で目的地の都市名を選ぶ

選択した都市の現在時刻・位置・時差が表示されます。

7
設定

7 十字キー（▲▼）で「夏時間」を選ぶ

8 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

目的地が夏時間を採用している場合は、☑にします。

9 OKボタンを押す

目的地の設定が保存され、「ワールドタイム」画面に戻ります。

10 MENUボタンを2回押す

設定した内容で撮影できる状態になります。

メモ　手順4で「⌂現在地」を選ぶと現在地の都市と夏時間を設定できます。

目的地の日時をカメラに表示させる（時刻切替）

1 ▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▲▼）で「ワールドタイム」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「ワールドタイム」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で「時刻切替」を選ぶ

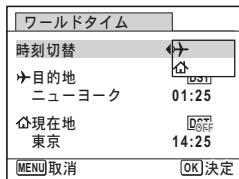
ワールドタイム
時刻切替 ▶ ⌂
✈目的地 DST
ニューヨーク 01:25
⌂現在地 DST OFF
東京 14:25
MENU ⮌

5 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

7 設定

6 十字キー（▲▼）で✈／⌂を切り替える

✈　目的地の都市の時刻を表示
⌂　現在地の都市の時刻を表示

7 OKボタンを押す

設定が保存されます。

8 MENUボタンを2回押す

📷モードまたは▶モードに戻ります。
ワールドタイムに切り替えた場合は、📷モードにしたときに画像モニターに目的地の日時が表示されていることを示す✈アイコンが表示されます。

メニューの文字サイズを設定する

カーソルで選んでいるメニュー項目の文字サイズを、「標準」（通常表示）／「大きい」（拡大表示）から設定できます。

1 ▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードで**MENU**ボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

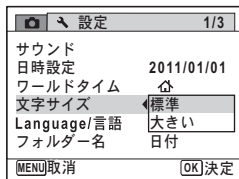
2 十字キー（▲▼）で「文字サイズ」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4　十字キー（▲▼）でメニューの文字サイズを選ぶ

標準／大きいから選択します。

設定	1/3
サウンド	
日時設定	2011/01/01
ワールドタイム	⌂
文字サイズ	標準 / 大きい
Language/言語	
フォルダー名	日付
MENU 取消	OK 決定

5　OKボタンを押す

設定が保存されます。

表示言語を変更する

メニューやエラーメッセージなどに表示される言語を変更します。
英語／フランス語／ドイツ語／スペイン語／ポルトガル語／イタリア語／オランダ語／日本語／デンマーク語／スウェーデン語／フィンランド語／ポーランド語／チェコ語／ハンガリー語／トルコ語／ギリシャ語／ロシア語／タイ語／韓国語／中国語（繁体字/簡体字）に対応しています。

1　▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2　十字キー（▲▼）で「Language/言語」を選ぶ

3　十字キー（▶）を押す

「Language/言語」画面が表示されます。

4　十字キー（▲▼◀▶）で言語を選ぶ

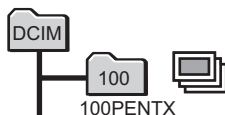
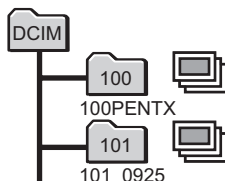
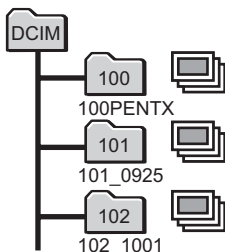
Language/言語		
English	日本語	Türkçe
Français	Dansk	Ελληνικά
Deutsch	Svenska	Русский
Español	Suomi	ไทย
Português	Polski	한국어
Italiano	Čeština	中文繁體
Nederlands	Magyar	中文简体
MENU 取消		OK 決定

5 OKボタンを押す

選択した言語でメニューやメッセージが表示されるようになります。

フォルダー名の付け方を変更する

画像が保存されるフォルダー名の付け方を変更できます。「日付」に設定すると写真は撮影日ごとに違うフォルダーに保存されます。

PENTX	xxxPENTX（xxxは3桁のフォルダー番号）
日付	xxx_mmdd（3桁のフォルダー番号_月日） ※ 日付の表示スタイルが「日/月/年」に設定されている場合は、xxx_ddmm（3桁のフォルダー番号_日月）になります。

1 ▶モードでMENUボタンを押す

「設定」メニューが表示されます。
カメラモードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▲▼）で「フォルダー名」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4 十字キー（▲▼）でPENTX／日付を切り替える

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

7 設定

ビデオ出力方式を選択する

カメラとAV機器を接続して撮影や再生をするときのビデオ出力方式を、NTSCとPALから選択します。

1 ▶モードでMENUボタンを押す

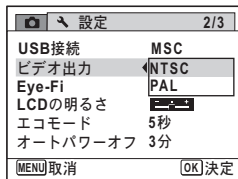
「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▲▼）で「ビデオ出力」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4 十字キー（▲▼）で出力方式を選ぶ

接続するAV機器のビデオ出力方式に合わせて選択します。

📷	🔧 設定	2/3
USB接続	MSC	
ビデオ出力	NTSC	
Eye-Fi	PAL	
LCDの明るさ		
エコモード	5秒	
オートパワーオフ	3分	
MENU 取消		OK 決定

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

国や地域によってはビデオ出力方式が初期設定（「NTSC」）になっていると画像や音声を再生できない場合があります。その場合は、出力方式を「PAL」に切り替えてください。

AV機器と接続する ☞p.155
都市別のビデオ出力方式 ☞p.235

Eye-Fiを設定する

Eye-Fiカードを使って、画像を無線LAN経由で自動的にパソコンなどに転送することができます。転送のしかたについては、「Eye-Fiカードを使って画像を転送する」（p.221）をご覧ください。初期設定は□（オフ）です。

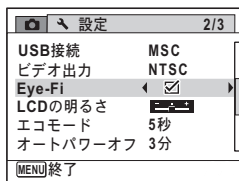
1 ▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▲▼）で「Eye-Fi」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑　Eye-Fi カードを使った通信を開始する
□　Eye-Fiカードを使った通信をしない

📷 🔧 設定	2/3
USB接続	MSC
ビデオ出力	NTSC
Eye-Fi	◀ ☑ ▶
LCDの明るさ	
エコモード	5秒
オートパワーオフ	3分
MENU終了	

4 MENUボタンを押す

📷モードまたは▶モードに戻ります。
画像が、自動的に転送されます。

画像モニターの明るさを設定する

画像モニターの明るさを設定できます。

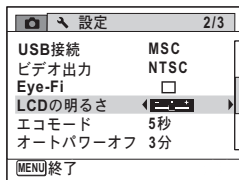
1 ▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▲▼）で「LCDの明るさ」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）で明るさを調整する

暗
標準
明

📷 🔧 設定	2/3
USB接続	MSC
ビデオ出力	NTSC
Eye-Fi	□
LCDの明るさ	◀ ▶
エコモード	5秒
オートパワーオフ	3分
MENU終了	

4 MENUボタンを押す

📷モードまたは▶モードに戻ります。
画像モニターは、設定した明るさになります。

節電機能を使う（エコモード）

一定時間操作しないときに、画像モニターの明るさが自動的に暗くなるように設定することで、バッテリーの消耗を軽減します。節電機能が働き、画像モニターが暗くなった場合は、いずれかのボタン操作をすると、元の明るさに戻ります。

1 ▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードで**MENU**ボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

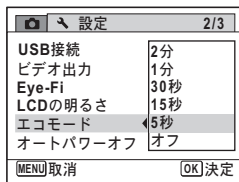
2 十字キー（▲▼）で「エコモード」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4 十字キー（▲▼）でエコモードに切り替わるまでの時間を選ぶ

2分／1分／30秒／15秒／5秒／オフから選択します。

📷 🔧 設定 2/3
USB接続
ビデオ出力
Eye-Fi
LCDの明るさ
エコモード
オートパワーオフ
2分
1分
30秒
15秒
5秒
オフ
MENU 取消 OK 決定

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

- 以下の場合は、エコモードになりません。
  - □（連続撮影）／□L（連写L）／□M（連写M）／□H（連写H）で撮影中
  - 再生モード中
  - 動画撮影中
  - パソコン接続中
  - メニュー表示中
- 「5秒」に設定されている場合、電源を入れた後に何も操作しないと、15秒後にエコモードになります。

オートパワーオフを設定する

一定時間操作しないときに、自動的に電源が切れるように設定できます。

1 ▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▲▼）で「オートパワーオフ」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

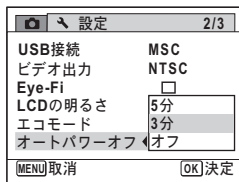
ポップアップが表示されます。

4 十字キー（▲▼）でオートパワーオフになるまでの時間を選ぶ

5分／3分／オフから選択します。

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

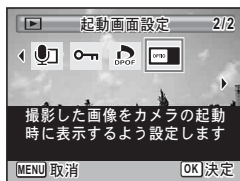
7
設定

以下の場合は、オートパワーオフになりません。
- ボイスレコーディングで録音中
- ⧉（連続撮影）／⧉L（連写L）／⧉M（連写M）／⧉H（連写H）で撮影中
- 動画撮影中
- スライドショウ／動画／音声再生中
- パソコン接続中
- Eye-Fiカードで画像転送中

起動画面を変更する

カメラの電源を入れたときに表示する起動画面を設定します。
起動画面には、次の画像が選択できます。
- 撮影モードとボタンのガイドを表示する「ガイド表示起動画面」
- プリインストール画面（3種）
- 撮影した画像（設定が可能な画像のみ）

1 ▶モードで十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で◼（起動画面設定）を選ぶ

3 OK ボタンを押す

起動画面を選択する画面が表示されます。

4 十字キー（◀▶）で起動画面を選ぶ

起動画面に設定できる画像だけが表示されます。その他に、3種類のプリインストール画面とガイド表示起動画面が選択できます。

7 設定

5 OK ボタンを押す

起動画面が設定されます。

- 設定した起動画面は、元の画像を消去したり、SD メモリーカードや内蔵メモリーをフォーマットしても消去されません。ただし、元の画像を消去した後や、フォーマット後に起動画面を変更すると、その画像は消去されます。
- 「オフ」を選ぶと起動画面は表示されません。
- 再生起動モードで電源を入れたときは、起動画面は表示されません。
- ▮■▮（パノラマ）モードで撮影された画像や動画は起動画面には使えません。

センサー画素の欠けを補完する（ピクセルマッピング）

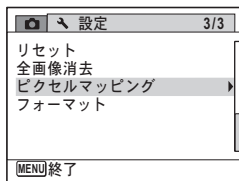
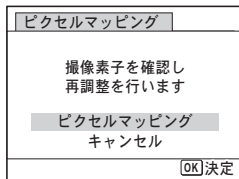
ピクセルマッピングは、CCDの画素に欠けがあった場合に補完処理をする機能です。画像のドットがいつも同じ所で欠けるようになったら、ピクセルマッピングを実行してください。

1 ◘モードでMENUボタンを押し、十字キー（▶）を押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
▶モードで**MENU**ボタンを押したときは、ピクセルマッピングが選択できません。

2 十字キー（▲▼）で「ピクセルマッピング」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「ピクセルマッピング」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で「ピクセルマッピング」を選ぶ

5 OKボタンを押す

補完処理が行われます。

バッテリーの容量が少ない場合、「電池容量がたりないためピクセルマッピングを行えません」と画像モニターに表示されます。ACアダプターキットK-AC117J（別売）を使用するか、容量が十分残っているバッテリーを使用してください。

設定をリセットする

カメラの設定内容を工場出荷時の状態に戻します。リセットされる項目については「初期設定一覧」（p.230）をご覧ください。

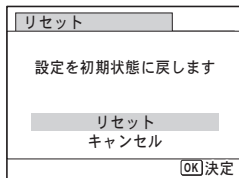
1 ▶モードでMENUボタンを押す

「設定」メニューが表示されます。
モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▲▼）で「リセット」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「リセット」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で「リセット」を選ぶ

5 OKボタンを押す

設定がリセットされます。

以下の設定はリセットされません。

- 日時設定
- ワールドタイム
- Language/言語
- ビデオ出力

8 パソコンと接続する

準備する

本製品に付属するCD-ROMに収録されているソフトウェアをパソコンにインストールし、カメラとパソコンをUSBケーブルで接続すると、撮影した画像や動画をパソコンに転送して閲覧や管理をすることができます。ここでは、付属ソフトウェアのインストールなど、写真と動画をパソコンで楽しむために必要な準備を説明します。

付属ソフトウェアのご紹介

付属のCD-ROM（S-SW121）には、次のソフトウェアが収録されています。

画像閲覧・管理・編集ソフト

Windows

- **「MediaImpression 3.1 for PENTAX」**

Macintosh

- **「MediaImpression 2.1 for PENTAX」**

対応言語：英語／フランス語／ドイツ語／スペイン語／ポルトガル語／イタリア語／オランダ語／スウェーデン語／ロシア語／韓国語／中国語［繁体字／簡体字］／日本語

カメラをパソコンに接続するときは、別売のACアダプターキット（K-AC117J）のご使用をお勧めします（p.37）。画像の転送中にバッテリーが消耗すると、画像データが壊れることがあります。

システム環境

カメラで撮影した画像や動画をパソコンで楽しむには、以下のシステム環境が必要です。

Windows

OS	Windows XP(SP3)／Windows Vista／Windows 7 • 対象OSがプリインストールされたパソコンで、最新のバージョンにアップデートされているもの
CPU	Pentium 4 1.6GHzまたは同等のAMD Athlon （Intel Core 2 Duo 2.0GHzまたは同等のAMD Athlon X2プロセッサを推奨）
メモリ	512MB以上（1GB以上推奨）
ハードディスク空き容量	300MB以上
その他	CD-ROMドライブ USBポート標準搭載 1024 × 768ピクセル、16ビットカラーモニターまたはそれ以上

※すべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。
※推奨環境は、動画の再生・編集をするのに必要な最低環境です。

Windows 95／Windows 98／Windows 98SE／Windows Me／Windows NT／Windows 2000には対応していません。

Macintosh

OS	Mac OS X（Ver.10.3.9, 10.4, 10.5, 10.6, 10.7） • 対象OSがプリインストールされたパソコンで、最新のバージョンにアップデートされているもの
CPU	PowerPC G4 800MHz プロセッサまたは同等のCPU （PowerPC G5またはIntel Core Duoプロセッサを推奨）
メモリ	512MB以上（1GB以上推奨）
ハードディスク空き容量	300MB以上
その他	CD-ROMドライブ USBポート標準搭載 1024 × 768ピクセル、16ビットカラーモニターまたはそれ以上

※すべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。
※推奨環境は、動画の再生・編集をするのに必要な最低環境です。

ソフトウェアのインストール

画像閲覧・管理・編集ソフト「MediaImpression」をインストールします。

- お使いのパソコンに必要なシステム環境を整えてから、インストールしてください。
- 複数のアカウントを設定している場合は、管理者権限でログオンしてからインストールしてください。

Windows

1 パソコンの電源を入れる

2 付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROM／DVDドライブにセットする

インストール画面が表示された場合は、手順5へ進みます。

3 スタートメニューから「コンピュータ」をクリックする

4 CD-ROM／DVDドライブ（S-SW121）のアイコンをダブルクリックする

インストール画面が表示されます。

5 「MediaImpression 3.1 for PENTAX」をクリックし、「設定言語の選択」画面で「日本語」を選択して「OK」をクリックする

セットアップ画面が表示されます。画面の指示に従い、インストール作業を進めてください。

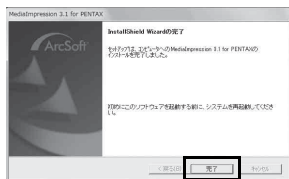
8

パソコンと接続する

6 関連付けるファイル形式を選択し、「次へ」をクリックする

チェックを付けると、その形式のファイルはすべてMediaImpression 3.1 for PENTAXで開きます。他のアプリケーションで開く場合は、クリックしてチェックを外してください。

7 「完了」をクリックする

インストールが完了します。
パソコンを再起動してください。

Macintosh

1 Macintoshの電源を入れる

2 付属のCD-ROM（S-SW121）を、MacintoshのCD-ROM／DVDドライブにセットする

3 CD-ROM（S-SW121）のアイコンをダブルクリックする

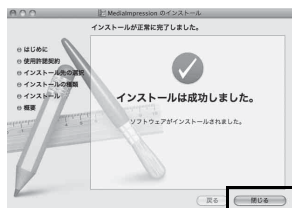
4 「PENTAX Software Installer」のアイコンをダブルクリックする

インストール画面が表示されます。

5 「MediaImpression 2.1 for PENTAX」をクリックする

セットアップ画面が表示されます。画面の指示に従い、インストール作業を進めてください。

6 「閉じる」をクリックする

インストールが完了します。

7 インストール画面の「Exit」をクリックする

画面が閉じます。

ユーザー登録する

お客様へのサービス向上のため、お手数ですがユーザー登録にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

パソコンがインターネットに接続できる環境にあれば、インストール画面で、「ユーザー登録」をクリックします。
右図のような地図画面が表示された場合は、「Japan」をクリックしてください。弊社ホームページのユーザー登録画面が表示されます。画面の指示に従って、登録の作業を行ってください。
ユーザー登録画面が表示されない場合は、下記アドレスから直接アクセスしてください。

https://login.pentax.jp/customer/menu.aspx

カメラのUSB接続モードを設定する

カメラをUSBケーブルで接続するときの接続先を設定します。

必ずパソコンと接続する前に設定してください。USBケーブルでカメラとパソコンが接続された状態では設定できません。

1 カメラの電源を入れる

2 ▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

3 十字キー（▲▼）を押し、「USB接続」を選ぶ

4 十字キー（▶）を押す

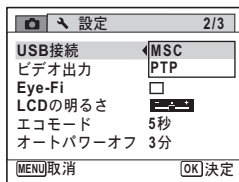
ポップアップが表示されます。

5 十字キー（▲▼）で「MSC」を選ぶ

6 OKボタンを押す

設定が保存されます。

8
パソコンと接続する

MSC（Mass Storage Class）とPTP（Picture Transfer Protocol）

MSC（Mass Storage Class／マスストレージクラス）
コンピュータにUSB接続された機器を、記憶装置として扱うための汎用のドライバプログラムです。USB機器をそのドライバで制御するための規格のことを指すこともあります。
USB Mass Storage Class対応の機器は、接続するだけで、専用のドライバをインストールせずにコンピュータからファイルのコピーや読み書きを行うことができます。

PTP（Picture Transfer Protocol／ピクチャートランスファープロトコル）
USBを通じてデジタル画像の転送やデジタルカメラの制御を行うためのプロトコルで、ISO 15740として国際標準化されています。
PTP対応の機器同士では、デバイスドライバをインストールせずに、画像データの転送を行うことができます。

Optio RZ18では、特に指定が無い限り「MSC」を選択した状態でコンピュータと接続してください。

パソコンと接続する

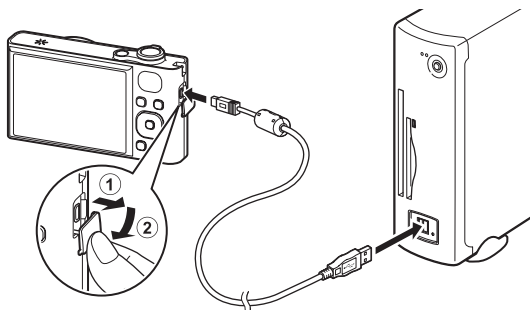
カメラとパソコンを接続する

付属のUSBケーブルで、カメラとパソコンを接続します。

1　パソコンの電源を入れる

2　カメラの電源を切る

3　USBケーブルでカメラとパソコンを接続する

USBケーブルの端子の⇦を、カメラのPC/AV端子の ◀ 側に向けて接続してください。

4　カメラの電源を入れる

Windowsの場合、パソコンに「自動再生」画面が表示されます。
「自動再生」が表示されない場合は、「「自動再生」が表示されない場合」（p.216）の手順に従ってください。
Macintoshの場合、カメラはデスクトップに「NO NAME」として認識されます。

- カメラとパソコンの通信中は、セルフタイマーランプが点滅します。
- Macintoshの場合、SDメモリーカードにボリュームラベルがついていると、「NO NAME」と表示されずにボリュームラベル名が表示されます。フォーマットされていない新しいSDメモリーカードは、メーカー名や型番が表示される場合があります。

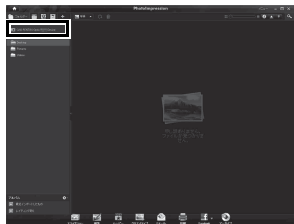
「自動再生」が表示されない場合

1 デスクトップの「MediaImpression」アイコンをダブルクリックする

MediaImpressionが起動し、スタートページが表示されます。

2 「PhotoImpression」をクリックします

3 画面左上の接続されているカメラをクリックする

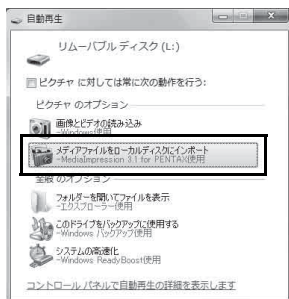
インポート画面が表示されます。以降はp.217の手順6に進んでください。

画像を転送する

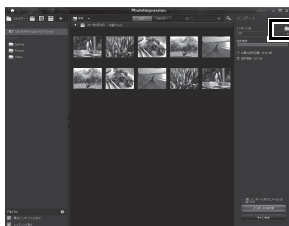
撮影した画像をパソコンにインポートします。

- カメラにSDメモリーカードが入っていない場合は、内蔵メモリーの画像が転送されます。
- Macintoshをお使いの場合は、p.218に進んでください。

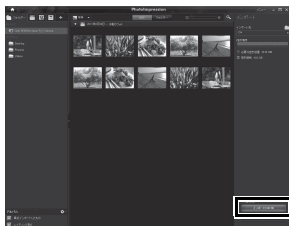
Windows

5 「メディアファイルをローカルディスクにインポート」をクリックする

MediaImpression 3.1 for PENTAXが起動し、インポート画面が表示されます。

6 インポートする画像を選択する

複数選択する場合は、Ctrlキーを押しながら選択します。
インポート先を指定する場合は、フォルダマークをクリックして指定します。

7 「インポート」をクリックする

インポートが完了するとメッセージが出ます。
インポートされた画像には、インポートされたことを表す矢印マークが表示されます。

Macintosh

5 「アプリケーション」フォルダー内の「MediaImpression 2.1 for PENTAX」アイコンをダブルクリックする

MediaImpression 2.1 for PENTAXが起動し、スタートページが表示されます。

6 「インポート」をクリックする

インポート画面が表示されます。以降はp.217の手順6～7を参照してください。

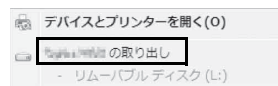
メモ
インポート画面でカメラの画像が表示されない場合は、「メディアの取得元」で「NO NAME」（またはボリュームラベル名）を指定します。

パソコンからカメラを取り外す

Windows

1 タスクバーの（ホットプラグアイコン）をクリックする

2 接続されているカメラの取り出しをクリックする

取り外し許可のメッセージが表示されます。

3 USBケーブルをパソコンとカメラから取り外す

Macintosh

1 **デスクトップの「NO NAME」をゴミ箱にドラッグする**

SDメモリーカードにボリュームラベル名が付いている場合は、その名称のアイコンをゴミ箱にドラッグします。

2 **USBケーブルをMacintoshとカメラから取り外す**

- MediaImpression などのアプリケーションで、カメラ（リムーバブルディスク）を使用中の場合は、アプリケーションを終了しないとカメラを取り外すことはできません。
- カメラまたはパソコンからUSBケーブルを取り外すと、カメラは自動的に再生モードに切り替わります。

MediaImpressionを起動する

MediaImpressionを使用して、画像の表示・編集・管理・検索・共有・印刷ができます。

1 **Windows ではデスクトップの、Macintoshでは「アプリケーション」フォルダー内の「MediaImpression」アイコンをダブルクリックする**

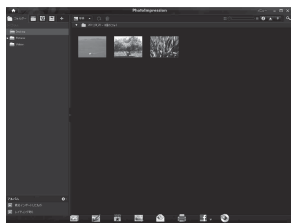
MediaImpressionが起動し、スタートページが表示されます。

2 **「PhotoImpression」をクリックします**

メディアブラウザー画面が表示されます。

* 画面はWindowsのものです。OSや設定によって項目が異なります。

3 **見たい画像が保存されているフォルダーを選び、クリックする**

画像の一覧が表示されます。

4 **見たい画像を選び、ダブルクリックする**

画像の拡大／縮小表示や編集などができます。また動画／音声の再生をすることもできます。

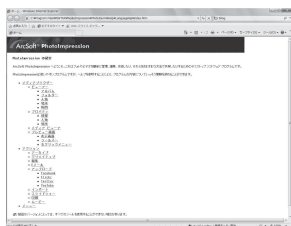
MediaImpressionの詳しい使い方を調べる

MediaImpressionの詳しい使い方は、ヘルプで調べることができます。

1 **Windowsでは画面右上の「メニュー」から「ヘルプ」、Macintoshではメニューバーの「ヘルプ」から「MediaImpressionヘルプ」を選ぶ**

ウェブブラウザでヘルプ画面が表示されます。

2 **調べたい項目をクリックする**

説明が表示されます。

Eye-Fiカードを使って画像を転送する

無線LAN内蔵メモリーカード（Eye-Fiカード）をカメラにセットすると、画像を無線LAN経由で自動的にパソコンなどに転送することができます。

1 Eye-Fiカードに無線LANアクセスポイントや転送先などを設定する

設定のしかたについては、Eye-Fiカード付属の取扱説明書をご覧ください。

2 カメラの電源を切る

3 設定したEye-Fiカードをカメラにセットする

4 カメラの電源を入れる

5 「設定」メニューの「Eye-Fi」を☑（オン）にする

画像が、自動的に転送されます。カメラの設定のしかたは「Eye-Fiを設定する」（p.198）をご覧ください。
画像モニターには次のアイコンが表示されます。

Eye-Fi	Eye-Fi通信中。「Eye-Fi」が☑に設定されていて、通信を行っているかアクセスポイントを探しているとき。
Eye-Fi	Eye-Fi通信待機中。「Eye-Fi」が☑に設定されていて、通信を行っていないとき。
Eye-Fi	Eye-Fi通信禁止。「Eye-Fi」が□に設定されているとき。
Eye-Fi ⚠	Eye-Fiバージョンエラー。Eye-Fiカードのバージョンが古いとき。または、カードがライトプロテクトされている。

- エンドレスモードには非対応です。
- Eye-Fiカードは、最新のファームウェアに更新してご使用ください。

- 新しいEye-Fiカードを始めて使用するときは、カードをフォーマットする前にカード内のEye-Fi Managerのインストールファイルをパソコンにコピーしてからフォーマットしてください。
- 画像は無線LANにより転送されるので、航空機内など無線通信の使用が制限または禁止されている場所では、Eye-Fiカードを使用しないか、Eye-Fi設定を□（オフ）にしてください。
- バージョンの古いEye-Fiカードをカメラにセットすると、エラーメッセージが表示されます。
- 以下の場合は、画像は転送されません。
  - 使用可能な無線LANアクセスポイントが見つからないとき
  - 電池の容量が少ないとき（残量表示が赤色）
- 音声ファイルは転送されません。
- 大量の画像を転送すると、転送に時間がかかる場合がありますので、別売のACアダプターキット（K-AC117J）のご使用をお勧めします。
- 画像の転送中は、オートパワーオフ機能は働きません。
- 大きな動画ファイルなどを転送すると、カメラ内が高温となり、回路保護のために、強制的に電源がオフになることがあります。
- 無線LANによる画像転送を行うには、アクセスポイントの利用とインターネット環境および設定が必要です。詳しくは、ホームページをご覧ください。（http://www.eyefi.co.jp）
- Eye-Fiカードの使用方法は、Eye-Fiカードの使用説明書をご覧ください。
- Eye-Fiカードに関する不具合は、カードの製造元へお問い合わせください。
- このカメラにはEye-Fiカードの通信機能をON／OFFする機能がありますが、Eye-Fiカードのすべての機能を保証するものではありません。
- Eye-Fiカードの使用が認められているのは、カードをご購入された国のみです。使用する国の法律を遵守してください。

9 付録

各撮影モードの機能対応

○：設定できます　×：設定できません　－：設定・変更が反映されません

機能 ＼ 撮影モード		AUTO PICT	P				
ズームレバー	ズーム操作	○*28	○*27	○*1	○*27	○*27	○*1
ボタン	顔検出オン スマイルキャッチ	○	○	○	○	○	○
ボタン	顔検出オフ	×	○	○	○	×	○
ストロボモード	（オート）	○	○	○	×	○	×
ストロボモード	（発光禁止）	○	○	○	○	○	○*4
ストロボモード	（強制発光）	○	○	×	○	○	×
ストロボモード	（オート＋赤目）	○	○	×	×	○	×
ストロボモード	（強制＋赤目）	○	○	×	○	○	×
ドライブモード	（標準）	○	○	○	○	○	○
ドライブモード	（セルフタイマー） （2秒セルフタイマー）	○	○	○	○	○	○
ドライブモード	（リモコン）	○	○	×	○	○	○
ドライブモード	（連続撮影） （連写L／M／H）	○*5	○*5	×	○*5	○*5	×
フォーカスモード	AF（標準） （マクロ）	○	○	○	○	○	○
フォーカスモード	（スーパーマクロ）	○	○	×	○	○	○
フォーカスモード	PF（パンフォーカス）	○	○	○	○	○	○
フォーカスモード	（無限遠）	○	○	×	○	○	○
フォーカスモード	MF（マニュアルフォーカス）	○	○	×	○	○	○
「撮影」メニュー	記録サイズ	○	○	×*7	○	○	○*8
「撮影」メニュー	ホワイトバランス	×*12	○	×*12	○	×*12	○
「撮影」メニュー	AF AFエリア	×*13	○	×*13	○	○	○*14
「撮影」メニュー	AF AF補助光	○	○	×*20	○	○	×*24
「撮影」メニュー	測光方式	×*15	○	×*15	○	×*15	×*15
「撮影」メニュー	感度	○	○	×*16	○	○	×*16
「撮影」メニュー	感度AUTO調整範囲	○	○	—	○	○	×*25
「撮影」メニュー	露出補正	×*18	○	×*18	○	○	○
「撮影」メニュー	D-Range設定	×	○	×	○	○	○
「撮影」メニュー	Shake Reduction	○	○	×*19	○	○	○*21
「撮影」メニュー	まばたき検出	○	○	×*20	○	○	○
「撮影」メニュー	シャープネス 彩度 コントラスト	×	○	×*23	○	×	○
「撮影」メニュー	日付写し込み	○	○	×*24	○	○	×
「撮影」メニュー	超解像	○	○	×*20	○	○	○

*1　インテリジェントズーム不可
*2　光学ズームのみ
*3　（ペット）モードの場合、「スマイルキャッチ」、「顔検出オフ」は設定不可
*4　固定
*5　ShakeReduction の設定が「デュアル」の場合は不可
*6　固定
*7　16M 固定
*8　動画メニューで設定
*9　5M 固定
*10　3M 固定

この一覧表にない撮影メニュー項目は、グリーンモードを除くすべての撮影モードで設定できます。ただし、設定ができても撮影モードや他の設定条件によっては機能が働かない場合があります。詳しくはそれぞれの参照ページをご覧ください。

				WIDE		撮影モード／機能		参照ページ
○*27	○*2	○	○*27	×	○*27	ズーム操作	ズームレバー	p.78
○	○	○	○	○	○	顔検出オン	ボタン	p.72
○*3						スマイルキャッチ		
	○	○	○	○	○	顔検出オフ		
○	○	×	○	○	○	（オート）	ストロボモード	p.102
○	○	○*4	○	○	○	（発光禁止）		
○	○	×	○	○	○	（強制発光）		
○	○	×	○	○	○	（オート＋赤目）		
○	○	×	○	○	○	（強制＋赤目）		
○	○	○	○	○	○	（標準）	ドライブモード	—
○	○	○	○	○	○	（セルフタイマー）		p.92
						（2秒セルフタイマー）		
○	○	○	○	○	○	（リモコン）		p.95
○*5	○*5	×	×	×	×	（連続撮影）		p.93
						（連写L／M／H）		
○	○	×	○	○	○	AF（標準）	フォーカスモード	p.104
						（マクロ）		
○	○	×	○	×	○	（スーパーマクロ）		
○	○	×	○	○	○	PF（パンフォーカス）		
○	○	○*6	○	○	○	（無限遠）		
○	○	×	○	○	○	MF（マニュアルフォーカス）		
○	×*9	○	×*10	×*11	×	記録サイズ	「撮影」メニュー	p.108
×*12	○	×*12	○	○	○	ホワイトバランス		p.112
○	○	×*13	○*14	○	○	AFエリア	AF	p.106
○	○	×*24	○	○	○	AF補助光	AF	p.107
×*15	○	×*15	○	○	○	測光方式		p.114
○	×*16	×*17	○	○	○	感度		p.115
○	×*26	×*17	○	○	○	感度AUTO調整範囲		p.116
○	○	○	○	○	○	露出補正		p.110
○	○	○	○	○	○	D-Range設定		p.111
○	○	○*22	○*22	○*22	○*22	Shake Reduction		p.118
○	○	○	○	×	×	まばたき検出		p.69
×	○	×	○	○	○	シャープネス		p.120
						彩度		p.120
						コントラスト		p.121
○	○	○	○	○	○	日付写し込み		p.122
○	×*24	○	○	×*24	×*24	超解像		p.123

*11　5M固定（1枚撮影時は3M固定）
*12　AWB固定
*13　［　］（マルチ）固定
*14　（自動追尾）不可
*15　（分割測光）固定
*16　AUTO固定
*17　最低感度固定
*18　±0.0固定
*19　「CCDシフト」固定
*20　オン固定
*21　動画メニューの「Movie SR」で設定
*22　「デュアル」は選択不可
*23　標準固定
*24　オフ固定
*25　80-800で自動設定
*26　80-6400で自動設定
*27　光学ズームは常に可、デジタルズームとインテリジェントズームは感度3200／6400を選択した場合に使用不可
*28　デジタルズーム、インテリジェントズーム使用時は花判定になりません

メッセージ一覧

カメラを使用中に、画像モニターに表示されるメッセージには以下のようなものがあります。

メッセージ	内容
電池容量がなくなりました	バッテリーの残量がありません。バッテリーを充電してください（p.33）。
カードの空き容量がありません	SDメモリーカードに容量いっぱいの画像が保存されていて、これ以上画像を保存できません。 新しいSDメモリーカードをセットするか、不要な画像を消去してください（p.39、p.148）。 撮影済み画像の記録サイズを変えると、保存できる可能性があります（p.158）。
カードが異常です	SDメモリーカードの異常で、撮影／再生ともにできません。パソコン上では画像を表示またはコピーできる場合もあります。
内蔵メモリーがフォーマットされていません	内蔵メモリーの内容が壊れています。内蔵メモリーをフォーマットしてください。
カードがフォーマットされていません	フォーマットされていないSDメモリーカードがセットされているか、パソコンなどでフォーマットされたSDメモリーカードがセットされています（p.188）。
カードがロックされています	SD メモリーカードがライトプロテクトされています（p.6）。
圧縮に失敗しました	画像の圧縮に失敗しました。記録サイズを変えて、もう一度撮影または保存してください。
画像/音声がありません	SDメモリーカードに再生できる画像／音声が保存されていません。
動画記録を中止します	動画撮影時にカメラ内部の温度上昇が限界を超えた場合に表示されます。
カメラが高温になりました 電源をオフします	カメラが高温になったため、電源が切れました。しばらくしてから電源を入れてください。
消去中です	画像／音声を消去中に表示されます。
再生できません	このカメラでは再生できない画像／音声を再生しようとしています。他社のカメラやパソコンでは表示できる場合があります。
フォルダーが作成できません	最大のフォルダー番号（999）で最大のファイル番号（9999）が使用されているため、画像を保存できません。新しいSDメモリーカードをセットするか、SDメモリーカードまたは内蔵メモリーをフォーマットしてください（p.188）。
プロテクトされています	プロテクトされた画像／音声を消去しようとした場合に表示されます（p.152）。

メッセージ	内容
記録中です	画像の記録中に▶モードに切り替えようとしたときや、プロテクト／DPOF設定記録中に表示されます。画像または設定の記録が終了したら表示が消えます。
処理中です	画像処理などに時間がかかり5秒以上スルー画像が表示できないとき、またはSDメモリーカード／内蔵メモリーをフォーマット中に表示されます。
内蔵メモリーの空き容量がありません	ファイルを保存するときに、内蔵メモリーの空き容量がない場合に表示されます。
処理できる画像がありません	画像／音声ファイルが1つもない場合に表示されます。
この画像/音声を処理できません	実行できないファイルの場合に表示されます。
カードが入っていません	SDメモリーカードが挿入されていない場合に表示されます。
内蔵メモリーの空き容量が足りません 画像/音声をコピーできません	内蔵メモリーにコピーに必要な空き容量が残っていない場合に表示されます。
正しく処理できませんでした	赤目補正処理に失敗した場合に表示されます。
電池容量がたりないためピクセルマッピングを行えません	ピクセルマッピング時にバッテリー容量が足りない場合に表示されます。バッテリーを充電してから実行するか、ACアダプターキットK-AC117J（別売）を使用してください（p.37）。
このカードには対応していません Eye-Fiバージョンエラーです	Eye-Fiカードのバージョンが古いため、カメラが対応できない場合に表示されます（p.221）。

こんなときは？

現象	原因	対処方法
電源が入らない	バッテリーが入っていない	バッテリーが入っているか確認し、入っていなければ入れてください。
	バッテリーの入れかたを間違えている	バッテリーの挿入方向を確認してください。⊕⊖表示に従ってバッテリーを入れ直してください（p.34）。
	バッテリーの残量がない	バッテリーを充電してください。
画像モニターに何も表示されない	パソコンに接続している	パソコンに接続しているときは、画像モニターは常にオフになります。
	テレビに接続している	テレビに接続しているときは、画像モニターは常にオフになります。
画像モニターの表示が見にくい	画像モニターの明るさが暗く設定されている	「🔧設定」メニューの「LCDの明るさ」で明るさを調整してください（p.199）。
	節電機能(エコモード)が働いている	節電機能が働いていると、一定時間操作しないときに、画像モニターの明るさが自動的に暗くなります。いずれかのボタンを操作すると、元の明るさに戻ります。 「🔧設定」メニューの「エコモード」で「オフ」に設定することで、節電機能が働かないようにすることもできます（p.200）。
シャッターが切れない	ストロボが充電中	ストロボ充電中は撮影できません。充電が完了すると撮影できます。
	SDメモリーカードまたは内蔵メモリーに空き容量がない	空き容量のあるSDメモリーカードをセットするか、不要な画像を消去してください（p.39、148）。
	書き込み中	書き込みが終了するまで待ってください。
撮影した写真が暗い	夜景などの暗い場所で撮るものまでの距離が遠い	被写体までの距離が遠すぎると、撮影した画像が暗くなります。ストロボの光が届く範囲で撮影してください。

現象	原因	対処方法
ピントが合わない	オートフォーカスの苦手なものを撮影しようとしている	いったん撮りたいものと同じ距離にあるピントの合いやすいものにピントを固定（シャッターボタン半押し）したまま、撮りたい構図に変えてシャッターを切ります（p.68）。またはマニュアルフォーカスを使用してください（p.105）。
	AFエリアに被写体が入っていない	画像モニター中央のAFエリアに、ピントを合わせたいものを入れてください。撮りたいものが、AFエリアにない場合は、いったん撮りたいものをAFエリアに入れて、ピントを固定（シャッターボタン半押し）したまま、撮りたい構図に変えてシャッターを切ります。
ストロボが発光しない	ストロボの発光方法が⊛になっている	⚡A（オート）／⚡（強制発光）に設定してください（p.102）。
	ドライブモードが⧉／⧉L／⧉M／⧉H、フォーカスモードが▲、撮影モードが🎥／❋になっている	これらのモードではストロボは発光しません。

静電気などの影響により、まれにカメラが正しい動作をしなくなることがあります。このような場合には、バッテリーを入れ直してみてください。入れ直してから再度、電源を入れてカメラが正常に動作すれば故障ではありませんので、そのままお使いいただけます。

初期設定一覧

工場出荷時の設定を表に示します。
各メニュー項目の中で、初期設定値があるものの表示内容を示します。

ラストメモリ設定

する　：カメラの電源を切っても現在の設定（ラストメモリ）が保存される
しない：カメラの電源を切ると初期設定に戻る
※　　：する／しないは「モードメモリ」（p.131）の設定による
—　　：該当なし

リセット設定

する　：リセット（p.204）で初期設定に戻る
しない：リセットしても設定が保存される
—　　：該当なし

●「撮影」メニュー項目

名称		初期設定	ラストメモリ設定	リセット設定	参照
記録サイズ		16M（4608×3456）	する	する	p.108
ホワイトバランス		AWB（オート）	※	する	p.112
AF	AFエリア	〔　〕（マルチ）	する	する	p.106
	AF補助光	☑（オン）	する	する	p.107
測光方式		（分割）	※	する	p.114
感度		AUTO	※	する	p.115
感度AUTO調整範囲		80～800	※	する	p.116
露出補正		±0.0	※	する	p.110
動画	記録サイズ	1280 30（1280×720・30fps）	する	する	p.129
	Movie SR	☑（オン）	する	する	p.130
D-Range設定	ハイライト補正	□（オフ）	する	する	p.111
	シャドー補正	□（オフ）	する	する	
Shake Reduction		CCDシフト	する	する	p.118
まばたき検出		☑（オン）	する	する	p.117
デジタルズーム		☑（オン）	※	する	p.80
クイックビュー		☑（オン）	する	する	p.119

9 付録

名称		初期設定	ラストメモリ設定	リセット設定	参照
モードメモリ	顔検出モード	□（オフ）	する	する	p.131
	ストロボモード	☑（オン）	する	する	
	ドライブモード	□（オフ）	する	する	
	フォーカスモード	□（オフ）	する	する	
	ズーム位置	□（オフ）	する	する	
	MF位置	□（オフ）	する	する	
	ホワイトバランス	□（オフ）	する	する	
	感度	□（オフ）	する	する	
	露出補正	□（オフ）	する	する	
	測光方式	□（オフ）	する	する	
	デジタルズーム	☑（オン）	する	する	
	DISPLAY	□（オフ）	する	する	
	ファイルNo.	☑（オン）	する	する	
グリーンボタン		グリーンモード	する	する	p.123
シャープネス		（標準）	する	する	p.120
彩度		（標準）	する	する	p.120
コントラスト		（標準）	する	する	p.121
日付写し込み		オフ	する	する	p.122
超解像		☑（オン）	する	する	p.123

●「設定」メニュー項目

名称		初期設定	ラストメモリ設定	リセット設定	参照
サウンド	操作音量	3	する	する	p.189
	再生音量	3	する	する	
	起動音	1	する	する	
	シャッター音	1	する	する	
	操作音	1	する	する	
	セルフタイマー音	1	する	する	
日時設定	表示スタイル（日付）	初期設定による	する	しない	p.48 p.190
	表示スタイル（時間）	24h	する	しない	
	日付	2011/1/1	する	しない	
	時刻	初期設定による	する	しない	
ワールドタイム	時刻切替	⌂（現在地）	する	する	p.193
	目的地（都市）	初期設定による	する	しない	
	目的地（夏時間）	□（オフ）	する	しない	
	現在地（都市）	初期設定による	する	しない	
	現在地（夏時間）	□（オフ）	する	しない	
文字サイズ		標準	する	しない	p.195
Language/言語		初期設定による	する	しない	p.44 p.196
フォルダー名		日付	する	する	p.197
USB接続		MSC	する	する	p.213
ビデオ出力		初期設定による	する	しない	p.198
Eye-Fi		□（オフ）	する	する	p.198
LCDの明るさ			する	する	p.199
エコモード		5秒	する	する	p.200
オートパワーオフ		3分	する	する	p.201
リセット		キャンセル	—	—	p.204
全画像消去		キャンセル	—	—	p.151
ピクセルマッピング		キャンセル	—	—	p.203
フォーマット		キャンセル	—	—	p.188

● **再生モードパレット項目**

名称		初期設定	ラストメモリ設定	リセット設定	参照
スライドショウ	表示間隔	3秒	する	する	p.141
	画面効果	ワイプ	する	する	
	効果音	オン	する	する	
画像回転		正位置	—	—	p.143
小顔フィルター		7%	しない	しない	p.160
デジタルフィルター		白黒	しない	—	p.162
フレーム合成		デフォルト1	する	する	p.167
赤目補正		—	—	—	p.166
動画編集	静止画保存	—	—	—	p.171
	動画分割	—	—	—	
リサイズ	記録サイズ	元画像による	—	—	p.158
トリミング		元画像による	—	—	p.159
画像/音声コピー		内蔵メモリー → SDカード	—	—	p.173
ボイスメモ		—	—	—	p.184
プロテクト	1画像/音声	画像/音声による	—	—	p.152
	全画像/音声	画像/音声による	—	—	
DPOF設定	1画像	枚数：0枚	—	—	p.176
	全画像	日付：オフ	—	—	
起動画面設定		起動画面1	する	する	p.202

● キーによる操作

<table>
<tr><th colspan="2">名称</th><th>機能</th><th>初期設定</th><th>ラストメモリ設定</th><th>リセット設定</th><th>参照</th></tr>
<tr><td colspan="2">▶ボタン</td><td>動作モード</td><td>▶モード</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">ズームレバー</td><td>ズーム位置</td><td>広角端</td><td>※</td><td>しない</td><td>p.78</td></tr>
<tr><td rowspan="4">十字キー</td><td>▲</td><td>ドライブモード</td><td>□（標準）</td><td>※</td><td>する</td><td>p.92
p.93</td></tr>
<tr><td>▼</td><td>撮影モード</td><td>AUTO PICT（オートピクチャー）</td><td>する</td><td>する</td><td>p.69</td></tr>
<tr><td>◀</td><td>ストロボモード</td><td>⚡A（オート）</td><td>※</td><td>する</td><td>p.102</td></tr>
<tr><td>▶</td><td>フォーカスモード</td><td>AF（標準）</td><td>※</td><td>する</td><td>p.104</td></tr>
<tr><td colspan="2">MENUボタン</td><td>メニュー表示</td><td>撮影モード：
「📷メニュー」
再生モード：
「🔧メニュー」</td><td>—</td><td>—</td><td>p.57</td></tr>
<tr><td colspan="2">OK/DISPLAY
ボタン</td><td>情報表示</td><td>標準</td><td>※</td><td>する</td><td>p.22</td></tr>
<tr><td colspan="2">顔検出ボタン</td><td>動作モード</td><td>顔検出オン</td><td>※</td><td>する</td><td>p.72</td></tr>
</table>

都市名一覧

都市名：初期設定（p.44）やワールドタイム（p.193）で設定できる都市
ビデオ出力方式：初期設定で設定した都市のビデオ出力方式

地域	都市名	ビデオ出力方式
北米	ホノルル	NTSC
	アンカレジ	NTSC
	バンクーバー	NTSC
	サンフランシスコ	NTSC
	ロサンゼルス	NTSC
	カルガリー	NTSC
	デンバー	NTSC
	シカゴ	NTSC
	マイアミ	NTSC
	トロント	NTSC
	ニューヨーク	NTSC
	ハリファックス	NTSC
中南米	メキシコシティ	NTSC
	リマ	NTSC
	サンティアゴ	NTSC
	カラカス	NTSC
	ブエノスアイレス	PAL
	サンパウロ	PAL
	リオデジャネイロ	NTSC
ヨーロッパ	リスボン	PAL
	マドリード	PAL
	ロンドン	PAL
	パリ	PAL
	アムステルダム	PAL
	ミラノ	PAL
	ローマ	PAL
	コペンハーゲン	PAL
	ベルリン	PAL
	プラハ	PAL
	ストックホルム	PAL
	ブダペスト	PAL
	ワルシャワ	PAL
	アテネ	PAL
	ヘルシンキ	PAL
	モスクワ	PAL
アフリカ・西アジア	ダカール	PAL
	アルジェ	PAL
	ヨハネスブルグ	PAL

地域	都市名	ビデオ出力方式
アフリカ・西アジア	イスタンブール	PAL
	カイロ	PAL
	エルサレム	PAL
	ナイロビ	PAL
	ジッダ	PAL
	テヘラン	PAL
	ドバイ	PAL
	カラチ	PAL
	カブール	PAL
	マーレ	PAL
	デリー	PAL
	コロンボ	PAL
	カトマンズ	PAL
	ダッカ	PAL
東アジア	ヤンゴン	NTSC
	バンコク	PAL
	クアラルンプール	PAL
	ビエンチャン	PAL
	シンガポール	PAL
	プノンペン	PAL
	ホーチミン	PAL
	ジャカルタ	PAL
	香港	PAL
	北京	PAL
	上海	PAL
	マニラ	NTSC
	台北	NTSC
	ソウル	NTSC
	東京	NTSC
	グアム	NTSC
オセアニア	パース	PAL
	アデレード	PAL
	シドニー	PAL
	ヌーメア	PAL
	ウェリントン	PAL
	オークランド	PAL
	パゴパゴ	NTSC

別売アクセサリー一覧

本機には、別売アクセサリーとして以下の製品が用意されています。（※）の製品は同梱品と同じものです。

● **電源関連**

充電式リチウムイオンバッテリー D-LI92（※）

バッテリー充電器キット K-BC92J（※）
（バッテリー充電器 D-BC92・ACコード D-CO24Jのセット）

ACアダプターキット K-AC117J
（ACアダプター D-AC115・DCカプラー D-DC92・ACコード D-CO24Jのセット）

バッテリー充電器とACアダプターは、キットでのみ販売しております。

● **ケーブル類**

USBケーブル I-USB7（※）

AVケーブル I-AVC7（※）

● **ストラップ**

O-ST104（※）

O-ST8	シルバーに輝くチェーンストラップです。
O-ST24	本革を使ったリッチなレザーストラップです。
O-ST81	防水加工を施したストラップです。

● **リモートコントロール**

防水リモートコントロール O-RC1

リモートコントロール E

リモートコントロール F

主な仕様

型式	ズームレンズ内蔵全自動コンパクトタイプデジタルスチルカメラ	
有効画素数	約1600万画素	
撮像素子	1/2.33型CCD	
記録画素数	静止画	16M（4608×3456）、12M 1:1（3456×3456）、 12M 16:9（4608×2592）、7M（3072×2304） 2M 16:9（1920×1080）、640（640×480）（ピクセル）
	※ 高感度時は5M固定 ※ フレーム合成時は3M固定 ※ デジタルワイド時は5M固定（合成後） 　ただし1枚撮影時（合成前）は3M固定 ※ パノラマ撮影時は1枚2M固定 ※ 感度3200／6400設定時は5M固定 ※ 連写L／M／H時は5M固定	
	動画	1280 30（1280×720・30fps）、1280 15（1280×720・15fps） 640 30（640×480・30fps）、640 15（640×480・15fps） 320 30（320×240・30fps）、320 15（320×240・15fps） （ピクセル・フレームレート）
感度	AUTO（ISO 80、100、200、400、800、1600） マニュアル（ISO 80、100、200、400、800、1600、3200、6400） ※ 高感度モード時はAUTO（ISO 80～6400）固定	
記録方式	静止画	JPEG（Exif2.3準拠）、DCF2.0準拠、DPOF対応、 PRINT Image Matching III対応
	動画	AVI（MotionJPEG準拠）、約30fps／約15fps（フレーム／秒）、PCM方式・モノラル音声付、Movie SR（動画手ぶれ補正）
	音声	ボイスメモ、ボイスレコード：WAV（PCM）方式、モノラル
記録媒体	内蔵メモリー（約96MB）、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカード、Eye-Fiカード	

撮影枚数と時間

静止画

	内蔵メモリー	2GB SDメモリーカード
16M 4608×3456	32枚	653枚
12M 1:1 3456×3456	42枚	853枚
12M 16:9 4608×2592	42枚	853枚
7M 3072×2304	60枚	1205枚
2M 16:9 1920×1080	175枚	3415枚
640 640× 480	683枚	12294枚

- 撮影枚数は、未使用の内蔵メモリーやSDメモリーカードに記録した場合の目安です。この他に動画や音声などが記録されていると、撮影枚数は少なくなります。またSDメモリーカードや被写体により実際の撮影枚数が異なることがあります。

動画・音声

	内蔵メモリー	2GB SDメモリーカード
1280 30 （1280×720・30fps）	30秒	10分8秒
1280 15 （1280×720・15fps）	59秒	19分42秒
640 30 （640×480・30fps）	1分27秒	29分16秒
640 15 （640×480・15fps）	2分46秒	53分55秒
320 30 （320×240・30fps）	2分13秒	44分32秒
320 15 （320×240・15fps）	4分5秒	1時間18分48秒
音声	26分14秒	8時間44分34秒

- この数値は、当社で設定した標準撮影条件によるもので、被写体、撮影状況、使用するSDメモリーカードなどにより変わります。また他に静止画などが記録されていると、記録時間は短くなります。
- 動画は連続で内蔵メモリー／SDメモリーカードの容量いっぱい、または大容量のSDHCカード／SDXCメモリーカードを使用した場合は、最大で2GBまで撮影可能です。2GB撮影終了後に、再度撮影をし直すことで、引き続き2GBずつ、残りの容量を撮影することができます。

ホワイトバランス	オート、太陽光、日陰、白熱灯、蛍光灯、マニュアル	
レンズ	焦点距離	4.5～81mm （焦点距離の35mm換算値：約25～450mm相当）
	F値	F3.5（W）～F5.9（T）
	レンズ構成	11群12枚（非球面レンズ4枚使用）
	ズーム方式	電動式
光学ズーム	18倍	
インテリジェントズーム	7M （3072 × 2304）時 約27倍、640 （640 × 480）時 約130倍 （光学ズームと合わせたズーム倍率）	

デジタルズーム	最大約7.2倍（光学18倍ズームと合わせ、最大約130倍ズーム相当のズーム倍率）	
手ぶれ軽減	静止画	CCDシフト方式（SR：Shake Reduction）、デュアル（SR×電子式併用）、高感度によるぶれ軽減（高感度モード）
	動画	電子式（Movie SR）
画像モニター	3型 約46万ドットLCD	
再生機能	1コマ、4画面、9画面、拡大（最大10倍まで、スクロール可）、顔アップ再生、フォルダー表示、カレンダー表示、音声再生、ヒストグラム表示、選択消去、スライドショウ、画像回転、小顔フィルター、デジタルフィルター、フレーム合成、動画再生・編集（静止画保存、分割）、赤目補正、リサイズ、トリミング、画像/音声コピー、ボイスメモ、プロテクト、DPOF、起動画面設定	
フォーカスモード	オートフォーカス、マクロ、スーパーマクロ、パンフォーカス、無限遠、マニュアルフォーカス	
フォーカス	方式	撮像素子によるTTLコントラスト検出方式 9点AF（マルチ／スポット／自動追尾切替可）
	フォーカス範囲	標準　：0.4m～∞（広角時） 　　　　1.3m～∞（望遠時） マクロ　：0.1～0.5m（広角時） スーパーマクロ　：0.04～0.3m（広角時） ※ パンフォーカス、遠景、マニュアルフォーカス切替可 ※ 顔検出中のみ、顔検出AF可
	フォーカスロック	シャッターボタン半押しによる
露出制御	測光方式	撮像素子によるTTL測光（分割、中央重点、スポット）
	露出補正	±2EV（1/3EVステップで設定可能）
顔検出	最大32人まで検出可（画像モニターに表示される顔検出枠は最大31個）、スマイルキャッチ、まばたき検出 ※顔検出中のみ、顔検出AE可	
ペット検出	1匹（オート、または登録した3匹から選択可能）	
撮影モード	オートピクチャー、プログラム、ポートレート、夜景ポートレート、夜景、動画、風景、青空、夕焼け、花、スポーツ、ペット、高感度、美肌、キッズ、花火、フレーム合成、パーティー、料理、キャンドルライト、テキスト、サーフ＆スノー、デジタルワイド、パノラマ、グリーン	
デジタルフィルター	白黒、セピア、トイカメラ、レトロ（ブルー、アンバー）、カラー（赤、桃、紫、青、緑、黄）、色抽出（赤、緑、青）、色強調（青空、新緑、花見、紅葉）、ハイコントラスト、トゥインクル、ソフト、明るさ、ミニチュア	
動画	連続録画時間	約1秒～内蔵メモリー／SDメモリーカードの容量いっぱいまで（ただし最大で2GBまでの制限あり）
シャッタースピード	1/2000～1/4秒、最長4秒（夜景モード）	

内蔵ストロボ	発光モード	自動発光、発光禁止、強制発光、自動発光+赤目軽減、強制発光+赤目軽減
	調光範囲	広角時 約0.2～4.3m （感度AUTOの条件において） 望遠時 約1.3～2.6m （感度AUTOの条件において）
ドライブモード	1コマ撮影、セルフタイマー撮影（約10秒後、約2秒後）、リモコン撮影（即、約3秒後）、連続撮影、連写（L／M／H）	
セルフタイマー	電子制御式、制御時間：約10秒、約2秒	
時計機能	ワールドタイム	世界75都市に対応（28タイムゾーン）
電源	専用リチウムイオンバッテリーD-LI92、ACアダプターキット（別売）	
電池寿命	撮影可能枚数 約240枚	※撮影可能枚数はCIPA規格に準じた測定条件による目安であり、使用条件により変わります。（CIPA規格抜粋：画像モニター ON、ストロボ使用率50％、23℃）
	再生時間 約230分	※時間は当社の測定条件による目安であり、使用条件により変わります。
	動画撮影時間 約100分	
	音声録音時間 約300分	
外部インターフェイス	USB 2.0（ハイスピード対応）／PC/AV端子	
ビデオ出力方式	NTSC／PAL（モノラル音）	
外形•寸法	約108（幅）× 60（高）× 34.5（厚）mm（操作部材、突起部を除く）	
質量（重さ）	本体約170g（バッテリー、SDメモリーカード含まず） 約191g（バッテリー、SDメモリーカード含む）	
主な付属品	専用バッテリー、バッテリー充電器、ACコード、USBケーブル、AVケーブル、ソフトウェア（CD-ROM）、ストラップ、使用説明書、簡単ガイド、保証書	

索引

記号

数字

A

D

E

F

I

さ行

た行

9
付録

な行

は行

ま行

や行

ら行

わ行

アフターサービスについて

1. 本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満1年間無料修理致しますので、お買い上げ店か使用説明書に記載されている当社サービス窓口にお申し出ください。修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口に直接お持ちください。修理品ご送付の際は、輸送中の衝撃に耐えられるようしっかり梱包し、発送や受け取りの記録が残る宅配便などをご利用ください。不良見本のサンプルや故障内容の正確なメモを添付していただけると原因分析に役立ちます。

2. 保証期間中［ご購入後1年間］は、保証書［販売店印および購入年月日が記入されているもの］をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社サービス窓口へお届けいただく諸費用はお客様にてご負担願います。また、販売店と当社間の運賃諸掛りにつきましても、輸送方法によっては一部ご負担いただく場合があります。

3. 次の場合は、保証期間中でも無料修理の対象にはなりません。
   - 使用上の誤り（使用説明書記載以外の誤操作等）により生じた故障。
   - 当社の指定するサービス機関以外で行われた修理・改造・分解による故障。
   - 火災・天災・地変等による故障。
   - 保管上の不備（高温多湿の場所、防虫剤や有害薬品のある場所での保管等）や手入れの不備（本体内部に砂・ホコリ・液体かぶり等）による故障。
   - 修理ご依頼の際に保証書のご提示、添付がない場合。
   - お買い上げ販売店名や購入日等の記載がない場合ならびに記載事項を訂正された場合。

4. 保証期間以降の修理は有料修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましてもお客様のご負担とさせていただきます。

5. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に保有しております。従って本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても修理可能の場合もありますので、当社サービス窓口にお問い合わせください。

6. 海外でご使用になる場合は、国際保証書をお持ちください。国際保証書は、お持ちの保証書と交換に発行いたしますので、使用説明書記載のお客様窓口にご持参またはご送付ください。［保証期間中のみ有効］

7. 保証内容に関して、詳しくは保証書をご覧ください。

ペンタックスホームページアドレス　http://www.pentax.jp/

本製品に関するお問い合わせは・・・

http://www.pentax.jp/japan/support/

＜PENTAX　お客様相談センター＞
ナビダイヤル　0570-001313
［市内通話料金でご利用いただけます］
ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、
TEL 03-3960-3200（代）にお掛け下さい。
FAXでのお問い合わせ　03-3960-4976

営業時間　**9：00～18：00（平日）**
10：00～17：00（土・日・祝日）
休業日　年末年始およびビル点検日

修理のご相談受付窓口　宅配便・郵送による修理受付は・・・

http://www.pentax.jp/japan/support/repair.html

＜PENTAX　東京サービスセンター＞　**営業時間　9：00～17：30**
〒174-0041　東京都板橋区舟渡1-12-11
ヘリオスⅡビル３Ｆ
（土・日・祝日および弊社休業日を除く）
TEL　03-3960-5140　FAX　03-3960-5147

＜PENTAX　大阪サービスセンター＞　**営業時間　9：00～17：00**
〒542-0081　大阪市中央区南船場1-17-9
パールビル２Ｆ
（土・日・祝日および弊社休業日を除く）
TEL　06-6271-7996　FAX　06-6271-3612

修理品のお引き取りを依頼される場合は・・・

＜ペンタックスピックアップリペアサービス＞
全国（離島など、一部の地域を除く）どこからでも電話一本でペンタックス指定の宅配業者がお客様のご指定の日時・場所に梱包資材を持って不具合品を引き取りにお伺いし、専門修理スタッフが修理を行って、お客様のご指定の場所に完成品をお届けするサービスです。（全国一律料金）※修理受付後のお問い合わせは、東京サービスセンターにて承ります。

フリーダイヤル　**0120-97-0405**
受付時間　平日　8：00～21：00
土・日・祝日・年末年始　9：00～18：00

ショールーム・ギャラリー・修理受付

＜ペンタックスフォーラム＞　**営業時間　10：30～18：30**
〒163-0690　東京都新宿区西新宿1-25-1
新宿センタービルMB（中地下１階）
休業日　毎週火曜日、年末年始およびビル点検日
TEL　03-3348-2941（代）　FAX　03-3345-8076

ペンタックスリコーイメージング株式会社
〒 174-8639 東京都板橋区前野町 2-35-7

☆仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

54521
R02AYJ11
Printed in Indonesia